ＳＰＳ研究所の株式投資支援システム

スピードマスター・プロ

（ 操作方法と指標の解説　　）

（ 投資理論と運用マニュアル ）

- Version 2.0 –

Windows 版

ＳＰＳ研究所

ホームページ　　http://spsnet.jp
メールアドレス　spsnet@spsnet.jp

―――― 目次 ――――

本システムのご利用にあたって……5
本システムの特徴……6
本システムで利用できる指標……7
本システム投資概念……8

画面の操作および解説……9
〔15〕スタート画面……11
メインフォーム画面……12

操作・解説	ウィンドウ	設定
株価データ	相場観測	持株管理
コメント	チャート印刷	質問メール
メモ帳	銘柄データリスト	転換銘柄リスト
お申し込み	ホームページ	終了

各表示リスト……22
〔02〕日足チャート画面……28
〔03〕週足チャート画面……31
〔04〕個別銘柄指数……32
〔05〕銘柄検索画面……36
〔06〕お気に入り画面……43
その他の処理……44

分析指標の解説……47

相場観測指数	ポジション比率	相場水準指数
過熱度指数	相場ゾーン指数	業績水準指数
株価水準指数	(売)(買)マーク	上昇ゾーン・下降ゾーン
売・買転換マーク	目標値・抵抗線	売買シグナル
ベクトル指数	予測チャート	トレンドライン
周期チャート	プロフィットチャート	
転換チャート	異常値・超異常値	ミステリーマーク

注意事項……69
回線接続のトラブル……70

ＳＰＳ研究所の株式投資理論……73
株式投資に対する考え方……76
投資の知識……76
株式投資の問題点……77
損失の方程式……80
リスクについて……80
投資とストレス……80
利益を求めて……81

本システムの売買法　〔実践編〕 83
株式投資の基本 85
１.「相場観測」 85
２.「銘柄選択」 85
３.「売買タイミング」 86

売買の実践 88
1.相場の方向性の確認 88
2.ポジション比率の確認 88
3.資金の分割・分散 89
4.銘柄選択の基準 89
5.仕掛け 91
6.決済 95
7.最終手仕舞い 95
一般的な売買法 96

システム売買について 97
システム売買の概念 99
本ステムによるシステム売買の特徴 100
本ステムによるシステム売買法 100
本システムによるシステム売買の手順のまとめ 102
システム売買のシミュレーション結果 102
注意点 103

本システムの売買法　〔応用編〕 105
売買シグナル 107
空売り 108
決済手段 110
仕掛け後の処理 111
周期性を利用した売買法 114
予測チャートを利用した売買法 116
異常値・超異常値を利用した売買法 117

売買の手順 119

おわりに 120

本システムのご利用にあたって

「スピードマスター・プロ」は、株式投資において短期的な売買を目的として設計された投資家のための最高レベルの「投資家支援システム」です。「スピードマスター・プロ」は、当研究所が長年の研究開発により、その技術の粋を結集し従来のシステムにはない新たな分野の株式分析手法を取り入れた独自の株式分析システムです。

株式投資の必須アイテムである「相場観測」「銘柄選択」「売買タイミング」の機能をすべて兼ね備えており、これらのシステムを十分に活用することによって投資パフォーマンスの向上がはかれます。分析指標をチャート化することにより、株価の変動等を視覚的に捉えることができ、また個別銘柄の詳細な分析指標によりあらゆる角度からの分析が可能となります。

本システムは従来の汎用型の分析システムと異なり、売買においてすべてルールが定められている専用型の分析システムであることを十分ご理解ください。本システムの指標は従来使用されている一般的な指標は一切使用せず、すべて洗練された高度な売買手法を採用しています。これらオリジナル指標はすべて過去データの検証を経て、相場の上昇期、下降期においても有効と認められた指数のみを採用しています。そのため本システムの売買手法には難解な部分が多くありますので理解できるまで本解説書を熟読いただきたいと思います。

本システムについて不明な点などはご遠慮なくお問い合わせください。責任を持ってサポートいたします。本システムを完全にマスターされるまでは必ず模擬売買(シミュレーション)を行い、十分納得いただいてから実践に入るようお願いいたします。

また当システム内の「コメント」欄におきましても運用方法や売買技法等を随時解説してまいります。サポートには万全の体制をとっておりますので、本システムをご理解頂けるまで安心してご利用いただけると思います。

以上、本システムは斬新なアイデアと検証に裏づけされた分析指標により、投資家の株式投資活動に十分なお手伝いができるものと確信しております。売買技法は投資家の財産であり、これらを活用することにより今後の投資活動に大いに貢献できるものと考えます。

ご利用上の注意

本システムは、従来の分析ソフトと異なり投資家自身が任意で判断して使用する指標は一切ありません。一般的な株式分析ソフトには移動平均線などの日数を投資家自身が任意に設定できるシステムがありますが、本システムではこれらの考え方による手法は一切使用しておりません。すべてあらゆる相場展開に対応できる固定値の指標を採用しています。このように従来の分析ソフトとは一線を画し独自の手法をとっていますので、理解頂くまでには多少の時間を要すると思います。そのため理解が進まないままに投資家自身の判断で売買されることは絶対に避けてください。不明な点は必ずお問い合わせください。

本システムは、株式投資家のための「株式投資支援システム」であり、最終的な投資判断は投資家自身で行ってください。

本システムの特徴

東証、大証、店頭全銘柄(約 4500 銘柄)のチャート表示および個別銘柄の詳細な分析指標が提供されます。本システムの分析の基本は、株価の変動を二次元の概念で捉えた分析手法を基本としています。二次元とは縦軸(株価の上下の変動)と横軸(株価の変動周期)との関係から株価の変動を捉える分析手法です。

本システムに採用されている分析指標は、すべて当研究所のオリジナル指数です。これらオリジナル指数はすべて過去１０～２０年の検証を経て、相場の上昇期、下降期においても有効と認められた指数のみを採用しています。そのため指数などはすべて固定値となっています。また株式投資の必要アイテムはすべて兼ね備えており、これらのシステムを十分に活用することによって投資パフォーマンスの向上がはかれます。

分析指標をチャート化することにより、株価の変動等を視覚的に捉えることができます。また精度の高い多様な分析指標により、あらゆる角度からの分析が可能となります。

相場の必勝法である「損は小さく早めに処分する、利益はできるだけ大きく取る」。この「損小利大」の投資原則に忠実な売買システムです。しかも短期的な売買が可能です。損切り基準が明確に指示されているため売買ルールに従い売買することにより、相場で儲けることのできない原因である「塩漬け投資」から解放されます。

<< 特徴 >>

相場全体の方向性(トレンドフォロー)を捉え、その相場の流れに沿った売買を行う手法を取り入れています。また、投資の基本である「損小利大」の理論に基づいた売買ができるよう構築されています。

１．仕掛けから決済までの期間が非常に短期間である。
２．仕掛け（売り、買い）のタイミングが明確に指示されている。
３．「上昇ゾーン」「下降ゾーン」によりトレンドの判定が明確である。
４．「適用ランク」により銘柄選択が容易にできる。
５．「適用ランク」の本日転換銘柄により仕掛けタイミングが分かる。
６．決済や追加仕掛けが明確に指示されている。
７．損切りの指示が明確に指示されている。
８．相場観測指数等により相場の方向性が確認できる。
９．ポジション比率により相場に沿った資金配分ができる。
１０．すべてにおいて売買ルールが確立されている。

本システムで利用できる指標および機能

１）短期売買の仕掛け・決済が明確に表示される……「（買）（売）マーク」
２）株価の転換が明確に判定できる……「上昇ゾーン、下降ゾーン」
３）売買に適した銘柄をランキングした……「適用ランク」
４）短期的な買い、売り転換銘柄を示す……「本日の買い、売り転換銘柄」
５）今後の注目銘柄を示す……「本日の買い、売り注目銘柄」
６）適正な資金配分を示す……「ポジション比率」
７）売買タイミングのわかる……「売買シグナル」
８）買付け水準を示す……「下値抵抗線」
９）決済水準および空売り水準を示す……「目標値」
１０）高値、安値が確認できる……「ベクトルチャート」
１１）今後の株価の方向性がわかる……「プロフィットチャート」
１２）今後の株価を予測する……「予測チャート」
１３）株価の変動サイクルがわかる……「周期チャート」
１４）トレンドの転換点がわかる……「転換チャート」
１５）急騰・急落銘柄が検索できる……「異常値シグナル」
１６）現在の株価の方向がわかる……「トレンドライン」
１７）相場全体が上昇か下降かの判定をする……「相場観測指数」
１８）現在の相場水準を判定する……「相場水準指数」
１９）相場の過熱度を判定する……「過熱度指数」
２０）大局的な相場のゾーンを判定する……「相場ゾーン指数」
２１）売買に適している銘柄を判定する……「適正度指数」
２２）株価の現在の位置をはかる……「株価水準指数」
２３）業績の水準を示す……「業績水準指数」
２４）段階的に絞り込んでワンタッチで検索できる……「クイック検索」
２５）あらゆる角度から検索できる……「複合検索機能」
２６）ランキングの検索ができる……「ランキング検索機能」
２７）売り、買い銘柄、上昇、下降ゾーン銘柄検索ができる……「売買、上昇・下降ゾーン検機能」
２８）株価変動の大きなうねりを捉えることができる……「上昇・下降転換マーク」

上記の指標の中で、当研究所が特にお奨めする指標は「適用ランク」「上昇・下降転換マーク」「上昇ゾーン、下降ゾーン」「目標値」「下値抵抗線」「相場観測指数」「相場水準指数」等です。

以上のように、独自性のある検証に裏づけされた最高レベルの株式投資支援システムです。

本システムの投資概念

株式投資において、その投資手法は数多くありますが投資家の目的は売買において「利益を上げる」ということが共通の目的であると思います。
相場上昇期には「買い」を、相場下降期には「空売り」をすることが株式投資で利益を上げる基本です。これらの反対の売買では利益を上げることは無理です。投資家であれば誰でも知っていることです。しかし、これらの判定を行なうことは非常に難しいテーマでもあります。本システムではこれらの難しい相場の方向性を的確に、しかも明確に数値による判定を行なっています。これらは過去の膨大なデータによる検証により可能としています。相場の方向性がわからずして、どのようなテクニカル分析指標を駆使しても相場で収益を上げることは困難であると考えます。「相場の流れに沿った売買(トレンドフォロー)」が株式投資で勝利する原点であると思います。

相場においての確率（勝率）は長期スパンで考えると、「その確率（勝率）は限りなく５０％に近づく」ということになります。これらは膨大なデータの検証でも証明されています。これらの「相場の確率は５０％に回帰する」ということを投資家自身が受け入れなければ株式投資で成功するためのスタートラインにつくことはできません。これらは相場の世界は「ゼロサムゲーム」といわれる所以です。

ところで「確率が５０％」では利益がでないのではないかという疑問がわいてきます。確かに「確率が５０％」では利益がでないと思いますが、ただひとつだけ利益を上げる方法があります。相場に必勝法があるとすれば、まさしくこの手法が「必勝法」と言えると思います。
それは「損小利大」の考え方です。つまり「損は小さく、利益は大きく」の売買手法です。「それができれば誰も苦労はしないよ」と言われそうですが、何と言われようと相場で利益を上げる方法はこの手法以外にはないのです。勝率を追求する手法はナンセンスです。株式投資は、「損小利大」の考えの上に基づいたテクニカル分析であり、ファンダメンタル分析であることを十分認識した上で売買していただきたいと考えるものです。

株式投資は、できるだけ客観的な立場に立って「ビジネス」と割り切って実践すべきです。これらの投資に対する意識を変えることによって将来の大きな利益に繋がっていくと思います。
本システムでは、主観的、感情的な売買を防ぐために「数値による判断」を取り入れ、すべてにおいて売買ルールが定められています。

本システムは短期売買を目的として構築されており、理論的な裏付けはもとより過去の膨大な検証により裏付けされたデータベースを採用し構築された従来にない画期的なシステムです。
本システムは相場に対して主観的にならず、常に客観的な立場からすべて「数値による判断」をポリシーとして作成されています。また、株式投資をビジネスして捉え、これらの考えのもとに本システムが構築されております。

当研究所では、株式投資で成功するためには「相場流れに沿った売買」「損小利大の売買法」が原点であると考え、これらに基づいた株式分析システムを提供しています。本システムをご利用されるに当たっては、その趣旨を十分理解された上で正しくご利用いただきたいと思います。

■　画面の操作および解説　■

画面の操作および解説

操作画面
本システムで表示される画面は、下記の内容で構成されています。

〔01〕メインフォーム
〔02〕日足チャート
〔03〕週足チャート
〔04〕個別銘柄指数
〔05〕銘柄検索/本日の注目銘柄
〔06〕お気に入り銘柄
〔07〕-----
〔08〕-----
〔09〕質問メール
〔10〕操作・解説
〔11〕持株管理
〔12〕株価データ
〔13〕エラー
〔14〕設定
〔15〕スタートアップ
〔16〕コメント
その他　メモ帳

〔15〕スタートアップ画面----------

本システムを起動すると「スタートアップ画面」が立ち上がります。

パスワードを入力し「ＯＫ」ボタンをクリックしてスタートします。
パスワードは必ずキーボードより小文字で入力します。貼り付けは不可。
正常に起動できない場合、または接続が遅い場合は「回線接続のトラブル」を参照ください。

〔01〕メインフォーム画面および〔02〕日足チャート画面

〔01〕メインフォーム画面

〔02〕日足チャート画面

〔01〕メインフォーム画面----------

メインフォ―ムは画面上部に位置し、メニューバーおよび各リストが表示してあります。

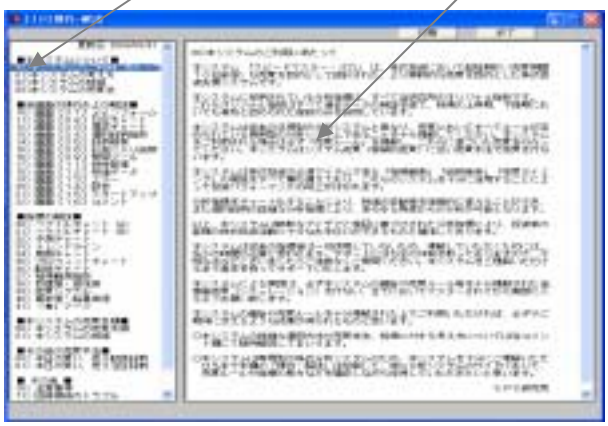
「メニューバー」　メインフォーム画面の最上部に位置し必要な項目を選択できます。

希望の項目をクリックする

「操作・解説」「ウィンドウ」「設定」「株価データ」「相場観測」「持株管理」「コメント」「チャート印刷」「質問メール」「メモ帳」「銘柄データリスト」「転換銘柄リスト」「お申し込み」「ホームページ」「終了」の項目が選択できます。

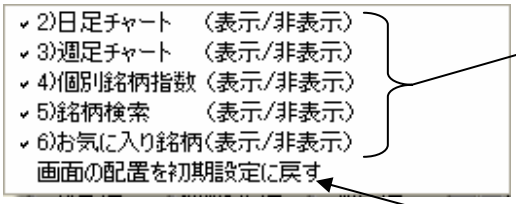
<<操作・解説>>

項目を選択する　　内容が表示される



本システムの操作方法やその解説が掲載されていますので必ずお読みください。

<<ウィンドウ>>　　この画面での日足チャート、週足チャート、個別銘柄指数、銘柄検索、お気に入り銘柄、各画面の表示・非表示の設定変更はできません。
「画面の配置を初期設定に戻す」ことはできます。



変更できない

〔重要〕
日足チャートや週足チャート、個別銘柄画面、検索画面等が表示されなくなった場合に「画面の配置を初期設定に戻す」をクリックすることにより画面配置を初期状態に戻ります。

<<設定>>　　チャートの種類、色、各指標等の表示・非表示などの設定をします。
目標値・抵抗線の表示・非表示の設定をします。「お気に入り銘柄」のタイトルを入力します。タイトルは東証、大証、店頭ごとに３項目入力できます。
画面の配置を初期設定値に戻すことができます。
これらの設定を有効にするには「設定」ボタンをクリックします。

日足チャート
チャート表示の種類を「ローソク足」「バーチャート」「折れ線グラフ」の中から選択します。チェックを入れて設定します。

週足チャート
チャート表示の種類を「ローソク足」「バーチャート」「折れ線グラフ」 の中から選択します。チェックを入れて設定します。

ベクトルチャート（A)

ベクトルチャート（A）の表示/非表示を選択します。初期設定では非表示です。チェックを入れて設定します。

ベクトルチャート（B)

ベクトルチャート（B）の表示/非表示を選択します。初期設定では非表示です。チェックを入れて設定します。

予測チャート

予測チャートの表示/非表示を選択します。初期設定では非表示です。チェックを入れて設定します。

トレンドライン

トレンドラインの表示/非表示を選択します。初期設定では表示です。チェックを入れて設定します。

トレンドライン期間

トレンドラインの「表示する」を選択した場合、短期・中期・長期のトレンドライン期間を設定します。初期設定では「長期」に設定してあります。チェックを入れて設定します。

ラインカラー

各々のチャートラインの色を設定します。

①「ライン（ベクトルチャート（A)等）」を選択します。

②色指定のボックスから希望の色を選択しクリックします。

③指定された色がボックスに登録されます。

以上の手順で順次設定していきます。

画面配置

モニターに表示されている画面設定配置を初期設定に戻します。操作中、エラー等で画面配置が乱れたり、表示できなくなった場合に使用します。「設定」画面自体が表示できなくなった場合は、メインフォームメニューバーの「ウィンドウ」からも設定可能です。

目標値・抵抗線の表示

目標値および抵抗線をどのような状況時に表示するか設定します。チェックを入れて設定します。

①「全部表示」目標値・抵抗線（A)(B)(C)を全部表示します。但し、この場合「目標値・抵抗線（C)」は目標値④および抵抗線③のみの表示です。

②「強のみ表示」目標値および抵抗線の（A)(B)(C)の内、現在の株価に一番影響度が高いと思われる目標値および抵抗線を自動的に選択され表示します。

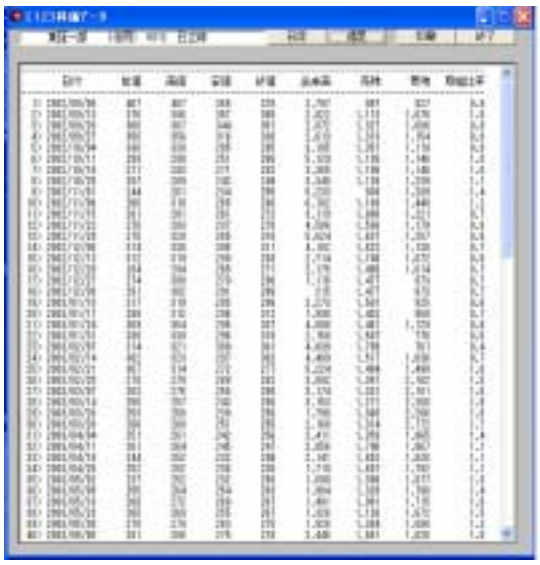
③「Aのみ表示」短期の目標値および抵抗線である（A)のみを表示します。短期売買の場合は通常「Aのみ表示」でよろしいと思います。初期設定は「Aのみ表示」で設定。

お気に入りタイトル

「お気に入り銘柄」画面のタイトルを入力します。たとえば「注目銘柄」「業績上昇銘柄」等・・・。東証、大証、店頭市場ごとにA)、B)、C)と３タイトルの入力できます。初期タイトル名「無題」を書き換えて入力します。

設定が完了しましたら「設定」ボタンをクリックします。

<<株価データ>>　　表示された銘柄の日足の株価および出来高。週足の株価および出来高、信用残、取組比率が表示されます。



○日足: 日足データ６ヶ月分の４本値および出来高を表示します。

○週足: 週足データ２年分の４本値および出来高、買残、売残、取組比率を表示します。

<<相場観測>>　　相場観測指数およびその他の指標をＴＯＰＩＸと共にチャート表示します。本システム起動時に表示されます。

長期相場観測指数（緑色）　短期相場観測指数（赤色と水色）　過熱度指数

相場水準指数（緑色）　ポジション比率指数（灰色）　相場ゾーン指数（赤色、青色、緑色）

短期相場観測指数

「相場観測」をクリックすると日足チャート上に赤色と青色でグラフ表示してあります。灰色の部分はシステム上の問題で灰色となっています。無視してください。株式投資を行うにあたって「短期相場観測指数」は非常に重要な指数です。日々確認してください。

短期相場観測指数は、短期的な相場の上昇、下降の判定を行う指数です。指数が上向きであれば短期的に相場が上昇傾向であると判断できます。また指数が下向きであれば短期的に相場が下降傾向であると判断できます。短期相場観測指数が直近のボトムより３ポイント以上上昇したら「上昇転換」、直近のトップより３ポイント以上下降したら「下降転換」と判断します。「上昇転換」は赤色。「下降転換」は青色。短期相場観測指数は、０～１００の範囲で変動します。これらの指数により現在の短期的な相場の位置がわかります。チャート上にマウスを当てることにより指数を読み取ることができます。

長期相場観測指数

「相場観測」をクリックすると日足チャート上に緑色でグラフ表示してあります。個別銘柄の日足チャート画面には暗い緑色で表示されます。「長期相場観測指数」は、週足チャート上にも表示されます。長期相場観測指数は、長期的な相場の上昇、下降の判定を行う指数です。大きなうねりを捉え、指数が上向きであれば長期的に相場が上昇傾向であると判断できます。また指数が下向きであれば長期的に相場が下降傾向であると判断できます。相場の大きなトレンドを判定する上で非常に重要な指標となります。長期相場観測指数は、０～１００の範囲で変動します。これらの指数により現在の長期的な相場の位置がわかります。チャート上にマウスを当てることにより指数を読み取ることができます。

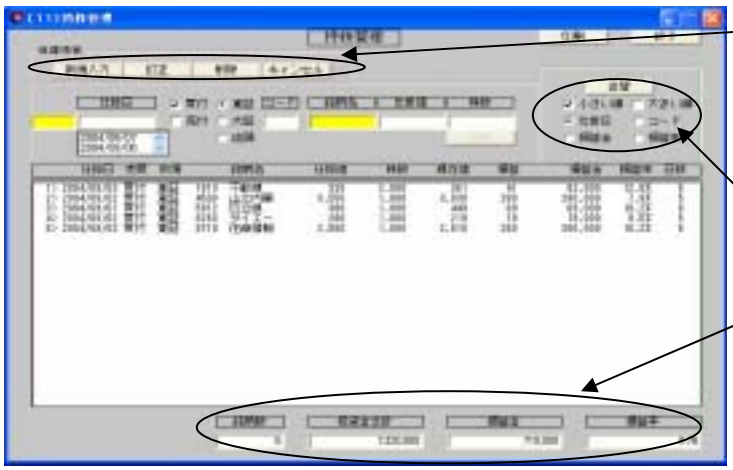
ポジション比率指数
「相場観測」をクリックすると日足チャート上に灰色でグラフ表示してあります。［ポジション比率］は中期的な「相場観測指数」としても利用できます。買い銘柄、売り銘柄をこれらの比率で売買することによりヘッジの役割を果たし安全な運用が可能となります。ポジション比率指数は、０～１００の範囲で変動します。チャート上にマウスを当てることにより、指数を読み取ることができます。

相場水準指数
「相場観測」をクリックすると日足チャートの下の部分に緑色でグラフ表示してあります。
「相場水準指数」は、現在の相場がどの水準に位置しているかを判定した指数です。
「天井エリア」「上昇エリア」「下降エリア」「大底エリア」の４つのエリアに分けてあります。主に天井、大底の確認にご利用下さい。

過熱度指数
相場の過熱度を表した指数です。現在の水準は黄色いバーと赤丸で表示されています。黄色いバーと赤丸が上位に向かうほど相場は上昇し過熱状態と判断できます。反対に黄色いバーと赤丸が下位に向かうほど相場は下降し冷え切った状態と判断できます。

相場ゾーン指数
相場水準指数が表示されているエリアの中央に赤色や緑色、青色のラインが表示されています。これらは大局的な相場のゾーンを表しています。赤色は、高値上昇ゾーン。緑色は、ニュートラルゾーン。青色は、安値下降ゾーン。他の相場指標と組み合わせて総合的にご判断下さい。

<<持株管理>>　持ち株の登録や訂正、削除を行います。持ち株の合計の成績を表示します。各項目の並び替えができます。登録された銘柄は「メインフォーム」の「持株リスト」に表示されます。登録された持ち株の仕掛け,値は日足チャート上に表示されます。



「新規入力」ボタン・・新規に仕掛け銘柄を登録します。

①「新規入力」ボタンをクリックします。
②「仕掛日」を入力します。「日付ボックス」の中から該当する日付をクリックして入力します。手入力でも入力できます。
③「買付」または「売付」にチェックマークを入れます。
④該当する市場をチェックします。
⑤証券コードを入力します。銘柄名が表示されます。
⑥仕掛け値を入力します。
⑦株数を入力します。
⑧入力間違いがないか確認して「OK」ボタンをクリックします。

「訂正　　」ボタン・・登録された銘柄の訂正を行います。

①「訂正」ボタンをクリックします。
②持ち株リストから訂正する銘柄をクリックします。
③画面上部の入力ボックスに訂正銘柄が入力されます。
④訂正個所を修正し、「OK」ボタンをクリックします。

「削除　　」ボタン・・登録された銘柄の削除を行います。

①「削除」ボタンをクリックします。
②持ち株リストから削除する銘柄をクリックします。
③画面上部の入力ボックスに削除銘柄が入力されます。
④削除銘柄に間違いがなければ「OK」ボタンをクリックします。

「キャンセル」ボタン・「新規入力」「訂正」「削除」で入力ボックスに入力された銘柄を取り消します。

「並替　　」ボタン・・持ち株リストの各項目の並び替えを行います。

①小さい順または大きい順にチェックマークを入れます。
②並び替えしたい項目を「仕掛日」「損益金」「コード」「損益率」から選択し、チェックを入れます。
③「並替」ボタンをクリックします。
④指定された項目が小さい順または大きい順で持ち株リストが並び替えられます。

「印刷　　」ボタン・・登録されている銘柄リストを印刷します。

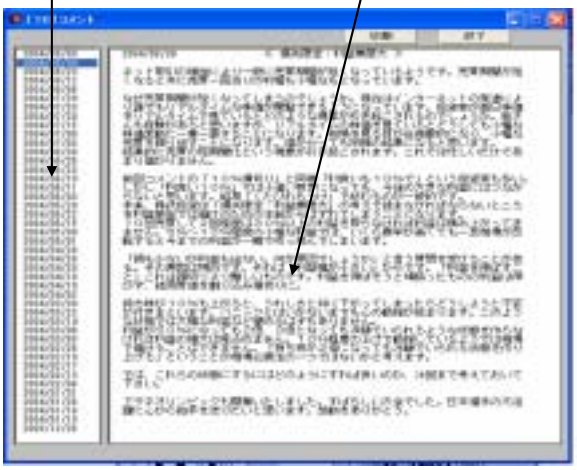
「終了　　」ボタン・・「持株管理」を終了します。

登録されている「銘柄数」「投資金合計」「損益金」「損益率」が表示されます。

※日足チャートの株価表示で単位が切り捨てられている銘柄(株価単位の大きい銘柄)は、「持株管理」では修正されていますので実際の株価を入力してください。
※「持株管理」には売買手数料や税金、その他の諸経費は含まれていません。

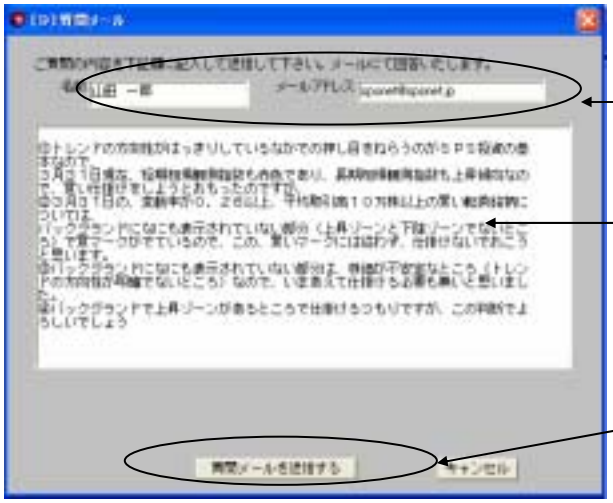
<<コメント>>　当研究所から毎週一回程度メッセージが送られてきます。
システムの操作方法や本システムの売買方法、売買技法の解説を行います。
技法の習得ができます。

日付をクリックする　　内容が表示される



<<チャート印刷>>　日足チャートおよび週足チャートを印刷します。

<<質問メール>>　本システムの操作方法や指標の見方、売買法などについて理解できない点や不明な点についてメールで質問することができます。本システムが理解できるまでサポートいたします。メールにて回答いたします。



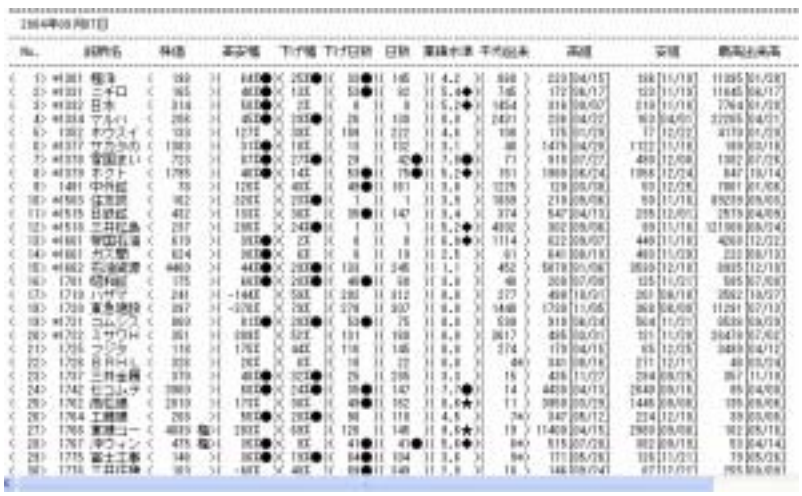
名前、メールアドレスを入力します。

質問内容を記入します。

メールを送信します。

<<メモ帳>>　　売買において記録しておきたい事柄などを自由に書き込んで保存しておくことができます。

<<銘柄データリスト>>　ＳＰＳ研究所発行の短期売買用技術書「株の短期売買実践ノート」による銘柄データリストを表示します。「株の短期売買実践ノート」は、全国書店で発売されています。詳しくはホームページをご覧ください。



<<転換銘柄リスト>>　東証全銘柄の最終転換日およびその損益率、経過日数等を表示します。これらのリストは本システム「スピードマスター・プロ」によって作成されています。詳しくはホームページをご覧ください。

【銘柄名】	【転換日 / 転換 / 仕掛値】	【現在値】	【損益率】	【経過日数】
1> 1301 *極洋	2004/08/23 ○買転換 189	198	5%	15日
2> 1331 *ニチロ	2004/08/23 ○買転換 157	165	5%	15日
3> 1332 *日水	2004/08/05 ○買転換 294	314	7%	33日
4> 1334 *マルハ	2004/08/23 ○買転換 190	206	8%	15日
5> 1352 ホウスイ	2004/08/23 ○買転換 125	133	6%	15日
6> 1377 *サカタのタ	2004/07/06 ●売転換 1398	1383	1%	63日
7> 1378 *雪国まい	2004/08/27 ○買転換 736	723	-2%	11日
8> 1379 *ホクト	2004/09/03 ●売転換 1771	1795	-1%	4日
9> 1491 中外鉱	2004/09/03 ○買転換 78	78	0%	4日
10> 1503 *住友炭	2004/08/30 ○買転換 126	162	29%	8日
11> 1515 *日鉄鉱	2004/09/03 ○買転換 418	432	3%	4日
12> 1518 *三井松島	2004/08/12 ○買転換 172	237	38%	26日
13> 1601 *帝国石油	2004/09/06 ○買転換 607	619	2%	1日
14> 1661 *ガス開	2004/09/07 ○買転換 624	624	0%	0日
15> 1662 *石油資源	2004/09/02 ○買転換 4370	4400	1%	5日
16> 1701 昭和鉱	2004/09/02 ○買転換 172	175	2%	5日
17> 1719 ハザマ	2004/09/02 ○買転換 243	241	-1%	5日
18> 1720 東急建設	2004/09/07 ○買転換 397	397	0%	0日
19> 1721 *コムシスＨ	2004/08/30 ○買転換 809	860	6%	8日
20> 1722 *ミサワＨＤ	2004/08/18 ○買転換 291	351	21%	20日
21> 1725 フジタ	2004/09/02 ○買転換 112	118	5%	5日
22> 1726 ＢＲＨＬＤ	2004/09/03 ●売転換 320	326	-2%	4日
23> 1737 三井金属エ	2004/09/06 ○買転換 367	370	1%	1日
24> 1742 セコムテク	2004/08/23 ○買転換 3760	3900	4%	15日
25> 1762 高松建	2004/09/03 ○買転換 2865	2810	-2%	4日
26> 1764 工藤建	2004/08/23 ○買転換 269	268	-0%	15日
27> 1766 東建コーポ	2004/07/12 ○買転換 3900	4030	3%	57日
28> 1767 沖ウィン	2004/08/03 ●売転換 485	475	2%	35日
29> 1775 富士工事	2004/08/27 ●売転換 145	148	-2%	11日
30> 1776 三井住建道	2004/09/06 ○買転換 102	103	1%	1日
31> 1778 古川総合設	2004/09/06 ○買転換 150	150	0%	1日
32> 1780 *ヤマウラ	2004/08/20 ○買転換 288	293	2%	18日

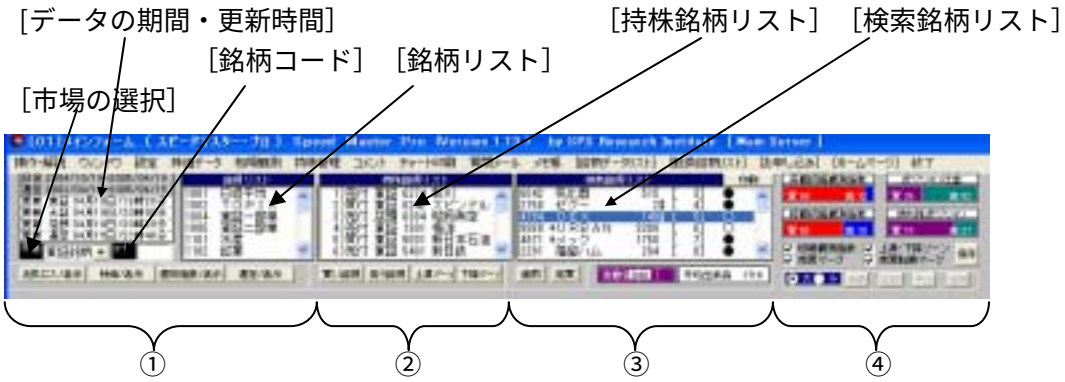
<<お申し込み　>>　「スピードマスター・プロ」のお申し込みのページにリンクします。

<<ホームページ>>　　ＳＰＳ研究所のホームページにリンクします。

ＳＰＳ研究所のホームページでは、株式投資に関するいろいろな情報が掲載されています。
また、当研究所の株式分析ソフトが無料でダウンロードできます。

<<終了>>　　本システムを終了します。変更された画面サイズはそのまま保存されます。

○各表示リスト



①[お気に入り]［検索］[個別指数]［週足］ボタン
②[買い銘柄]［売り銘柄］[上昇ゾーン]［下降ゾーン］ボタン
③[適用］ボタン　　[変動率]［平均出来高］表示
④[大小］チェック　　[株価]［変動］[平出]［相関］ボタン
　[長期相場観測指数]［短期相場観測指数］[ポジション比率]［持ち株ポジション］表示
　[保存］ボタン
　[相場観測指数]［売買マーク］[上昇・下降ゾーン]［売買転換マーク］チェック

［データの期間・更新時間］表示

日足、週足の表示されるデータの期間です。本日の東証、大証、店頭のデータの更新時間を表示します。本システム利用時には必ず確認して下さい。

［市場の選択］選択

東証市場、大証市場、店頭市場を選択します。

［銘柄コード］入力

証券コードを入力しチャート表示します。

［銘柄リスト］表示

選択されている市場の全銘柄リストです。クリックしてチャート表示します。「銘柄名」の前の「*」は信用銘柄です。

［持株銘柄リスト］表示

持株として登録された銘柄のリストです。「持株管理」で銘柄を登録すると銘柄が表示されます。表示された銘柄をクリックするとチャートが表示されます。持ち株の仕掛け値は日足チャート上に表示されます。

［検索銘柄リスト］表示

「買い銘柄」「売り銘柄」「上昇ゾーン」「下降ゾーン」「適用」「売買」ボタンをクリックすると該当銘柄が表示されます。これらで表示された銘柄は本日（買）（売）マーク、上昇転換および下降転換した銘柄、「適用ランク」銘柄、「本日転換」銘柄が表示されます。また「銘柄検索」より検索された銘柄のリストを表示します。表示された銘柄をクリックするとチャートが表示されます。

「買い銘柄」「売り銘柄」「上昇ゾーン」「下降ゾーン」のリストの表示内容は、左から、銘柄名、株価、変動率、平均出来高の順です。「銘柄検索」のリストの表示内容は場合、左から、銘柄名、株価、株価水準、業績水準の順です。「適用ランク」「本日転換」銘柄リストは、左から、銘柄名、株価、ランク、転換の順です。

「印刷」ボタンのクリックで、リストの上位より任意の銘柄数を印刷することができます。

「銘柄名」の前の「*」は信用銘柄です。

「現在値」の後の「#」は株価チャート表示の株価と実際の株価の単位表示が異なる銘柄です。

［お気に入り/表示］ボタン

注目している銘柄を登録しておき、いつでもチャート表示ができるようにします。「設定」画面より、お気に入り銘柄のタイトルを入力します。たとえば「注目銘柄」「底値圏銘柄」等・・・。「お気に入り」画面を消す場合は「お気に入り/消去」ボタンをクリックします。

［検索/表示］ボタン

クイック検索、複合検索、ランキング検索、売り買い・上昇下降ゾーン銘柄の絞り込み等多彩な検索や絞込みができます。「検索」画面を消す場合は「検索/消去」ボタンをクリックします。

［個別指数/表示］ボタン

選択された銘柄の詳細な情報を表示します。適正度、株価水準、業績水準、目標値、抵抗線等、個別銘柄情報およびグラフを表示します。コメント欄に「権利落」情報や「株価単位」変更の情報、その他売買上の注意事項が表示されます。「個別銘柄」画面を消す場合は「個別銘柄/消去」ボタンをクリックします。

［週足/表示］ボタン

週足チャート画面は株価および出来高、信用残高を２年間表示します。週足チャートは「設定」画面より、ローソク足、バーチャート、折れ線グラフの３種類の設定ができます。
バックグランドに「長期相場観測指数」が表示されます。「週足」画面を消す場合は「週足/消去」ボタンをクリックします。

［買い銘柄］ボタン

本日（買）マークまたは赤色の丸(買マーク)が表示された銘柄を「検索銘柄リスト」に表示します。銘柄をクリックするとチャート表示されます。東証のみです。
［買い銘柄］で表示される銘柄は、絞込みの「レベル１」が選択されている状態での買い銘柄ですので注意してください。また、「相場水準指数」が「０(ゼロ)」ポイント以下でも買い銘柄としてリストされますので注意が必要です。この場合マークは茶色で表示されます。［買い銘柄］の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず「検索銘柄リスト」内の日付を確認してください。

［売り銘柄］ボタン

本日（売）マークまたは水色の丸(売マーク)が表示された銘柄を「検索銘柄リスト」に表示します。銘柄をクリックするとチャート表示されます。東証のみです。
［売り銘柄］で表示される銘柄は、絞込みの「レベル１」が選択されている状態での売り銘柄ですので注意してください。また、「相場水準指数」が「０(ゼロ)」ポイント以上でも売り銘柄としてリストされますので注意が必要です。この場合マークは暗い水色で表示されます。「売り銘柄］の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず「検索銘柄リスト」内の日付を確認してください。

［上昇ゾーン］ボタン

本日、上昇ゾーンに転換した銘柄を「検索銘柄リスト」に表示します。青の縦ラインから本日、赤の縦ラインに変化した銘柄です。銘柄をクリックするとチャート表示されます。東証のみです。[上昇ゾーン］の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず「検索銘柄リスト」内の日付を確認してください。

［下降ゾーン］ボタン

本日、下降ゾーンに転換した銘柄を「検索銘柄リスト」に表示します。赤の縦ラインから本日、青の縦ラインに変化した銘柄です。銘柄をクリックするとチャート表示されます。東証のみです。[下降ゾーン］の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず「検索銘柄リスト」内の日付を確認してください。

［適用ランク］ボタン

本システムの売買に適した銘柄を上位よりランキングして表示します。これらの銘柄はボラティリティ（変動率）の大きく、株価変動ができるだけスムーズな変動(歪度の少ない)銘柄順に表示してあります。ここで計算されているボラティリティは、本システム内の変率やベータ値と若干異なります。上位にランクされた銘柄はハイリスク・ハイリターンの銘柄となりますのでロスカット等は躊躇せず実行しなければなりません。上位銘柄は利益になった場合の利益幅が大きくなりますが、実際の売買では各指標を十分検証してから売買してください。適用ランク銘柄のそれぞれの転換は、他の売買サインや売買シグナルとの関連はありません。他の売買サインや売買シグナルよりスパン(期間)は長くなります。

個別銘柄のチャートを表示しますと画面右上に「適用ランク」の順位が表示されます。ランクの低い銘柄は売買に採用できないと言うわけではありません。各指標を検証された上で売買されれば問題ありません。「----」の表示は株価データが少なかったり、大幅な権利落ちや大きく窓空けした銘柄、または当分析に合致しない銘柄等です。銘柄選択時の目安としご利用下さい。表示は東証銘柄のみです。

「適用ランク」による売買で持ち株として持続できるのは、ランキング１００位以内の銘柄にあることが望ましい。ランキング１００位以下となった場合は、次の転換で処分するか、またはランキング５０位以内の転換銘柄に乗り換えてください。

上昇転換、下降転換後には必ず反対の転換サインが出ます。その反対転換までの期間は銘柄により異なります。反対転換のサインが出るまでは現在の転換のトレンドが継続されていると判断します。「上昇転換(○)」「下降転換(●)」のマークより、該当銘柄が現在、上昇トレンド中であるか下降トレンド中であるかの判定をします。

ランキング５０位以内の銘柄で信用銘柄の場合は、買いと空売りの連続売買が可能です。

［売買］ボタン

適用銘柄の中から本日転換(上昇転換・下降転換)した銘柄のみを表示します。これらの銘柄（「上昇転換」「下降転換」マークのついた銘柄)は翌日の仕掛けが可能です。新規の仕掛けはできるだけ上位にある銘柄(５０銘柄以内が望ましい)を選択して翌日仕掛けます。

［変動率］表示

株価幅やボラティリティなどの複合指数です。株価の上下の変動幅を指数化しています。本システムでは変動率の平均値を「０．２６」としています。平均値より小さい銘柄はローリスク・ローリターン、平均値より大きい銘柄はハイリスク・ハイターンとなります。

［平均出来高］表示

過去６ヶ月の出来高の平均値です。ある程度出来高ができていない銘柄は流動性に欠けます。

［大・小］チェック

［株価］［変動］［平出］［相関］の各指標を大きい順、または小さい順に並び替えます。チェックを入れて選択します。これらの並び替えのできる銘柄は［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

［株価］ボタン

「検索銘柄リスト」に表示された銘柄を株価の安い順または高い順に並び替えます。ただし、並び替えのできる銘柄は、［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

［変動］ボタン

「検索銘柄リスト」に表示された銘柄を変動率の低い順または高い準に並び替えます。ただし、並び替えのできる銘柄は、［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

［平出］ボタン

「検索銘柄リスト」に表示された銘柄を平均出来高の小さい順または大きいに並び替えます。ただし、並び替えのできる銘柄は、［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

［相関］ボタン

「検索銘柄リスト」に表示された銘柄を短期相場観測指数との比較した相関指数の小さい順または大きいに並び替えます。ただし、並び替えのできる銘柄は、［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

【注意】相関の指数は「検索銘柄リスト」には表示されません。銘柄を選択すると「日足チャート」の画面に表示されます。

【参考】相関とは「短期相場観測指数」と選択された個別銘柄の比較において、どれだけ変動が似ているかを比較した指数です。０から１００までの数値で、大きい数値の銘柄が「短期相場観測指」の変動に似ていると言うことです。

［保存］ボタン

「銘柄リスト」にリストされた銘柄を表計算用(エクセル等)のデータに作成します。「保存する場所」は任意のフォルダ等を選択してください。「ファイル名」は「無題」を任意に変更し、拡張子には必ず「.txt」を付けてください。

「買い/売り銘柄」「上昇/下降ゾーン」の銘柄以外は、「変動率」「平均出来高」「相場相関」の指数は表示されません。

［長期相場観測指数］表示

長期相場観測指数は、長期的な相場の上昇、下降の判定を行う指数です。ポイントでグラフ表示してあります。大きなうねりを捉え「買」指数が大きければ長期的に相場が高い位置にあると判断できます。また「買」指数が小さければ長期的に相場が安い位置にあると判断できます。長期的な相場のトレンドや水準を判定する上で非常に重要な指標となります。指数は、０～１００の範囲で変動します。日足チャートのバックグランドに「暗い緑色」で表示されます。

［短期相場観測指数］表示

相場観測指数は、短期的な相場の上昇、下降の判定を行う指数です。ポイントでグラフ表示してあります。小さなうねりを捉え「買」指数が大きければ短期的に相場が高い位置にあると判断できます。また「買」指数が小さければ短期的に相場が安い位置にあると判断できます。短期的な相場のトレンドや水準を判定する上で非常に重要な指標となります。指数は、０～１００の範囲で変動します。日足チャートのバックグランドに「暗い黄色」で表示されます。

［ポジション比率］表示

相場全体の変動を解析し、それらの相場変動に沿った売買が可能となるよう買い銘柄の資金ポジション、空売り銘柄の資金ポジションの配分を行ないます。資金効率が高まります。投資可能資金を常に表示されたポジション比率に合わせながら売買します。

［持ち株ポジション］表示

当システムの「持株管理」に仕掛け銘柄を登録することにより、現在の「持ち株ポジション比率」が表示されます。現在の持ち株の「買い」と「空売り」の売買代金の比率です。これらの売買代金の比率は、相場全体の方向性(トレンド)を捉えた「ポジション比率」の指数に沿った売買ができるよう「持ち株ポジション」を調整しながら売買します。

［相場観測指数］チェック

チェックマークを入れることにより、日足チャート画面のバックグランドに「長期相場観測指数」および「短期相場観測指数」をチャート表示します。

［売買マーク］チェック

チェックマークを入れることにより、日足チャート画面に(売)(買)マークが表示されます。

［上昇・下降ゾーン］チェック

チェックマークを入れることにより、日足チャート画面に縦のラインの上昇・下降ゾーンラインが表示されます。赤色の縦ラインが上昇ゾーン、青色の縦ラインが下降ゾーン。
それぞれ色の薄いラインはゾーン転換が弱いと判断してください。

［売買転換マーク］チェック

チェックマークを入れることにより、日足チャート画面に「買転換」「売転換」が表示されます。売買転換マークは「相場水準指数」に連動しており、「相場水準指数」が「0(ゼロ)」ポイント以下では「買転換」の表示はされません。同様に「相場水準指数」が「0(ゼロ)」ポイント以上では「売転換」の表示はされません。

〔０２〕日足チャート画面----------

日足チャート画面は株価および出来高、各種指標の６ヶ月間を表示します。日足チャートは「設定」画面より、ローソク足、バーチャート、折れ線グラフの３種類の設定ができます。

「銘柄名」「再表示」「↑↓」
「A)強 B)中 C)弱」「←補→」
「レベル1」「レベル2」「レベル3」
「相場対応」

「指数表示ボックス」
「適用ランク」による「上昇・下降転換」

「設定」画面より、各種指数チャートの色を設定することができます。各種指数チャートの表示・非表示の設定ができます。画面は本システム上部のメニューバーより「設定」をクリックして表示します。
権利落ち等がある場合は、日足チャート画面に縦の二本の白い点線でラインが引かれます。

日足チャート画面の外枠をドラッグすることにより画面サイズを自由に変更できます。画面外枠にマウスを当てると「⇔」の矢印が表示されますので、そのままマウスをドラッグして画面を希望の位置まで移動します。
※「ドラッグ」とは、マウスの左ボタンをクリックしたままマウスを移動すること。
※画面サイズの変更した場合は「再表示」ボタンをクリックしてチャートを表示してください。

[再表示] ボタン

画面サイズの変更した場合は必ず「再表示」ボタンをクリックしてチャートを表示してください。

[指数表示ボックス] 表示

チャート上でマウスを移動することによって株価および出来高を読み取り、右下のボックスに表示されます。（買）（売）マーク等の内容を読み取り、右下のボックスに表示されます。

[スケールライン]

チャート上の任意のポイントでマウスを右クリックすると縦、横のスケールラインが表示されます。

[[↑」「↓」] ボタン

「↑」「↓」ボタンにより、チャートおよび各指標が上下に移動します。これは目標値・抵抗線やその他の指数の表示されていない部分を表示するためのボタンです。

[「←補」「補→」] ボタン

「←補」「補→」ボタンは「予測チャート」を前後に補正するものです。「予測チャート」は、初期設定の段階では「非表示」設定となっていますので、ご利用時には「表示」に設定してください。予測相関指数が「５０」以下の銘柄には「予測チャート」は表示されません。

[A)強B)中C)弱] 表示

目標値・抵抗線は「A)短期、B)中期、C)長期」の３種類表示できます。この３種類の中から、現在の株価水準に影響度の高い順に表示してあります。「設定」画面より「強のみ表示」で影響度の高い目標値・抵抗線のみを表示することができます。「A)短期」で表示された場合、灰色のラインが表示されることがあります。これは「B)中期」や「C)長期」の目標値や抵抗線を表示したものです。長いラインは「C)長期」のライン表示。短いラインは「B)中期」のラインを表示したものです。

[相関] 表示

「検索銘柄リスト」に表示された銘柄を「短期相場観測指数」との比較した相関指数を表示します。ただし、「相関」の指数が表示される銘柄は［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］「下降ゾーン］で表示された銘柄のみですので注意してください。

【注意】相関の指数は「検索銘柄リスト」には表示されません。［買い銘柄］［売り銘柄］［上昇ゾーン］［下降ゾーン］以外で選択された場合は表示されません。

【参考】相関とは、「短期相場観測指数」と選択された個別銘柄の比較において、どれだけ変動が似ているかを比較した指数です。０から１００までの数値で、大きい数値の銘柄が「短期相場観測指」の変動と似ていると言うことです。

[レベル１] チェック

すべての（売）（買）マークが表示されます。システム起動時に表示されます。

[レベル２] チェック

すべての（売）（買）マークから、売買に適した箇所を選択して表示されます。

[レベル３] チェック

さらに（売）（買）マークの最適な箇所を選択して表示されます。

[相場対応] ボタン

（売）（買）マークを「相場水準指数」に従い、反対の（売）（買）マークを除外します。つまり「相場水準指数」が上昇中(0ポイント以上)の（売）マークおよび「相場水準指数」が下降中(0ポイント以下)の（買）マークは表示されません。

[銘柄名] 表示

市場、信用現物の別、銘柄コード、銘柄名、単元株数が表示されます。
日足チャートの銘柄名のボックスに[単元株数　○○][株価×○○○]の表示のある銘柄があります。[単元株数　○○]は売買の単位、[株価×○○○]はチャート上に表示されている株価の単位が異なる銘柄です。実際の株価は表示されている数値に株価を掛けた数値が実際の株価です。

［適用ランク］表示
チャート表示された銘柄の「適用ランク」における順位を表示します。これらの銘柄はボラティリティ（変動率）の大きく株価変動ができるだけスムーズな変動(歪度の少ない)の順位です。上位にランクされた銘柄はハイリスク・ハイリターンの銘柄となりますのでロスカット等は躊躇せず実行しなければなりません。上位銘柄は利益になった場合の利益幅が大きくなります。ランクの低い銘柄は売買に採用できないと言うわけではありません。各指標を検証された上で売買されれば問題ありません。銘柄選択時の目安としご利用下さい。表示は東証銘柄のみです。

［上昇・下降転換］表示
「適用ランク」における転換した日付および転換の種別を表示します。転換日は日足チャートの下(灰色の帯のところ)に「●」のマークでポイントされます。同時にチャート上に太い縦線(赤色または水色の２本線)が表示されます。チャート上部に「上昇転換」「下降転換」の表示が付きます。
上昇転換の場合、「●」のマークは赤色で表示されます。チャート上には太い赤色の縦線(２本)が入り、チャート上部に「上昇転換」の表示が付きます。上昇換後は下降転換となるまで小さい赤色の「●」のマークが続きます。

下降転換の場合、「●」のマークは青色で表示されます。チャート上には太い水色の縦線(２本)が入り、チャート上部に「下降転換」の表示が付きます。下降換後は上昇転換となるまで小さい青色の「●」のマークが続きます。

赤色または青色の小さいマークのみの銘柄(太い縦線(２本)がない銘柄)は、表示されたチャートの６ヶ月間以前に転換した銘柄です。転換日で確認してください。
また、ランキング５０位以内の銘柄には「●」のマーク内に「緑色」の○が入ります。
銘柄によっては(転換の無い銘柄や株価データの少ない銘柄)、これらの転換マークの無い銘柄もあります。

［日付・買付/売付・現値・損益・率］表示
「「上昇転換」または「下降転換」した日の翌日の日付」および「転換日の翌日の始値」「現在値(本日の終値)」「損益」「率(損益率)」が表示されます。これらは実際の売買と同じように転換日の翌日の寄り付き値で仕掛けたとして、それらを現在値(本日の終値)と比較して損益および損益率を表示してあります。

【注意】転換が６ヶ月以前の銘柄は本システムの都合上「転換した日の翌日の日付」は「転換した日」、「転換日の翌日の始値」は「転換日の終値」となっておりますのでご注意ください。これらの銘柄には「転換した日」「転換日の終値」の表示の前に赤色の「*」が表示されます。

〔０３〕週足チャート画面----------

週足チャート画面は株価および出来高、信用残高を２年間表示します。週足チャートは「設定」画面より、ローソク足、バーチャート、折れ線グラフの３種類の設定ができます。

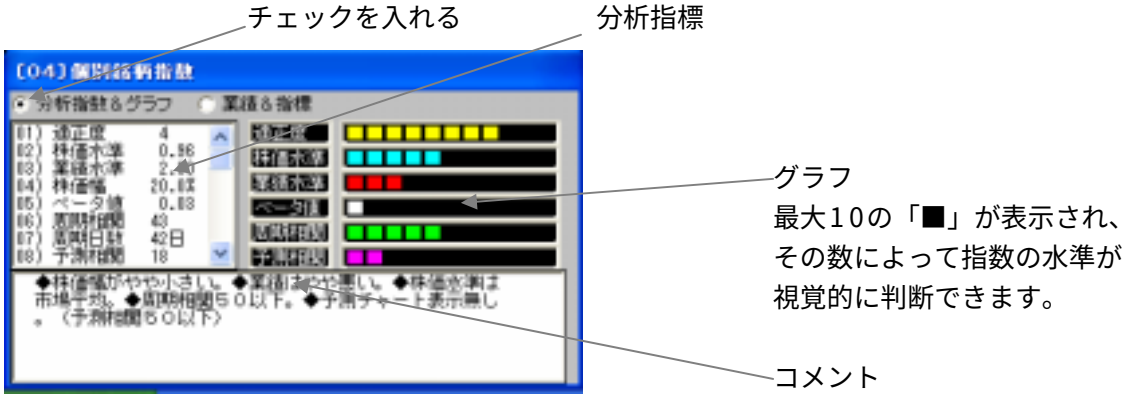
「設定」画面より、目標値・抵抗線の表示設定ができます。
※「設定」画面は本システム上部のメニューバーより「設定」をクリックして表示します。

週足チャート画面の外枠をドラッグすることにより画面サイズを自由に変更できます。画面外枠にマウスを当てると「⇔」の矢印が表示されますので、そのままマウスをドラッグして画面を希望の位置まで移動します。
※「ドラッグ」とは、マウスの左ボタンをクリックしたままマウスを移動すること。
※画面サイズの変更した場合は必ず「再表示」ボタンをクリックしてチャートを表示して下さい。
チャート上でマウスを移動することによって株価および出来高、信用残等を読み取り、右下のボックスに表示されます。「↑」「↓」ボタンにより、チャートおよび各指標が上下に移動します。これは目標値・抵抗線の表示されていない部分を表示するためのボタンです。

〔０４〕 個別銘柄指数画面----------

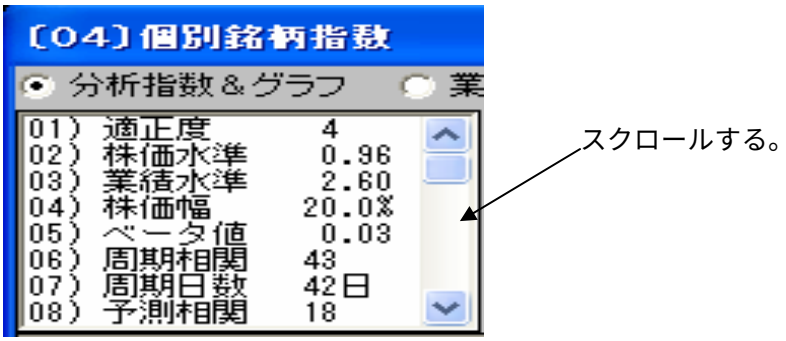
≪分析指数＆グラフ≫

選択された銘柄の詳細な情報を表示します。適正度、株価水準、業績水準、目標値、抵抗線等、個別銘柄情報およびグラフを表示します。



コメント欄に「権利落」情報や「株価単位」変更の情報、その他売買上の注意事項が表示されます。「権利落」の詳細については、「業績＆指標」に表示してあります。コメント欄に表示されている「株価単位」は、チャート上の株価に「株価単位」を掛けた数値が実際の株価です。たとえばチャート上の株価が３００であって「株価単位」が「×１０００」であった場合、実際の株価は、３００,０００円（300×1000）です。

※コメント欄の文字が正しく表示されない場合は、「個別銘柄指数」画面の外枠の左右をドラックして、拡大または縮小して少しずらすと文字が正しく表示されます。



適正度・・・・「平均出来高」「株価幅」「ベータ値」「市場流動性」「周期相関」の５項目を一定の基準を満たした場合に１ポイントとして、合計値を適正度のポイントとしています。最大値は５ポイントです。適正度の高い銘柄は、市場流動性も高く短期売買に適した銘柄です。短期売買では３ポイント以上の銘柄が望ましい。業績水準は含まれておりません。テクニカルのみです。

株価水準・・・ＴＯＰＩＸをベンチマークとし、その値動きを「１」としています。個別銘柄において数値が「１」より大きい場合は、その銘柄は市場平均より割高であると判断します。反対に「１」より小さい場合は、市場より割安であると判断します。

業績水準・・・業績の各項目（売上、経常益、一株益、配当・・・２８項目）を分析し、全銘柄を集計し、それらを「０～１０」までのランク付けをしています。業績の市場平均値は「５」となります。業績水準が「５」以上の銘柄は市場平均に対して「良い」ということになります。反対に「５」以下の銘柄は市場平均に対して「悪い」ということになります。業績水準は、来期予想を含め単独決算３期分の推移で計算しています。

株価幅・・・・６ヶ月間の（高値―安値）÷安値×１００で株価幅を計算しています。株価幅の市場平均値は「銘柄検索(複合検索)」画面の「株価幅」欄の左の「○」にマウスを当てると平均値が表示されます。

ベータ値・・・株価変動率の数値です（正規のベータ値計算式を加工しています）。大きな数値は株価の変動が大きいということです。ベータ値の市場平均値は「銘柄検索(複合検索)」画面の「ベータ値」欄の左の○」にマウスを当てると平均値が表示されます。

周期相関・・・株価変動の周期性の度合いを表した数値です。周期チャートに表示された周期に近い値動きの場合は数値が高くなります。数値の高い銘柄は周期性があると判断でき信頼性が高まります。「周期相関」の数値は５０以上が望ましい。

周期日数・・・周期チャートに表示されたチャートの高値と高値、安値と安値の期間です。その期間によって変動サイクルが大きい小さいと言います。
日数は２０日から５０日の範囲で表示されます。

予測相関・・・表示された「予測チャート」の値動きが現在の株価の値動きとどのくらい相関（似ている）しているかを表した数値です。大きい数値の銘柄は「予測チャート」の信頼性が高くなります。「予測相関」の数値が５０以下の場合はチャートの表示はありません。「予測相関」の数値は５０以上が望ましい。

買シグナル・・本日、買いシグナルが発生している場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には赤色の「▲」マークで表示されます。本システムの計算値により自動的に表示されます。株価が若干上昇となった時点でマークされます。（順張り手法を採用しています）売買の参考にします。

売シグナル・・本日、売りシグナルが発生している場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には緑色の「▼」マークで表示されます。本システムの計算値により自動的に表示されます。株価が若干下降となった時点でマークされます。（順張り手法を採用しています）売買の参考にします。

下値異常値・・本日、下値異常値がある場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には紫色の小さい「●」マークで表示されます。通常の値動きに対し異常な値動き（急落）が発生した場合に表示されます。急激な変化に対してのみ表示されます。
※但し、株価幅やベータ値の非常に大きい銘柄および大幅な権利落ち後のマークは参考にしません。

上値異常値・・本日、上値異常値がある場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には水色の小さい「●」マークで表示されます。通常の値動きに対し異常な値動き（急騰）が発生した場合に表示されます。急激な変化に対してのみ表示されます。

下値超異常値・本日、下値超異常値がある場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には赤色の小さい「●」マークで表示されます。「下値異常値」を更に逸脱した（急落）動きになった場合に表示されます。おもに底値圏で発生します。
※但し、株価幅やベータ値の非常に大きい銘柄および大幅な権利落ち後のマークは参考にしません。

上値超異常値・本日、上値超異常値がある場合は「○」のマークが付きます。チャート画面上には青色の小さい「●」マークで表示されます。「上値異常値」を更に逸脱した（急騰）値動きになった場合に表示されます。おもに天井圏で発生します。

株価・・・・・本日の終値を表示します。

出来高・・・・本日の出来高を表示します。

商い成立・・・過去６ヶ月間の立会いの商い成立を比率で表示します。

目標値および抵抗線
（A)短期、（B)中期、（C)長期の３種類の数値が表示されます。

仕手株⑥・・・本格的な仕手株となった場合の予想目標値です。

仕手化⑤・・・材料等の発表があった場合の予想目標値です。

目標値④・・・一般的な目標値です。通常は目標値④をターゲットとします。

抵抗線③・・・一般的な下げ止まりの予想値です。買い仕掛けはこの水準、またはこの水準以下での仕掛けとなります。（業績内容による）

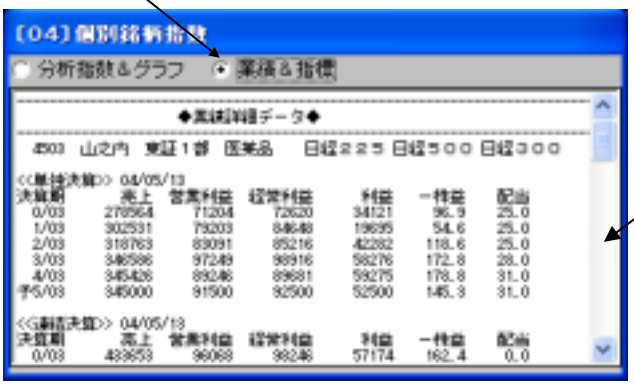
抵抗線②・・・「投げ」等によりこの水準まで下げる可能性もあります。業績の内容によってはこの水準まで下げる可能性もあります。

抵抗線①・・・業績の内容によってはこの水準またはそれ以下の水準に下げる可能性もあります。

≪業績＆指標≫

「業績詳細データ」　　選択された銘柄の業績の詳細を表示します。単独決算、来期予想を含め６期分。連結決算、来期予想を含め６期分。

チェックを入れる



スクロールする

※業績の表示は東証銘柄のみです。東証銘柄でも一部表示できない銘柄もあります。

「業績ランク」

業績ランクは、業績の各項目（売上、経常益、一株益、配当・・・２８項目）を分析し、全銘柄を集計し、それらを「０～１０」までのランク付けをしています。業績の市場平均値は「５」となります。業績水準が「５」以上の銘柄は市場平均に対して「良い」ということになります。反対に「５」以下の銘柄は市場平均に対して「悪い」ということになります。

「単独短期」は、単独決算の来期予想を含め３期分の推移で計算。
「単独長期」は、単独決算の来期予想を含め６期分の推移で計算。
「連結短期」は、連結決算の来期予想を含め３期分の推移で計算。
「連結長期」は、連結決算の来期予想を含め６期分の推移で計算。
「格付」はその銘柄の財務の健全度を表した数値です。「格付」は市場平均を「５」として、「５」以上は市場平均より財務体質が健全であると判断します。範囲は０～１０です。

※業績の表示は東証銘柄のみです。東証銘柄でも一部表示できない銘柄もあります。
※表示されている日付は、業績データが更新された日付です。
【注意】業績の内容の数値データは会社側からの発表時に更新していますが、途中で修正される場合もありますので、このような場合は最新の数値データを参考にして下さい。

「指　標」
資本金や借入金、ＰＥＲ、ＰＢＲ等の各指標を表示してあります。

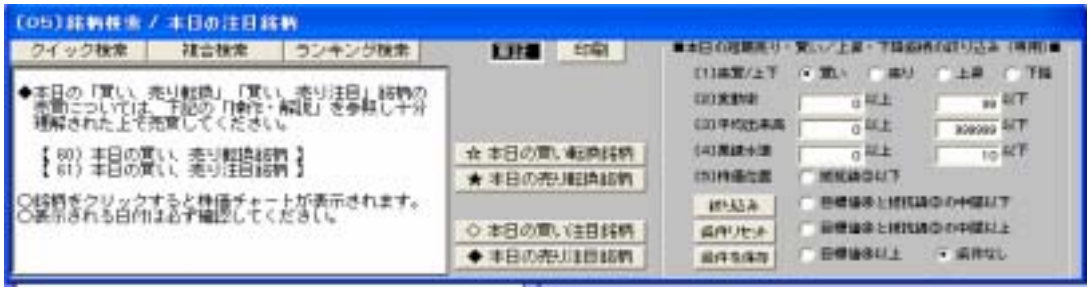
「権利落データ」
権利落の日付や種別、割当率、落ち日等の情報が記載されます。

「株価データ（６ヶ月）」
選択された銘柄の株価（６ヶ月間）の高値、安値の日付や値幅、日数等の詳細なデータや出来高の最高、最低、平均値を表示します。

「株価データ（２年）」
選択された銘柄の株価（２年間）の高値、安値の日付や値幅、日数等の詳細なデータや出来高の最高、最低、平均値を表示します。信用残の最高、最低値を表示します。

「株価データ（１年）〔株の短期売買実践ノート〕」
ＳＰＳ研究所発行の〔株の短期売買実践ノート〕に基づいたデータリストです。〔株の短期売買実践ノート〕は、全国書店で発売されています。詳しくは〔株の短期売買実践ノート〕をご覧ください。

〔０５〕 銘柄検索画面----------



1）≪クイック検索≫　クイック検索は、あらかじめ決められた条件のもとに、それらを段階的に絞り込んでワンタッチで検索することができます。
2）≪複合検索≫　指定された市場の全銘柄から、複数の条件に合致した銘柄を検索します。
3）≪ランキング検索≫　指定された市場の全銘柄から、指定された条件のランキングを表示します。
4）≪本日の売り・買い/上昇・下降銘柄の絞込み(専用)≫
本日の売り銘柄、買い銘柄および上昇ゾーン転換・下降ゾーン転換の銘柄に限定して検索を行います。

「本日の買い、売り転換銘柄」および「本日の買い、売り注目銘柄」が表示されます。

<<本日の買い、売り転換銘柄>>

「本日の買い、売り転換銘柄」は日足チャートに表示されている「転換チャート」を利用し、株価の上昇転換や下降転換により売買を行ないます。

<本日の買い転換銘柄>
「転換チャート」が過去６ヶ月間の最低値より本日上昇転換となった銘柄です。仕掛け後は、「転換チャート」が上昇または横ばいの場合は持続します。決済は「転換チャート」が下降となった場合、またはその他の指標が反転傾向を示した場合は、損益にかかわらず翌日の寄り付き成り行きで決済します。「押し目」を待ってからの仕掛けも効果的です。

<本日の売り転換銘柄>
「転換チャート」が過去６ヶ月間の最高値より本日下降転換となった銘柄です。仕掛け後は、「転換チャート」が下降または横ばいの場合は持続します。決済は「転換チャート」が上昇となった場合、またはその他の指標が反転傾向を示した場合は、損益にかかわらず翌日の寄り付き成り行きで決済します。「戻り」を待ってからの仕掛けも効果的です。

「つなぎ売買」や他の指標と複合的に判断されると更に効果的な売買が可能となります。

「転換チャート」による売買は、業績や他の分析指標は利用していないため、仕掛け後に反対に転換した場合やその他の指標が反転の傾向がある場合は、損益に係わらず必ず決済してください。

「本日の転換銘柄」は、順張りのため株価幅が小さいと利益幅も小さくなったり、損失となったりする場合もありますので、ある程度株価幅の大きい銘柄を選択してください。「適用ランク」を利用すると便利です。

「空売り銘柄」においては、できるだけ「資本金が３００億円以上」「信用の買い残が多い銘柄」「信用取り組み比率が4倍以上」の銘柄を選択してください。売り残が買い残を上回っている銘柄はできるだけ避けてください。

「銘柄名」の前の「*」は信用銘柄です。
「現在値」の後の「#」は株価チャート表示の株価と実際の株価の単位表示が異なる銘柄です。

○東証銘柄のみの採用です。
○リスト内の銘柄をクリックするとチャートが表示されます。
○本システムの売買シグナル、(売)(買)マーク、本日転換銘柄等との関連はございません。
○「本日の転換銘柄」は、株価幅の小さい銘柄や立会い日数の少ない銘柄等は除外してあります。
○「本日の転換銘柄」の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず日付を確認してください。
○「短期相場観測指数」および「ポジション比率」「長期相場観測指数」が上昇傾向の場合は買い重視で、下降傾向の場合は売り重視で売買します。

○「本日の買い、売り転換銘柄」の売買手法は、本システムの基本的な売買手法から独立した売買手法のため損切り等は確実に行なってください。

【注意】
「本日の買い、売り転換銘柄」で選択された銘柄と「短期売買の売り、買い銘柄」で選択された銘柄とは、一方は「買い」で他方は「売り」となる場合があります。これらは投資スパン(期間)の違いでこのような結果となるためであり矛盾するものではありません。

<<本日の買い、売り注目銘柄>>
「本日の買い、売り注目銘柄」は、本システムの仕掛けの諸条件をクリアした銘柄をリストしたものです。本システムの売買基本ルールである、「買いは抵抗線③以下」「売りは目標値④以上」、また業績水準やその他の基本的な売買ルールに基づいて選び出されています。

目標値は、目先の目標値(１５％前後)を表示してあります。
目標値に達した場合は、上げ止まりや下げ止まりを確認して決済するか、または指値をしておいても良いと思います。上値抵抗線や下値抵抗線で止まった場合は決済しても良い。また「転換チャート」の段上げ、段下げによる決済やその他の指数による決済も可。

仕掛け後、株価が反対方向に変動した場合は、目標値も低めに設定しなおす必要があります。万一、仕掛け後に大幅に引かされた場合は、仕掛け値よりマイナス２０％を最大限として「損切り」してください。損切り幅はマイナス２０％以内であればそれぞれ投資家により任意に決めて良いと思います。

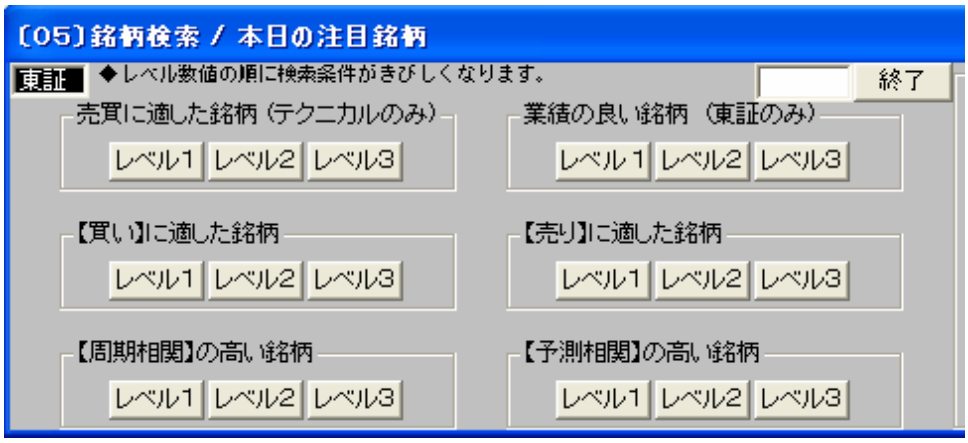
「空売り銘柄」においては、できるだけ「資本金が３００億円以上」「信用の買い残が多い銘柄」「信用取り組み比率が4倍以上」の銘柄を選択してください。売り残が買い残を上回っている銘柄はできるだけ避けてください。(注)の表示の銘柄は、売り残が買い残を上回っている銘柄です。

○東証銘柄のみの採用です。
○リスト内の銘柄をクリックするとチャートが表示されます。
○本システムの売買シグナル、(売)(買)マーク、本日転換銘柄等との関連はございません。
○「本日の注目銘柄」の更新は、株価データ更新時間から若干遅れる場合がありますので必ず日付を確認してください。
○「本日の注目銘柄」は、本システムで仕掛けの諸条件をクリアした銘柄を掲載したものであり、売買される場合は相場動向やその他の条件を十分検証した上で行なってください。
○「相場観測指数」および「ポジション比率」「長期相場観測指数」が上昇傾向の場合は買い重視で、下降傾向の場合は売り重視で売買します。

【注意】
「本日の買い、売り注目銘柄」で選択された銘柄と「短期売買の売り、買い銘柄」で選択された銘柄とは、一方は「買い」で他方は「売り」となる場合があります。これらは投資スパン(期間)の違いでこのような結果となるためであり矛盾するものではありません。

≪クイック検索≫

クイック検索は、あらかじめ決められた条件のもとに、それらを段階的に絞り込んでワンタッチで検索することができます。レベル数値が大きくなると検索条件が厳しくなります。



「売買に適した銘柄」

テクニカル分析において、市場流動性や適正度、変動幅等の条件を検証し、一般的な売買に必要な条件を満たした銘柄が検索されます。ただし、業績の判定は含まれておりません。これらは本システムの売買に適した銘柄をリストしたものであり、すぐに仕掛けが可能という銘柄ではありませんので注意してください。

「業績の良い銘柄」

検索される銘柄の市場において、業績が市場平均値より上位にランクされた銘柄が検索できます。大証および店頭銘柄の業績検索はできません。

「買いに適した銘柄」

業績水準は市場平均以上。株価水準は市場平均以下。適正度「３」以上。株価は「抵抗線③」以下の位置にある等の「買い」の条件を満たした銘柄が検索できます。
ただし、権利落ちのある銘柄は、権利落ち後1ヶ月間は新規の仕掛けはしないでください。

「売りに適した銘柄」

業績水準は市場平均以下。株価水準は市場平均以上。適正度「３」以上。株価は「目標値④」以上の位置にある等の「売り」の条件を満たした銘柄が検索できます。

「相関指数の高い銘柄」

規則正しい周期性のある銘柄が検索できます。スウィングトレード等に利用します。

「予測指数の高い銘柄」

予測チャートが過去の株価の変動に、より近い銘柄の検索ができます。これらによって予測チャートの今後の展開の信頼性が高まります。

≪複合検索≫

あらゆる角度から多彩な検索ができます。

検索条件として、たとえば「01)株価範囲」を３００円から１０００円に設定する場合は、左側のボックス（下限）に「300」右側のボックス（上限）に「1000」と入力し、「検索開始」ボタンをクリックします。
検索された銘柄は、本システム上部（メインフォーム）の「検索銘柄リスト」に表示されます。
「検索銘柄リスト」に表示された銘柄をクリックするとチャート表示ができます。
同様に各指数「02株価水準」「03)業績水準」・・・を複数設定して検索することが可能です。
「09)買シグナル」「10)売シグナル」等にチェックマークを入れて検索することによって本日の売買シグナルの発生している銘柄を検索することができます。
「09)買シグナル」にチェッマークを入れ、「16)A抵抗線③以下」にチェッマークを入れて検索すると安値圏で買いシグナルが発生している銘柄の検索ができます。
≪複合検索≫においては、その市場での最低値、最高値の数値が入力されていますのでその範囲内で設定します。

<検索例>
①「03)株価水準」下限 5、上限10
②「09)買いシグナル」にチェック
③「16)A抵抗線③」にチェック
以上の条件で検索すると基本的な仕掛け条件に合った「買い」銘柄が検索されます。

※本日の取引が無い銘柄や過去６ヶ月間に取引日数（商い成立）が３０％に満たない銘柄は検索対象から除外されます。

左側の「○」のマークにマウスを当てると、その項目の情報が上部ボックスに表示されます。
01)株価範囲・・・指定された市場の本日の株価平均値が表示されます。
02)株価水準・・・指定された市場の株価水準平均値を「１」としています。
03)業績水準・・・指定された市場の業績水準平均値を「５」としています。
範囲は「０～１０」です。

04)株価幅・・・・指定された市場の本日の株価幅の平均値が表示されます。
05)ベータ値・・・指定された市場の本日のベータ値の平均値が表示されます。
06)適正度・・・・範囲は「０～５」です。
07)周期相関・・・範囲は「０～１００」です。５０以上が望ましい。
08)予測相関・・・５０以下はチャート表示がありません。５０以上が望ましい。

「検索開始」ボタン

検索条件をセットしたら「検索開始」ボタンをクリックします。検索された銘柄は、本システム上部（メインフォーム）の「検索銘柄リスト」に表示されます。「検索銘柄リスト」に表示された銘柄をクリックするとチャート表示ができます。

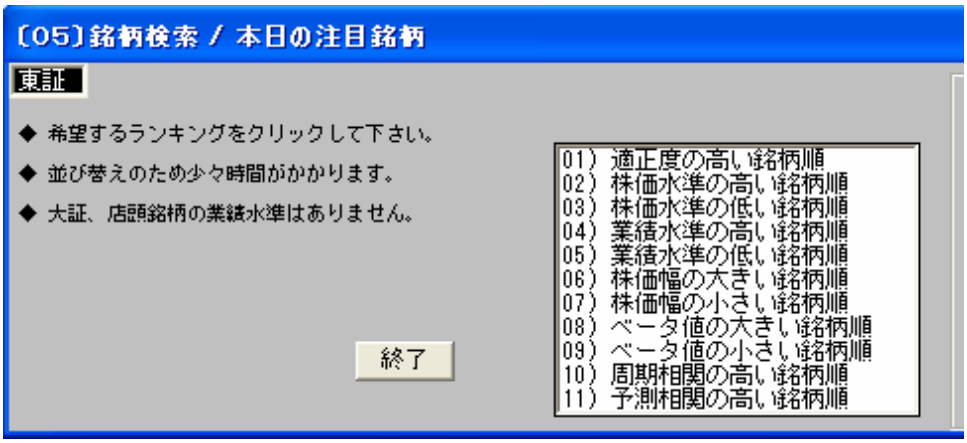
「初期値に戻す」ボタン

設定された条件を一旦クリアします。設定値がそのまま残りますので次の検索でダブらないように、検索ごとクリアすることをお奨めします。

「終了」ボタン

複合検索を終了します。

≪ランキング検索≫　　各指標によりランキング検索します。



01）適正度の高い銘柄順
02）株価水準の高い銘柄順
03）株価水準の低い銘柄順
04）業績水準の高い銘柄順
05）業績水準の低い銘柄順
06）株価幅の大きい銘柄順
07）株価幅の小さい銘柄順
08）ベータ値の大きい銘柄順
09）ベータ値の小さい銘柄順
10）周期相関の高い銘柄順
11）予測相関の高い銘柄順

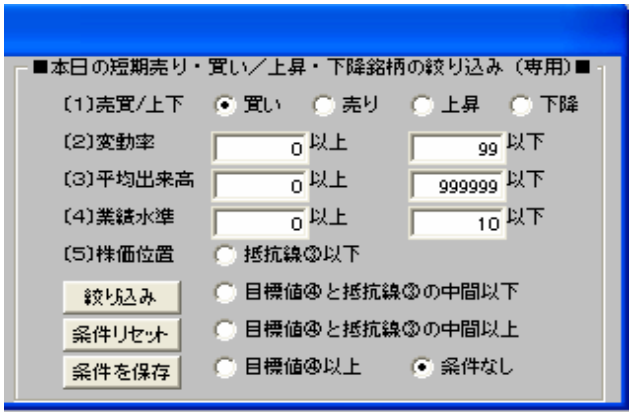
上記のランキング検索ができます。並び替えを行うため少々時間がかかります。検索された銘柄は、本システム上部（メインフォーム）の「検索銘柄リスト」に表示されます。
「検索銘柄リスト」に表示された銘柄をクリックするとチャート表示ができます。
※本日の取引が無い銘柄や過去６ヶ月間に取引日数（商い成立）が３０％に満たない銘柄は検

索対象から除外されます。
※大証および店頭銘柄の「04） 業績水準の高い銘柄順」「05）業績水準の低い銘柄順」の検索はできません。

「終了」ボタン
ランキング検索を終了します。

≪本日の売り・買い/上昇・下降銘柄の絞込み(専用)≫

本日の売り銘柄、買い銘柄(売、買マークのついた銘柄)および上昇ゾーン転換・下降ゾーン転換の銘柄に限定して検索を行います。



[〔1〕売買/上下] チェック
本日の「買い銘柄」「売り銘柄」「上昇ゾーン」「下降ゾーン」のいずれかで検索するか選択します。チェックを入れます。

[〔2〕変動率] 入力
変動率の範囲を指定して絞り込みます。平均値は「0.26」です。「0.26」以上はハイリスク・ハイリターン銘柄。「0.26」以下はローリスク・ローリターン銘柄です。

[〔3〕平均出来高] 入力
平均出来高の範囲を指定して絞り込みます。1000株を1単位で指定します。
【注意】出来高は売買単位が１株、１００株など銘柄により異なります。そのため絞込みを行なう場合、本システム内で自動的に調整して表示します。たとえば１０万株以上で絞り込んでも、それ以下の銘柄が選択される場合があります。
これらは売買単位が異なるため調整されて選択された銘柄ですので間違いではありません。

[〔4〕業績水準] 入力
業績水準の範囲を指定して絞り込みます。範囲は０～１０です。

[〔5〕株価位置］チェック

株価の現在位置を指定して絞り込みます。目標値④と抵抗線③を基準に選択します。
これらの条件を設定しない場合は「条件なし」にチェックを入れてください。

［絞込み］ボタン

選択条件を設定したら［絞込み］ボタンをクリックします。選択された銘柄は「銘柄リスト」に表示されます。

「条件リセット」ボタン

設定された条件をすべてクリアして初期設定値に戻します。

「条件を保存」ボタン

設定された条件を保存します。次回のシステム起動時後も保存されます。

〔０６〕 お気に入り銘柄画面----------

注目している銘柄を登録しておき、いつでもチャート表示ができるようにします。「設定」画面より、お気に入り銘柄のタイトルを入力します。たとえば「注目銘柄」「底値圏銘柄」等・・・。東証、大証、店頭ごとにA)、B)、C)と３タイトルの入力できます。

「登録」ボタン

チャート表示された銘柄コードと銘柄名が自動的に「お気に入り銘柄」画面の上部ボックスに表示されます。この状態で登録ボタンをクリックするとその銘柄が登録されます。証券コードを直接入力して登録することもできます。

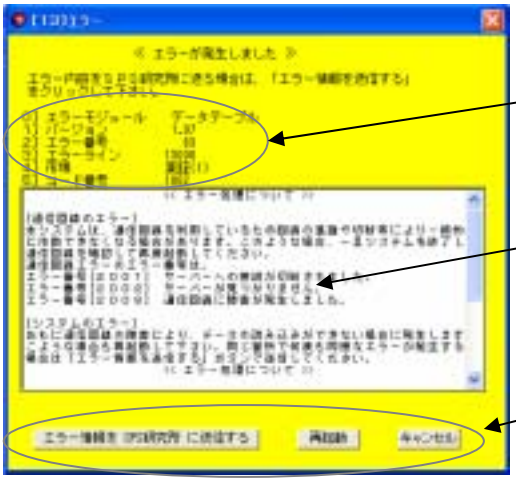
「削除」ボタン

銘柄リストに表示されている銘柄をクリックしますと、一旦チャートが表示されます。その状態で削除ボタンをクリックするとその銘柄が削除されます。

「お気に入り銘柄」画面の銘柄リスト内の銘柄をクリックするとチャート表示できます。
※現在使用している「お気に入り銘柄」「持株銘柄リスト」の銘柄は登録できません。

その他の処理

≪ エラー表示画面 ≫　　通常は表示されません。



エラー内容が表示される。

エラーについての説明文

エラー内容の送信、再起動、キャンセル

システムにエラーが発生した場合、そのエラー内容の詳細が表示されます。
「エラー情報をＳＰＳ研究所に送信する」のボタンをクリックすると、その内容がＳＰＳ研究所に自動的に送信されます。
「再起動」ボタンをクリックすると、本システムが再起動します。
「キャンセル」ボタンをクリックすると次の処理に進みます。
ただし、致命的なエラーの場合は作動しなくなる可能性があります。その場合は「再起動」ボタンをクリックします。
本システムが正常に作動しないようなエラーの場合は、「エラー情報をＳＰＳ研究所に送信する」をクリックしてエラー内容を送信して下さい。早急に対処いたします。

お願い: 本システムは、通信回線を利用しデータの送受信を行うため、回線に障害が発生すると一時的にエラーが発生する場合があります。このような場合、再度システムを起動して同じ箇所で同様なエラーが発生しない場合は、システム上のトラブルではありませんので特に問題にする必要はありません。

≪ バージョンアップ ≫

本システムのバージョンアップは、完全自動システムとなっています。バージョンアップされた場合、システム起動時に自動的に処理されます。終了するまでそのままお待ちください。
画面１につづいて画面２が表示されます。その後バージョンアップされた画面が表示されます。

画面１

画面２

≪ 画面サイズの変更 ≫

本システムのメインフォーム画面サイズは自由に変更できます。
画面外枠にマウスを当てると「⇔」の矢印が表示されますので、そのままマウスをドラッグして画面を希望の位置まで移動します。「ドラッグ」とは、マウスの左ボタンをクリックしたままマウスを移動すること。
〔01〕メインフォーム画面　〔02〕日足チャート画面　〔03〕週足チャート画面
〔04〕個別銘柄指数画面　〔05〕銘柄検索画面　〔06〕お気に入り銘柄画面
上記の画面のサイズが自由に変更できます。

日足チャートおよび週足チャートの画面サイズを変更した場合は必ず「再表示」ボタンをクリックしてチャートを表示してください。

画面のコーナーや外枠にマウスを当て「⇔」の矢印が表示された時点で、マウスの左ボタンをクリックし、そのまま上下左右に画面を移動させます。希望の位置で左ボタンはずします。
これで画面サイズを任意の大きさに変更できます。変更された画面サイズは本システム終了後も保存されます。あまり小さくすると表示されない部分が出てきますので注意してください。

■　分析指標の解説　■

分析指標の解説

本システムには多くのオリジナルな分析指標があります。これらの指標は長期間の検証で有効と認められた指標です。従来の一般的な分析指標や投資手法は一切使用せず、すべて独自に開発した分析手法を提供しています。開発の手法は、科学的な投資理論に基づく手法や過去の長期間にわたる(過去 10-20 年)の膨大なデータの検証を経て、裏づけのある確率の高い指標のみを採用しています。そしてこれらの煩雑な分析指標はできるだけ理解しやすいようにシンプル化し、より実践的な売買が可能となるよう「数値」による判定基準を設けてあります。主観的な判断や感覚的な判断、情報材料による判断は必要ありません。

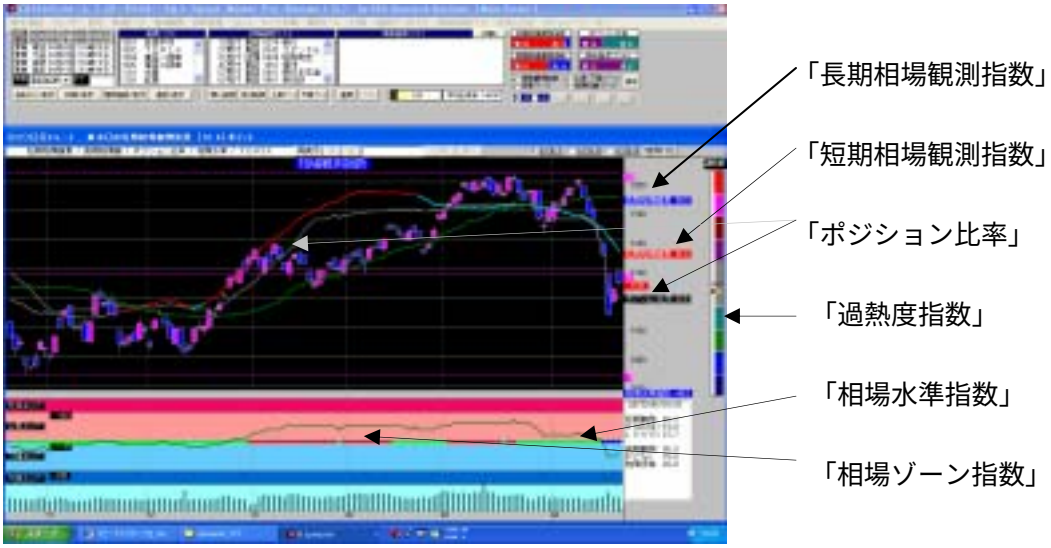
本システムをご利用される場合にオリジナル手法のため多少途惑われるところもあると思いますが、難解な指標等はできるだけ視覚的に捕らえやすいようチャート化して表示してあります。

また本システムはすべてにおいて売買ルールが定められており、仕掛けから決済まで数値による判定を行っていますので売買の判断が容易にできます。本システムの趣旨や利用法を十分理解していただければ、本格的なビジネスや資産運用のシステムとしてご利用いただけます。

以上のように、当研究所の提供いたします株式投資システムは、投資の基本に忠実なシステムであり、また投資理論に裏づけされた投資手法を採用しているため、投資家の皆様の今後の投資活動に大いに貢献できるものと考えています。本システムの趣旨を十分理解された上でご利用いただきたいと思います。

相場観測指数

本システム起動後に表示されます。



≪ 相場観測指数 ≫

「相場観測指数（長期・短期）」
株式投資を行うにあたっては、まず相場全体が上昇期であるか下降期であるかの判定が非常に重要なファクターとなります。下降期に買い仕掛けを行ってもその投資パフォーマンスも上がりません。

本システムの「相場観測指数」は、市場が現在上昇期か下降期かの判定、およびその水準を指数化してグラフ表示してあります。「相場観測指数」は、数値が「０」から「１００」の間で変動するよう調整してあります。相場観測指数が上向きであれば相場全体が上昇傾向であると判断でき、また現在相場全体が何合目であるかの判定を行うことも可能です。株式投資の三原則といわれる「相場観測」「銘柄選択」「売買タイミング」の中で一番重要な役割をはたします。

「相場観測指数」は、全銘柄の株価水準やトレンド、その他の指数により算出し、それらの指数を集計して表示しています。すべて「率」で計算していますので相場の実態に合った指数と言えます。日経平均の算出法は、「値幅」で計算されていますので、低位株の値動きが指数に反映されないという欠点があります。

このように「相場観測指数」は、全銘柄で計算し集計しているため、一般的な相場指標より信頼性が高く正確であると考えます。日々点検して、相場全体の方向およびその水準を常に見極めておく必要があります。

「短期相場観測指数」
株式投資の基本は、まず相場の方向性を見極めることから始まります。相場全体が下降トレンドにもかかわらず買いに向かっては成績も上がりません。バブル期は買えさえすれば誰でも儲けることが出来ましたが、バブル崩壊後はいくら研究しても何をやっても儲からないという結果になります。これはやはり相場の方向性の判断が間違っていたためです。株式投資で今後の相場の方向を見極めることは至難の技です。専門家でもその判断は難しいと思います。今後の相場の展開予想は非常に難しいものではあります。しかし現在の相場の位置や下降中であるか上昇中であるかの判定がある程度できるだけでも株式投資には大いに役立つものと思います。本システムではこれらの判定を「短期相場観測指数」によって行っています。

「短期相場観測指数」は０～１００の範囲内で変動し、指数の数値が０に近ければ安値圏、１００に近ければ高値圏と判断します。しかし、その指数の変動は株価と同様にランダムです。

「短期相場観測指数」の利用方法。
「短期相場観測指数」が上向き（ラインの色は赤色）の場合は上降トレンド。
「短期相場観測指数」が下向き（ラインの色は青色）の場合は下降トレンド。
「短期相場観測指数」が直近のボトムより３ポイント以上上昇したら「上昇転換」、直近のトップより３ポイント以上下降したら「下降転換」として判定しています。

上降トレンドの場合は「買い」を主体として売買します。下降トレンドの場合は「空売り」を主体として売買します。

「短期相場観測指数」が上向きの上降トレンドであっても指数が７５ポイント以上の水準に達してきたら新規の「買い」はやや控えめにした方が良いと思います。また反対に下向きの下降トレンドであっても指数が２５ポイント以下の水準に達してきたら新規の「空売り」はやや控えめにした方が良いと思います。
株式投資において、これらの相場の方向の判断を間違いますと株式投資の基本を取り違えることになりますので、新規に仕掛けを行う場合は必ず「短期相場観測指数」で相場の方向を必ず確認してから行動してください。日々確認してください。
「短期相場観測指数」は上場全銘柄で計算し集計しているため、一般的な相場指標より信頼性が高く正確であると考えます。

「長期相場観測指数」
「長期相場観測指数」は、長期的な相場の上昇、下降の判定を行う指数です。大きなうねりを捉え、指数が上向きであれば長期的に相場が上昇傾向であると判断できます。また指数が下向きであれば長期的に相場が下降傾向であると判断できます。相場の大きなトレンドを判定する上で非常に重要な指標となります。
「長期相場観測指数」が下降傾向を示しているにもかかわらず「短期相場観測指数」が上昇するという場合があります。このような場合の判断は「長期相場観測指数」の数値が 50 ポイント以上であった場合は、相場は長期的には下降トレンド中の「戻り」と判断することができます。反対に「長期相場観測指数」が上昇傾向を示しているにもかかわらず「短期相場観測指数」が下降するという場合があります。このような場合の判断は、「長期相場観測指数」の数値が 50 ポイント以下であった場合は、相場は長期的には上昇トレンド中の「押し」と判断することができます。

「ポジション比率」
相場全体の変動を解析し、それらの相場変動に沿った売買が可能となるよう買い銘柄の資金ポジション、空売り銘柄の資金ポジションの配分を行ないます。これらによってリスクヘッジの役割も果たし、投資資金の安全性と資金効率が高まります。
投資可能資金を常に表示されたポジション比率に合わせながら売買します。つまり買いの資金量、空売りの資金量をポジション比率に従い資金配分しながら売買することになります。買い建玉、売り建玉を別々に建て、買い建玉は買いの決済基準で決済し、また売り建玉は売りの決済基準でそれぞれ決済しつつ、その資金配分をポジション比率の配分に従った売買を行うことにより「売りグループ、買いグループに分けたヘッジを取り入れた売買」も可能となります。
投資資金のポジション配分は、ポートフォリオ理論に基づく考え方を採用しています。ポジション比率は日々更新されます。
もし、「買いのみ」で売買される投資家の場合は、投資可能資金を買いのポジション比率に合った金額で投資します。たとえば投資可能資金が 1000 万円であった場合、現在の買いのポジション比率が「７５」であれば、実際に投資する金額は 750 万円ということになります。

<<相場水準指数>>
「相場水準指数」は、現在の相場がどの水準に位置しているかを判定した指数です。
相場水準を「天井エリア」「上昇エリア」「下降エリア」「大底エリア」の４つのエリアに分けてあります。主に天井、大底の確認にご利用下さい。
「天井エリア」は赤色で、指数は１００ポイント以上。

「上昇エリア」は紫色で、指数は０ポイントから１００ポイントまで。
「下降エリア」は水色で、指数は０ポイントから－１００ポイントまで。
「大底エリア」は青色で、指数は－１００ポイント以下。
これらの指数は固定値ではありませんので、１００ポイント以上および－１００ポイント以下から大きく乖離する場合もあります。指数が上昇となった場合、すべてが１００ポイント以上の「天井エリア」に到達するとは限りません。また、指数が下降となった場合、すべてが－１００ポイント以下の「大底エリア」に到達するとは限りませんので注意してください。しかし、１００ポイント以上の「天井エリア」に到達すれば、そこは天井圏であると判断できます。
また、－１００ポイント以下の「大底エリア」に到達すれば、そこは大底圏であると判断できます。
「短期相場観測指数」の転換は、相場全体よりやや遅れる傾向がありますので、この「相場水準指数」で補完しながらご利用ください。

「過熱度指数」
相場の過熱度を表した指数です。現在の水準は黄色いバーと赤丸で表示されています。黄色いバーと赤丸が上位に向かうほど相場は上昇し過熱状態と判断できます。反対に黄色いバーと赤丸が下位に向かうほど相場は下降し冷え切った状態と判断できます。
また、過熱度指数は相場全体に対する現在位置を表す指数として「相場水準指数」と同様の利用方法ができます。他の相場指数と組み合わせて総合的に判断してください。

「相場ゾーン指数」
相場水準指数が表示されているエリアの中央に赤色や緑色、青色のラインが表示されています。これらは大局的な相場のゾーンを表しています。
赤色は高値上昇ゾーン。　緑色はニュートラルゾーン。　青色は安値下降ゾーン。
他の相場指標と組み合わせて総合的にご判断下さい。

<<適用ランク>>
本システムの売買に適した銘柄をランキングして表示します。これらの銘柄はボラティリティ（変動率）が大きいく、株価変動ができるだけスムーズな変動(歪度の少ないの順に表示してあります。ここで計算されているボラティリティは、本システム内の変動率やベータ値と若干異なりますが考え方は同じです。上位にランクされた銘柄はハイリスク・ハイリターンの銘柄となりますのでロスカット等は躊躇せず実行しなければなりません。上位銘柄は利益になった場合の利益幅が大きくなりますが、実際の売買では各指標を十分検証してから売買しなければなりません。本システムでは、明確な損切りポジションを示していますので、これらを前提に売買するという条件の下では「適用ランク」の上位にランクされた銘柄を選択されることをお奨めします。

<<業績水準>>
本システムの業績の分析法は、独自の手法により分析を行っています。
一般的な業績の分析法は、今期または来期予想等に対しての売り上げの伸び率や一株益の伸び率などにより業績の良し悪しを判定するものです。しかし、何パーセント伸びたと言ってもその伸び率が他社に比べてどのぐらいの位置にあるか、また市場全体のどのぐらいの位置にあるかを判定することはできません。「業績が良い」というだけではその基準があいまいです。「何

に対して」「どの程度」といった明確な判定基準がなければなりません。

そこで本システムは「業績水準」指数により、これらの基準をより明確で、しかも銘柄選択にも容易に利用できるよう設計されています。従来の業績分析をさらに進めて、まず各銘柄の業績内容を売上、経常利益、利益等の業績を中心に２８項目からなる指標を分析してこれらを数値化します。

そして数値化された各項目を東証全銘柄の中でどの程度のランクに位置するかを判定します。さらにこれらのランク付けされた項目を集計して、「０」から「１０」の範囲に収まるように修正してあります。これらにより各銘柄の現在の業績水準の判定は、市場平均値に対して良いか悪いか、またその水準はどの程度かという明確な判定が可能となります

「０」から「１０」の中心値、つまり「５」が東証全銘柄の業績の平均値と言うことになります。「５」以上の銘柄は市場平均より業績が良いということになります。反対に「５」以下の銘柄は市場平均より悪いと言うことになります。
一般的に業績から仕掛け銘柄を選び出す場合、その調査する対象の銘柄も膨大となり、それらをさらに細部にわたり検討し分析しなければなりません。数多い銘柄の中からこれらの項目を詳細にわたり検討分析することは容易なことではありません。

当システムで採用しています「業績水準」の指数で買い付けする銘柄を選択する場合、業績指数が「５」以上の銘柄の中から選び、反対に空売りする場合は、業績指数が「５」以下の銘柄の中から選ぶということが可能となり、非常に取り扱いやすい指標となります。「業績水準」の指数で仕掛け銘柄がある程度絞り込めた時点で、初めて業績の各項目を詳細に検討すればよいわけです。「業績水準」指数を利用することによって非常に煩雑な作業から開放されることになります。これらのランク付けで銘柄の選択が容易にできるようになりますので、選択された銘柄をさらに詳細に分析、検証を行うことができます。

市場全体の業績は経済動向に大きく左右されます。各銘柄の業績は経済状況、景気動向により大きく異なってきます。売上や経常益の伸び率のみの判断ではなく、この銘柄は「市場平均値に対して」どの水準にあるかという考え方のほうが景気動向に左右されず、常に一定した見方ができるのではないかと考えます。なぜなら常に全銘柄の業績の平均値を軸として判定しているからです。特に「サヤ取り」や「裁定取引」等は銘柄間の比較を行うため非常に理解しやすい指標となります。
このように煩雑な業績分析をシンプル化することによって、市場全体の中でのランクが一目でわかり、株式投資において判定しやすい指標になります。この「業績水準」指標は本システムのすべてに採用してありますので、その趣旨を十分理解された上でご利用いただきたいと思います。

<<株価水準>>
銘柄選定において、現在の株価水準は非常に重要な点検項目となります。本システムでは、株価水準の判定は業績水準と同様に市場全体の株価水準の平均値を軸としてそれぞれの判定を行っています。
株価の市場平均は「ＴＯＰＩＸ」を採用しています。個々の銘柄は市場平均値(TOPIX)に対し

て割安か、割高かの判定を行います。市場平均値（TOPIX)に対して、個々の銘柄の割安、割高の分布は相場の変動にかかわらず常に一定であると考えます。
銘柄選択を行う場合、「株価が安い」というだけでは、その基準はあいまいです。現在の株価の位置をより明確な数値判定が必要となります。特に相場全体が急落した場合など、どの銘柄が割安でどの銘柄が割高であるかわからなくなってしまいます。このような場合でも市場平均を軸とする考え方は、割安か割高かの株価水準の判定をより明確に下すことができるようになります。
本システムでは、市場平均値（TOPIX)を「１」として、各銘柄の株価水準を判定しています。個別銘柄の株価水準が「１」より大きい場合は、その銘柄は市場平均より割高であると判断できます。反対に「１」より小さい場合は、市場平均より割安であると判断できます。

以上のように本システムでは、業績および株価水準を市場全体の平均値を軸とした判定方法を採用し、銘柄選択を容易に行うことができるよう設計されています。
買い付けする銘柄を選択する場合は、株価水準が「１」以下の銘柄の中から選び、反対に空売りする場合は、株価水準が「１」以上の銘柄の中から選ぶということが可能となり、非常に取り扱いやすい指標となります。
この「株価水準」指標は本システムのすべてに採用してありますので、その趣旨を十分理解された上でご利用いただきたいと思います。

<<(売)(買)マーク>>

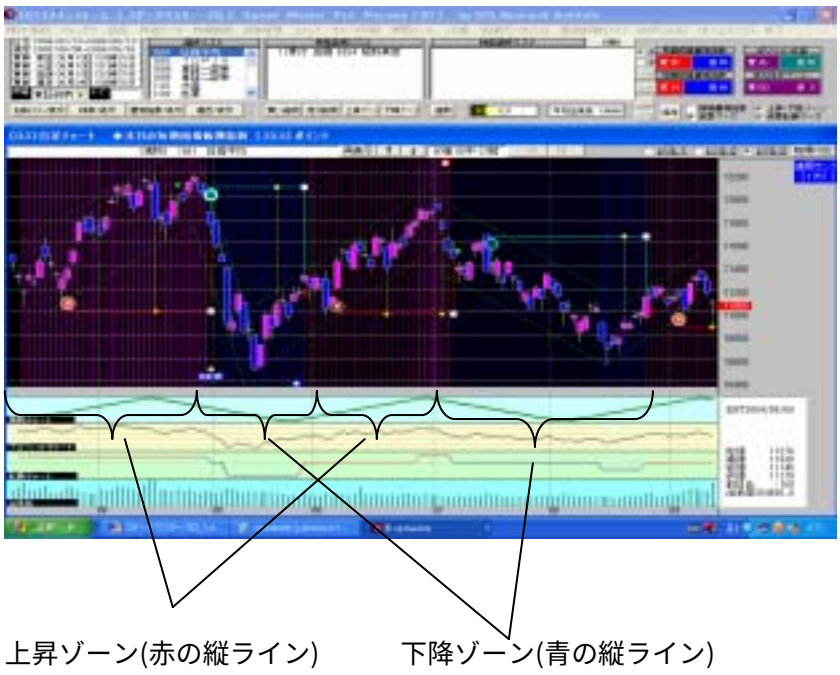
(売)(買)マークにより短期的な売買が可能となります。

「買いマーク」は赤色ライン上の（買)の付いたマークおよび赤色の丸のマークの両方です。
「売りマーク」は水色ライン上の（売)の付いたマークおよび水色の丸のマークの両方です。
黄色の丸は「決済可」のマークです。

白色の丸は「すべて手仕舞い」のマークです。

本システムの最大の特徴は、短期売買のための仕掛けポジションシグナルや明確な決済の指示です。これらの指示により「買い」または「空売り」の新規仕掛けを行ないます。
その後の決済や追加仕掛け、損切り、手仕舞いまですべてにおいて完全にフォローしています。
しかも、これらに要する売買期間は短期間であり、投資効率を非常に高めることができます。
株式投資には常に迷いや不安が付きまといます。本システムの明確な「仕掛け」「決済」等のサインは、投資家の意思決定を強力にバックアップすることができます。
「レベル１」「レベル２」「レベル３」ボタンにより、最適な売買マークを選択することができます。
本システムの（売）（買）マークおよび決済などの売買ルールに従い売買することにより、株式投資の原則である「相場の流れに沿った売買」「損小利大」の売買手法を忠実に実行します。

<<「上昇ゾーン」「下降ゾーン」>>
「上昇ゾーン」「下降ゾーン」により株価の転換が明確に判定されます。



上昇ゾーン(赤の縦ライン)　　下降ゾーン(青の縦ライン)

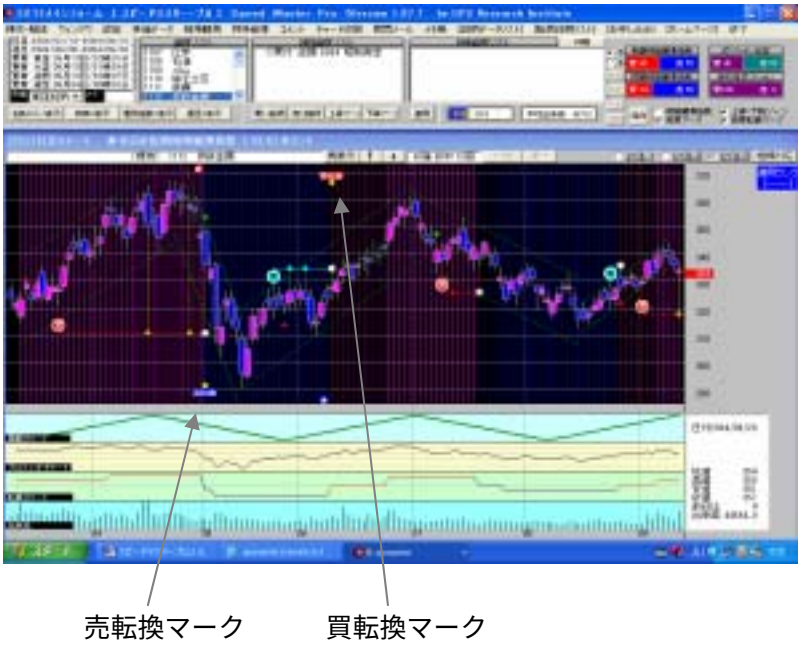
「上昇ゾーン・下降ゾーン」は「転換チャート」を基に作成されています。これらは株価の上げ下げの転換を捉えた指数であり、仕掛けのタイミングや決済のタイミングに利用します。
「上昇ゾーン・下降ゾーン」による転換での連続売買(どてん売買)では、東証全銘柄のすべての銘柄を売買しても平均でプラスになるというシミュレーション結果が得られています。
ひとつの指標ですべての銘柄に当てはまり、トータルでプラスとなる指標は公開されている分析指標の中では、この「上昇ゾーン・下降ゾーン」指標だけであると思います。
これらは本システム内の「転換銘柄リスト」で日々公開され、それらを証明しています。

変動率の大きな銘柄や「適用ランク」の高い銘柄などを選択されれば、これらを利用した売買法で「システム売買」も可能となります。

上昇ゾーンは、株価が上昇傾向を示したときに表示されます。赤色の縦ラインで表示されます。
上昇ゾーンで暗い赤色の縦ラインになっているゾーンは上昇が弱いと判断します。
下降ゾーンは、株価が下降傾向を示したときに表示されます。青色の縦ラインで表示されます。
下降ゾーンで暗い青色の縦ラインになっているゾーンは下降が弱いと判断します。

株価チャートのバックグランドに「上昇ゾーン」「下降ゾーン」のラインが表示されています。
一般的に「買い」は上昇トレンドの「押し目」で、「空売り」は下降トレンドの「戻り」で仕掛けることが基本です。「上昇ゾーン」「下降ゾーン」の表示によりトレンドの方向性が明確になるため、トレンド内の（売）（買）マークでの売買が非常に効率的となります。
また、「上昇ゾーン」「下降ゾーン」の転換による売買も可能です。。

<<売転換、買転換マーク>>
売転換、買転換マークにより相場の流れに沿った転換ポイントが表示されます。



日足チャート上に「買転換」「売転換」のマークが表示されます。上昇ゾーン、下降ゾーンに転換した時点で表示されます。「買転換」は「相場水準指数」が上昇中(0 ポイント以上)のみ表示されます。「売転換」は「相場水準指数」が下降中(0 ポイント以下)のみ表示されます。それ以外は表示されません。

<<目標値・抵抗線>>
目標値・抵抗線は、当研究所のオリジナル指標であり、テクニカル分析においては他には見られない画期的な分析指標です。
実際に仕掛けを行う場合、どの水準で仕掛け、どの水準で決済するかという問題が発生します。本システムの目標値・抵抗線により、これらの判定を容易に行うことができます。
目標値・抵抗線の算出の根拠は、過去の膨大な検証の結果得られた数値を採用しています。これらは最大公約数的な確率を基準としています。各銘柄の目標値・抵抗線は、これらの膨大なデータベースを基に個々の銘柄に最適な目標値・抵抗線を表示します。
特に短期売買に利用する『目標値・抵抗線「A)短期」』は、東証全銘柄の株価が抵抗線③から目標値④の範囲内に収まる確率は８０％前後です。目標値・抵抗線をこれだけ明確に表示したシステムは他には見られないと思います。十分に理解された上で活用ください。

これらの確率から「買い」は抵抗線③以下またはその近辺で、「空売り」は目標値④以上またはその近辺で、ということになります。さらにこれらの抵抗線、目標値上での「下げ止まり」「上げ止まり」の手法や多様な分析指標で売買されるとより効率的な売買が可能となります。

目標値・抵抗線は、A)短期、B)中期、C)長期の３種類表示できます。
A)短期・・・表示ライン赤色　B)中期・・・表示ライン紫色　C)長期・・・表示ライン青色
『「A」のみ表示』を選択された場合、　「B)中期」および「C)長期」の目標値や抵抗線が灰色のラインで表示されます。上げ止まり、下げ止まりの抵抗線としてご利用ください。
「設定」画面の設定により「全部表示」「A)のみ表示」「強のみ表示」の選択ができます。
３種類の目標値・抵抗線の中でどれを使用するかは「設定」画面で選択することができますが、短期売買の場合は通常「A)のみ表示」でよろしいと思います。

目標値および抵抗線の内容は。
仕手株⑥・・・本格的な仕手株となった場合の予想目標値です。
仕手化⑤・・・材料等の発表があった場合の予想目標値です。

目標値④・・・一般的な目標値です。通常は目標値④をターゲットとします。
抵抗線③・・・一般的な下げ止まりの予想値です。通常の買い仕掛けはこの水準、またはこの水準近辺での仕掛けとなります。（業績内容による）
抵抗線②・・・「投げ」等によりこの水準まで下げる可能性もあります。
業績の内容によってはこの水準まで下げる可能性もあります。
抵抗線①・・・業績の内容や悪材料、または以前に大きく上げた仕手株等となった銘柄もこの水準まで下げる可能性もあります。

※抵抗線③以下またはその近辺で買い付けた銘柄は、短期売買のため通常は上げ止まりで決済しますが、目標値④まで達するかは、業績の内容如何となりますが、その間は「つなぎ売買」やその他の指標を検証しながら売買します。
※「強のみ表示」の設定で表示された目標値・抵抗線が現在値とあまりにもかけ離れている場合は「A)のみ表示」に切り替えて表示してください。
※目標値および抵抗線の数値が「０」場合は、計測不能の数値です。

<<売買シグナル>>
売買シグナルは他の指標と組み合わせてご利用ください。売買シグナル単独での利用は避けてください。
売買シグナルは、株価の転換点を捉え安値より若干上昇傾向を示した時に買いシグナルを、高値より若干下降傾向を示した時に売りシグナルがチャート上に表示されます。仕掛け、決済のタイミングを図る指標となります。売買シグナルは、順張り手法で作成されています。また、売りシグナルと買いシグナルは交互に発生するように設計されていますので、「つなぎ売買」「増し玉」等に利用されると効果的です。

買シグナル

条件の整った「買いシグナル」

買シグナル・・チャート画面上に赤色の「▲」マークで表示されます。
本システムの計算値により自動的に表示されます。株価が若干上昇となった時点でマークされます。
買い付け水準である「A)抵抗線③」以下またはその近辺で「▲」マークが表示された場合は、「○」の中に「▲」マークが表示されます。業績水準は考慮されていませんので注意してください。
業績水準が「５」ポイント以上の銘柄で「A)抵抗線③」から１０％以内に「▲」マークが表示された場合は、「◎」の中に「▲」マークが表示されます。(１０％とは「A)抵抗線③」から上に向かって)この場合若干の戻りを待ってからの仕掛けが効果的です。
業績水準が「５」ポイント以上の銘柄で「A)抵抗線③」以下、またはその近辺で「▲」マークが表示された場合は、「●（白色）」の中に「▲」マークが表示されます。その他の条件が合格すれば仕掛けのタイミングとなります。

売シグナル

条件の整った「売りシグナル」

売シグナル・・チャート画面上に緑色の「▼」マークで表示されます。本システムの計算値により自動的に表示されます。株価が若干下降となった時点でマークされます。
空売り水準である「A)目標値④」以上またはその近辺で「▼」マークが表示された場合は、「○」の中に「▼」マークが表示されます。業績水準は考慮されていませんので注意してください。
業績水準が「５」ポイント以下の銘柄で「A)目標値④」から１０％以内に「▼」マークが表示された場合は、「◎」の中に「▼」マークが表示されます。(１０％とは「A)目標値④」から下に向かって)この場合若干の戻りを待ってからの仕掛けが効果的です。

業績水準が「５」ポイント以下の銘柄で「A)目標値④」以上、またはその近辺で「▼」マークが表示された場合は、「●（白色）」の中に「▼」マークが表示されます。その他の条件が合格すれば仕掛けのタイミングとなります。

【注意】
売買シグナルを利用して売買される場合、「▲」または「▼」のマークのみの表示では新規の仕掛けはできませんので十分注意してください。これらのマークは決済や増し玉、つなぎ等に利用します。新規の仕掛けは、「▲」または「▼」のマークに「○」「◎」「●（白色）」のマークが付いたシグナルのみです。ただし他の指数と併用してご利用ください。

売買シグナルを利用される場合は、株価の変動幅やベータ値が小さいと順張りのため「だまし」に遭うことがありますので株価幅やベータ値のある程度大きな銘柄を採用すべきです。「適用ランク」を利用すると便利です。

上下の値動きの激しい銘柄は、「だまし」に遭うこともありますので、売買シグナルを利用される場合は、ある程度資本金が大きくうねりのある銘柄を採用するべきです。また「もちあい」の多い銘柄も避けるべきです。

【注意】
目標値や抵抗線が変化した場合は、これらに伴い売買シグナルのマークも変化します。この場合、以前にマークが付いていなかった売買シグナルにマークが付いたりすることがありますが、これらは無視してください。大証、店頭銘柄は業績水準がありませんのでマークは「○」のみとなります。

<<ベクトル指数>>
　ベクトル指数は、株価変動をスムーズなラインで捉えることができます。

ベクトルチャート（A）
　初期設定　赤色

ベクトルチャート（B）
　初期設定　紫色

ベクトル指数は、初期設定では「非表示」となっていますので、表示する場合はメニューバー

の「設定」で「表示」にチェックを入れて表示してください。

ベクトル指数を開発するきっかけは、株価のランダムな値動きをできるだけスムーズなラインで視覚的に捉え、そしてそれらの転換点をキャッチできないかという考えからです。
スムーズなラインを描く指数は一般的には移動平均線が上げられますが、これらは平均日数を長くすればするほど移動平均線と株価のトップまたはボトムの位置がずれてしまうため、これらによりトップ、ボトムの判定を行うには少々無理があります。また平均日数を短くすると株価の値動くと同じようになってしまいます。

これらの問題をできるだけ株価の値動きにずれないように、またスムーズなラインを描き株価の転換点が見てわかるように開発された指数がベクトルチャートです。ベクトルチャートは移動平均線を変形したものではありません。

ベクトルチャートは A と B がありますが、A は株価の変動をよりスムーズなラインで描き株価の高値、安値を的確に捉えるよう設計されています。A ラインの見方は、その変動幅ではなくその転換点を良く見てください。またこれらのラインの位置が株価の上にあっても下にあってもまったく関係はありません。ラインが上げ渋り、下げ渋りとなりますと株価もそれらに対応して転換してくるはずです。

B ラインは A ラインより株価の変動にできるだけ忠実にその変化を捉えています。A ライン、B ラインがともに上向きであれば株価は上昇またはいずれ上昇、下向きであれば下降またはいずれ下降と判断することができます。つまりこれらのラインは、株価の値動きを滑らかにして転換点を捉えやすくするための指数です。ベクトルチャートは、周期相関の高い銘柄に良くフィットします。ただ、短期間に上下に激しく変動する銘柄に対しては不向きです。

「ベクトルチャート（A）」
ベクトルチャート（A)は、株価変動の加速度を表した指数です。一般的に下降または上昇の転換時には、下げ渋りまたは上げ渋りの現象が発生します。また、一旦上昇または下降となれば株価は急激に変化します。このような変化を数値化して表示したチャートがベクトルチャート（A)です。株価が安値を更新しつつも、ベクトルチャート（A)が下げ渋ってくると反騰のきざしと判断できます。また株価が高値を更新しつつも、ベクトルチャート（A)が上げ渋ってくると反落のきざしと判断できます。
スムーズなカーブを描くため株価の変化の傾向が非常に読みやすくなります。ベクトルチャート（A)は、「周期相関」の高い銘柄によくフィットします。売買シグナルより若干早めに転換します。
※ベクトルチャート（A)は加速度を計算した指数ですので、株価の上昇・下降の変動幅とベクトルチャート（A)の上昇・下降の変動幅とは特に相関はありません。上昇か下降かの傾向を判断する指数です。

「ベクトルチャート（B）」
ベクトルチャート（B)は株価の上昇・下降の角度を計算した指数です。株価が下落して下げ止まってきますと、その角度も緩やかになります。株価が急上昇となればその角度も鋭角になり

ます。これらの角度の変化を数値化して表示したチャートがベクトルチャート（B)です。
株価が下降となれば、それに伴いベクトルチャート（B)も下降となります。
その後ベクトルチャート（B)のカーブが丸みを帯びて株価の下げ止まりを暗示します。
仕掛けのタイミングです。株価の変動に比べスムーズなカーブを描くため株価の変化が読みやすくなります。
ベクトルチャート（B)は、ある程度うねりのある銘柄によくフィットします。できるだけ「周期相関」の高い銘柄を選ぶべきです。売買シグナルより若干早めに転換します。

※ベクトルチャート（B)の上昇幅や下降幅と株価の変動幅とは特に相関はありません。
　ベクトルチャート（B)は、株価の方向性やその角度を測る指数です。

<< 予測チャート >>

予測チャートは、現在より今後２０日ほどの展開を予測します。ただし、予測相関指数が５０ポイント以下の銘柄は予測チャートの表示はありません。「検索(複合検索)」画面の「08)予測相関」の下限を５０として検索すると、予測チャートが表示される銘柄が検索できます。

予測チャートは、初期設定では「非表示」となっていますので、表示する場合はメニューバーの「設定」で「表示」にチェックを入れて表示してください。

予測チャートは、今後の株価の方向性を予測するチャートです。今後の株価を予測することは非常に困難ではありますが・・・。予測チャートは、現在より今後２０日ほどの展開を予測しています。チャート上に表示されている現在値以前の予測チャートは、過去において予測した実績の予測チャートです。
過去において株価と予測チャートの変動が予測通りに展開している銘柄は、今後も同様な値動きとなると予想(過去のシミュレーションの結果)されますので株価の値動きと予測チャートの相関性は非常に重要となってきます。
予測チャートにより今後の株価の方向を予測する場合、予測相関指数の高い銘柄を選ぶことが

不可欠となります。よって予測相関指数は５０ポイント以上の銘柄が望ましくなります。それ以上の銘柄はなお良いということになります。

予測チャートは、その銘柄の今後の予測値として表示されますが、銘柄によっては前後に若干の補正を必要とする場合があります。補正は日足チャート画面の「←補→」ボタンにより株価の値動きと予測チャートができるだけ一致するように補正します。
株価の高値と安値、予測チャートの高値と安値が一致するように補正して今後の株価の予測を行うようにします。予測相関指数は「ランキング検索」で上位より検索することができます。

※株価の今後の展開が予想される値幅と予測チャートの予測の値幅には相関はありません。
　予測チャートは今後その銘柄が上昇か下降かの傾向を判定するものです。
※予測相関指数が５０ポイント以下の銘柄は予測チャートの表示はありません。

<< トレンドライン >>
株価の転換点を捉え、それらにトレンドラインを引きます。株価のトレントを視覚的にキャッチすることができます。

トレンドライン

上昇トレンドの下限線の延長のラインを下に切ると下降となる可能性がある。

下降トレンドの上限線の延長のラインを上に抜けると上昇となる可能性がある。

初期設定　緑色　(長期)

株価の値動きや変動には、傾向としてトレンドが発生します。そのトレンドは上昇トレンドと下降トレンドに分けることができます。現在の株価のポジションが上昇トレンド中であるか下降トレンド中であるかは、売買において重要な意味を持ちます。短期、中期、長期のトレンド設定が可能です。これらは投資家の投資スタンスにより選択します。
一般的に、下降中のトレンドラインの上部ラインを上に抜けると上昇転換、上昇中のトレンドラインの下部ラインを下に抜けると下降転換と判断できます。
直近の株価にトレンドラインが引かれていない銘柄があります。これらはまだトレンドが確定していないためであり、今後株価が上下に変動することにより、いずれラインが引かれます。

<< 周期チャート >>

規則性のある株価の周期をチャート表示します。株価のボトム、ピークの確認ができます。

周期チャート

株価の高値から高値、安値から安値までの期間が一定している
株価の変動周期が周期チャート同じように変動している。

株価はある程度の周期性をもって変動しています。周期チャートは、株価変動の中からもっとも周期的と思われる期間を捉え、これらを表示したチャートです。周期日数は、周期の高値から高値、安値から安値までの期間を表しています。周期チャートのトップやボトムの位置で今後の株価の高値、安値の時期がおおよそ見当をつけることができます。

周期チャートを見る場合には必ず周期相関指数を見なければなりません。周期相関指数は、株価の変動に対して周期チャートとの信頼度(相関性)をはかる指数です。高い指数がより周期性のある銘柄ということになります。周期相関指数は、５０ポイント以上の銘柄が望ましい。

５０ポイント以上の銘柄は、周期チャートラインが緑色の太いラインで表示されます。
２５ポイント以下の銘柄は、周期チャートラインが灰色のラインで表示されます。
周期相関指数は「ランキング検索」で上位より検索することができます。

<< プロフィットチャート >>

プロフィットチャートは主に高値圏、安値圏で株価が転換するかどうかの判定に利用します。プロフィットチャートは、短期資金の回転およびその収益性を分析したチャートです。株価の高値時および安値時において、その株価の今後の方向がある程度事前にキャッチすることができます。

〔高値圏の場合〕

A の株価と B の株価とを比較すると B の株価の方が高くなっています。

しかしプロフィットチャートを見ると A より B の方が低くなっています。

これは株価が高値を更新しているにもかかわらず、目先は高値を打ったと判断できます。

プロフィットチャート

〔安値圏の場合〕

A の株価と B の株価とを比較すると B の株価の方が安くなっています。

しかしプロフィットチャートを見ると A より B の方高くなっています。

これは株価が安値を更新しているにもかかわらず、目先は底値を打ったと判断できます。

プロフィットチャート

プロフィットチャートは、常に現在の株価に先行して株価の変化を読み取ります。
株価が高値を更新しているにもかかわらず、プロフィットチャートはすでに下降傾向を示していれば、目先高値をつける可能性が高くなります。決済のタイミングとなります。株価が安値を更新しているにもかかわらず、プロフィットチャートが上昇傾向を示せば株価は近々底打ちして反転すると判断できます。仕掛けのタイミングです。株価の先行きを事前にキャッチできる貴重なチャート指数です。

プロフィットチャートで今後の傾向を判断する場合、過去に遡り比較するわけですが、その遡る期間は、現時点より過去２０日(約１ヶ月)以内とします。過去２０日以内の範囲で株価の値動きとプロフィットチャートの値動きを比較して判断します。たとえば株価が安値を更新している場合、現在より過去２０日間の株価の値動きとプロフットチャートの値動きを比較します。２０日間の株価の高値、安値を見ていきます。このとき同じくプロフィットチャートの高値、安値と比較します。株価が安値を更新しているにもかかわらず、プロフィットチャートの安値は更新していない。このような状態になるとそろそろ底値が近いと判断します。おもに高値圏および安値圏で判定します。

プロフィットチャートの中央部分に赤のラインが引いてあります。これは損益分岐点として判断してください。

２０日以上での比較は効果がなく、間違った判断となりますので避けてください。

その他の指数と総合的に判断しますとより効果的です。

<< 転換チャート >>

下降トレンド(青色)　　上昇トレンド(赤色)

株価がある程度の水準に達すると、またはある程度の水準を切ってくると、そこを基点として上昇または下降となるものです。転換チャートは、短期的な上昇トレンド、下降トレンドの転換点を表したチャートです。本システムの「上昇ゾーン」「下降ゾーン」は転換チャートによって判定されています。
持ち株の処分、ロスカット(損切り)のポイントとして利用されると効果的です。
たとえば買い持ちであった銘柄が上昇し、その後転換チャートが「赤色」から「青色」に転換した時点で持ち株を処分します。
「赤色」の表示期間中は上昇トレンド。「青色」の表示期間中は下降トレンドと判断します。
変動率の高い銘柄、「適用ランク」の上位ある銘柄などは、これらの転換ごとに「どてん売買(システム売買)」をしても十分に収益は確保できます。

<< 異常値・超異常値 >>

上値異常値・上値超異常値
(水色)　(青色)

下値異常値・下値超異常値
(紫色)　(赤色)

「異常値」
株価はある程度周期やトレンドを描いて変動しています。
しかし、個別銘柄において、何か突発的なニュースや何らかの情報があった場合などは一時的に株価が急騰、急落する場面があります。
これら通常の値動きから逸脱した時点をキャッチします。
下値異常値・・チャート画面上に紫色の小さい「●」マークで表示されます。
通常の値動きに対し異常な値動き（急落）が発生した場合に表示されます。
急激な変化に対してのみ表示されます。
※ただし、株価幅やベータ値の非常に大きい銘柄および大幅な権利落ち後のマークは参考にしません。

上値異常値・・チャート画面上に水色の小さい「●」マークで表示されます。
通常の値動きに対し異常な値動き（急騰）が発生した場合に表示されます。
急激な変化に対してのみ表示されます。

「超異常値」
前項の異常値を更に逸脱した場合に超異常値としてマークされます。
このような状態は長くは続かず、結果的に天井であったり底値であったりする場合が
多く見受けられます。

下値超異常値・チャート画面上に赤色の小さい「●」マークで表示されます。
「下値異常値」を更に逸脱した（急落）値動きになった場合に表示さ
れます。おもに底値圏で発生します。
※ただし、株価幅やベータ値の非常に大きい銘柄および大幅な権利落ち後のマ
ークは参考にしません。

上値超異常値・チャート画面上には青色の小さい「●」マークで表示されます。
「上値異常値」を更に逸脱した（急騰）値動きになった場合に表示さ
れます。おもに天井圏で発生します。

ただし、大幅な業績の修正があった場合や大幅な権利落ち後の異常値・超異常値は参考としません。また、店頭銘柄などで恒常的に大幅な値動きの銘柄がありますが、これらの銘柄も参考としません。

<< 「★」マーク >>

日足チャート上に赤と青の「★」マークがついています。これは「転換チャート」が過去６ヶ月間で、最大値と最低値のところに表示されます。「転換チャート」が最大値または最小値が続く限り「★」マークは右に移動していきます。「転換チャート」が反転した時点で「★」マ

ークが停止します。「★」マークが停止した時点は指数上の高値、安値と判断してください。

「★」マークは通常白色で表示されますが、「★」マークが表示された以前(直近)に株価が目標値④以上をクリアした、または株価が抵抗線③以下をクリアした場合は、「★」マークの色が変化します。

本システムの仕掛けは、買い付けは抵抗線③以下、空売りが目標値④以上となっているため「★」マークの色が変化している銘柄は仕掛けの基準に合格しているということになります。ただし、現在の株価の位置やその他の指標も検証しなければなりません。

注意事項

株価や出来高は時間の経過とともに常に変化していくものです。
これらの変化に伴い当然ながら目標値や抵抗線等も変化してきます。持ち株として実際に仕掛けてある銘柄の目標値や抵抗線等が突然変化してしまうという現象が起こることがあります。
これらは株価や出来高の変化に伴って起こる現象であり必然的なものです。
実際仕掛けている銘柄がこのような状態になる場合がありますので、仕掛け時の目標値や抵抗線は必ずメモをしておいてください。
目標値や抵抗線が新しく発生しても、仕掛け時の目標値や抵抗線は有効です。しかし、新しく発生した目標値や抵抗線も参考にして売買してください。

また、目標値や抵抗線の変化に伴い売買シグナルのマークも変化します。これらはシステム構成上の問題であり、以前に「○」「◎」「●」のマークが付いていなかった売買シグナルにマークが付いたりすることがあります。業績に変化があった場合にもマークが変化することがあります。たとえば業績水準が「５」以下であった銘柄が「５」以上になった場合などです。売買シグナル（▲▼）自体の変化はありませんが、「○」「◎」「●」のマークが変化しますので注意してください。

本システムには何種類かの異なった売買システムがあります。そのため、それらの売買システムにより、一方は「買い」で他方は「売り」となる場合があります。これらは投資スパン(期間)や分析手法の違いにより、このような結果となるためであり矛盾するものではありません。

(売)(買)マークにおいて６ヶ月前近辺の(売)(買)マークは、本システムの表示期間が６ヶ月間であるため、それ以前に売買マークが表示され引き続き持続されている場合、途中で売買が継続されている表示ができません。そのため６ヶ月前近辺の売買マークでは、損となって表示がなされる場合があります。これらは上記の理由により６ヶ月前よりの売買が継続されていると判断してください。これらは表示上の問題であって、実際の売買には全く影響ありません。

本システム稼動中に「続行不可能なエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示されることがあります。この場合、本システムを再起動しなければなりません。これらはウィンドウズシステムからのメッセージであって、本システムのプログラムからのエラーメッセージではありません。当システムの開発言語とウィンドウズとの互換性の問題であると思いますが、いまだ解決に至っておりません。お手数でも原因究明まで再起動で対処頂きたいと思います。

メンテナンス漏れなどにより銘柄名が表示されなかったり、株価単位の表示が異なっていたり、その他の表示が誤っていたりする場合があります。このような状況がございましたらご連絡頂きたいと思います。至急修正いたします。

本システムの都合上(株価単位が大きすぎる)、「2392 セキュアード」と「2393 日本ケアサプライ」「3325 ケンコーコム」の３銘柄はリストに入っておりません。

回線接続のトラブルについて

インターネットが閲覧できる環境であれば必ず本システムはご利用いただけます。
接続ができない、接続に時間がかかる等につきましては下記の方法で対処してください。

◆接続が不可能な場合
接続が全く不可能な場合は、その原因として「外部サーバーへの接続不可」の設定がなされているためです。その多くは通信モデムやルータの設定にあると思います。これらを解除することにより接続が可能となります。解除の方法は、添付のマニュアルの「詳細設定」などに説明してあると思います。もし、それらが分からない場合はメーカーに直接問い合わせると良いと思います。これらの通信回線モデムやルータの設定で「簡単設定」「おまかせ設定」等の場合は、ほとんどがファイアウォールによる「外部サーバーへの接続不可」の設定となっています。これらの設定を「外部サーバーへの接続可」にすることにより接続できるようになります。「詳細設定」により解除の設定ができます。

◆モデムやルータの設定は、それらの製造メーカーにより異なりますが、あるメーカーの設定解除の方法は。モデムのセキュリティのところで。
1. 外部装置から開始されるＴＣＰセッションを遮断。
2. 外部から本装置へのアクセス(WWW.ＦＴＰ.ＰＩＮＧ)を禁止。

この 2 箇所の設定を解除することにより接続できます。

◆また Windows XP　SP2 にバージョンアップされて、接続できない場合は下記の方法で設定してください。
１．「スタート」をクリックします。
２．「コントロールパネル」をクリックします。
３．「セキュリティセンター」をダブルクリックします。
４．「Windows ファイアウォール」をクリックします。
５．「例外」を選択します。

６．該当システムにチェックを入れて「ＯＫ」ボタンをクリックします

また、ウィルスソフトなどのセキュリティシステムソフトにファイアウォールによる「外部サーバーへの接続不可」の設定がなされている場合もあります。これらも「ヘルプ」や添付されている「ドキュメント」等に説明してあると思います。もし、分からない場合は直接尋ねてみるのも良いと思います。最近は、ウィルスの蔓延などにより初期設定の段階から、「外部サーバーへの接続不可」の設定がなされているようです。
本システムを利用されるためには､通信ソフト｢インターネット・エクスプローラ(ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ) ５．０」以上がインストールされていることが条件です。
「外部サーバーへの接続不可」との表現は、ご使用のモデムやルータによって異なります。

◆通信速度が遅い場合
本システム自体はインターネットと同様の通信システムです。本システムは株価データ等を外部サーバーから直接読み込みます。そのためウィルス防止などのセキュリティシステムで、外部サーバーへのアクセスが制限されている場合は、データの読み込みに非常に時間がかかるという現象が起こります。ウィルスソフトなどのセキュリティシステムが「強」に設定されている場合は、外部サーバーへの通信に時間がかかります。これらを「中」または「弱」等で、または一時的に停止して一度おためし頂きたいと思います。また、通信回線のモデムにこれらの設定が施されている場合もございますので一度お調べ下さい。ウィルスの蔓延により、初期設定では「強」に設定されていると思います。

ご利用の通信回線システムが、ＩＳＤＮや低速のＡＤＳＬなどにおいてもデータの取り込みが遅くなる場合があります。ＡＤＳＬ等は、一本の回線を何人もの利用者で使用しているため、一度に多くの利用者が同じ時間帯に殺到しますと通信スピードが大幅にダウンします。これらはＡＤＳＬのシステム上の問題です。また、パソコンの処理スピードやメモリーの容量が小さい場合などで処理スピードが遅くなることもあります。また、ご利用されているプロバイダーの処理能力や通信回線の保有数が少ない場合などでも、処理スピードが遅くなることもあります。午後の 8 時ごろを過ぎるとインターネットにアクセスする人が多くなるため、これらの時間帯では通信速度がダウンすることがあります。

当システムは、現在多くの投資家の方にご利用頂いておりますが、上記の対応でほとんど正常に作動しております。目安としては、起動後に「ＯＫ」ボタンをクリックしてから「データを読み込んでいます」の後、そのスタートアップ画面が消えるまでは３０秒以内です。それ以上の場合は上記の方法で対処してください。

上記の操作でも改善が見られない場合、もし、お知り合いの方で同じ環境で利用できる方がおられましたら一度そちらでテストして頂いてはいかがでしょうか。

以上、その他不明な点がございましたらご遠慮なくお問い合わせ下さい。責任を持ってサポート致します。

◆通信回線のフリーズについて

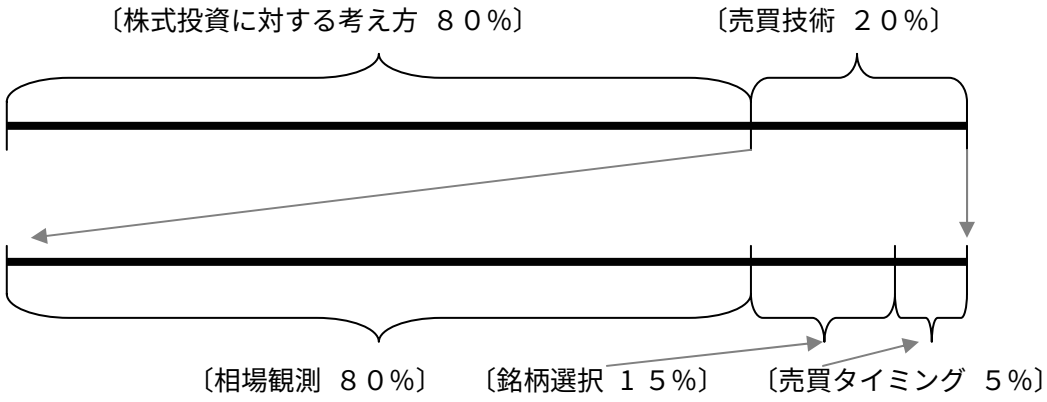
フリーズとは、マウスやキーボードが操作不能の状態を言います。
本システムは回線を利用し、サーバーとデータの送受信を行いますので必ず回線を接続してからご利用下さい。本システムの利用途中に回線の切断や混線その他の状況により一時的にシステムダウンが起こることがあります。ご利用中にこのような状態が起こりますと、システムがフリーズ(コンピュータ操作不能の状態)してマウスやキー操作が不能となります。このような状態になった場合、その回避策として下記の方法で対処して下さい。

(A) しばらくそのままお待ち下さい。再び自動的に回線が接続されます。
(B) 長期間フリーズ状態になった場合。
①キーボードより「Ｃｔｒｌ」「Ａｌｔ」「Ｄｅｌｅｔｅ」の３つのキーを同時時に押します。機種によっては「ＣＴＲＬ」「ＧＲＰＨ」「ＤＥＬ」の場合もあります。
②「プログラムの強制終了」の画面が表示されますので「終了」のボタンをクリックします。
③次の画面で「終了」のボタンをクリックします。
④本システムがキャンセルされますので、再度システムを立ち上げてください。

■　ＳＰＳ研究所の株式投資理論　■

ＳＰＳ研究所の株式投資理論

ＳＰＳ研究所では株式投資に対して下記のように考えています。
株式投資で成功することが「１００％」とすると、その概念は。



つまり株式投資で成功するためには、「株式投資に対する考え方」が全体の８０％の割合を示し、いかに重要な問題であることが理解できると思います。売買技術は２０％にすぎません。その売買技術の２０％の中に、相場観測、銘柄選択、売買タイミングがあるわけです。

株式投資は、投資の三原則といわれる「相場観測」「銘柄選択」「売買タイミング」を投資の基本とされていますが、これらは株式投資に対する「正しい考え方」がマスターされた後の技術的な問題です。株式投資で収益を上げるためには、いかに投資に対する考え方が大きな要因であることがご理解いただけると思います。

一般に投資家は常に値上がりしそうな銘柄を追い求めています。しかし、上記の概念から判断すると、銘柄選択は儲けるための手段のほんの一部でしかありません。株式投資で収益を上げるためには儲かる銘柄探しだけではなく、もっと大事な「正しい投資に対する考え方」を学ばなければならないと考えます。株式投資に対する考え方が間違っていれば、あらゆる売買技術を駆使してもその成果は納得できるものにはならないと思います。

株式投資で収益が上がらないということは投資に対する考え方に問題がある場合が多く、これらを基本から考え直し正しい運用ができて初めて収益を上げることが可能となります。

当研究所では、売買技術面においてはテクニカル分析を中心とした分析を行っています。
分析手法は、まず相場の方向性を確認します。相場の方向を間違いますと後はどのような分析法を採用しても収益にはつながりません。相場の流れに沿った売買、つまりトレンドフォロースタイルの売買を主体としています。また、その売買においては投資必勝法である「損は小さく早めに処分する、利益はできるだけ大きく取る」の「損小利大」の売買手法を取り入れています。「相場の方向性の確認」「損小利大」が当研究所のテクニカル分析の基本です。

株式投資に対する考え方

株式投資においては、その正しい理論とそれらに基づいた実践において初めて収益を上げることが可能となります。しかし、その正しい理論と実践方法が何であるか理解し売買している投資家は少ないのではないでしょうか。株式投資で「儲からない」ということは売買の結果であり、その原因となる株式投資に対する考え方や売買手法が間違っているということが言えます。一言で「正しい投資法とは何か」ということは難しい問題ではありますが、これらの問題をひとつひとつ解き明かすことが株式投資で成功する手段であると考えます。

株式投資は思っているより奥が深いものです。バブル崩壊前は上昇相場に乗って稼いできたものの、その後の長期低迷で投資意欲を失っている投資家も多いと思います。その結果、ある人は今までの損を取り戻すべく思考錯誤しながら必勝法を模索し、ある人は夢破れ市場より去って行った人も少なくないと思います。しかし、投資家の皆さんは収益悪化を株式市場の問題として責任転嫁していないでしょうか。「相場が下がっているから儲からない」と考えてはいないでしょうか。今まで自分が実践してきた投資手法や考え方に間違いはなかったか、と考えたことがあるでしょうか。

相場の展開がどうであれ、株式市場で収益を上げる方法はあるはずです。株式投資で収益の上がらないことを相場の問題にすることは大きな間違いです。相場が下がるのであれば「空売り」や「つなぎ売買」「サヤ取り」「裁定取引」といった売買手法あります。皆さんはこれらの手法を利用したことがありますか。

相場が下げているのに買いのみで立ち向かうのは無謀であり収益が上がらないのも当然です。株式投資で収益の上がらないことは相場の問題ではなく、多くは投資家自身の考え方やその投資手法に起因するものです。

不確実なうわさや情報によって売買していませんでしたか。
ここぞとばかり一発勝負に出たりしていませんでしたか。
今まで確固たる投資手法を持って売買していましたか。

投資の世界は「結果がすべて」です。これからは投資の原点に立ち戻り、正しい投資法を身につけ新たなチャレンジをしてはいかがでしょうか。

投資の知識

株式投資は資金さえあれば誰でも参加でき自由に売買ができます。しかし、その成果となると投資家によりさまざまです。相場で儲ける人は１００人中で３人といわれています。株式投資の成果は何で決まるのか。株式投資はあらゆる角度からの分析、検証が必要となってきますが、それらの中で一番重要であり基本となるものは「正しい投資の知識」にあると思います。一般的に、ひとつの物事を修得するとなると通常、書物で勉強したり学校に通ったりするわけですが、皆さんはどのようにして投資知識や売買手法を修得されたのでしょうか。株式投資に関しては残念ながら「これが正しい投資法」といった教科書はありません。書店に行って「株式コーナー」で儲かる？投資法の書物を読んだり、あるいは証券会社主催の講演会に出かけて行ったり、投資雑誌や業界紙などで値上がりしそうな推奨銘柄の記事を読んだりすることが一般的

ではないでしょうか。また最近ではインターネットでの情報収集がさかんに行われています。

書店では「絶対上がる銘柄の選び方」や「私はこの方法で一億円儲けました」など怪しげな本が多く、これらの書物を読んでも「百害あって一利なし」です。証券会社の講演会も会社サイドの銘柄推奨であったりして問題があります。投資雑誌や業界紙にいたっては「ここが勝負どころ」「一発必中銘柄」等の派手な記事が多く見受けられます。株式投資は勝負ごとではないのに…。株式投資はギャンブルではなくビジネスです。

上記の方法からの投資情報や投資知識は、かなり偏った情報や知識が多く投資成果にはつながらないように思えます。

では、どの様にして株式投資に関する正しい知識や正しい情報を得れば良いのでしょうか。
たとえば買い付けする銘柄を選ぶ場合、業績が良く株価水準が安値圏にある銘柄ということになります。「そんなこと誰でも知っているよ」と叱られそうですが、実は株式投資の基本は非常にシンプルであり簡単なものなのです。株式投資は誰でも知っている手法の繰り返しなのです。

しかし、現実を見るとかなり違ってきます。証券会社の営業マンから「まだ公表されてない情報があります。この銘柄は上がりますよ。」などと囁かれると何も調べもせずつい飛びつき買いをしてしまったなどという経験はありませんか。なぜこのような安易な方法に走ってしまうのでしょうか。それは投資家自身に確固たる投資知識、投資手法を持っていないためです。自分なりの投資手法を持っていれば、これらの雑音に惑わされることなく自分の投資法を貫くことができるはずです。

株式投資で成功するということは、投資の基本に基づいた自分なりの投資法の確立を図るということなのです。

株式投資に対する問題点

１)現在の投資手法の問題点

投資経験が３年以上でトータル成績がマイナスであった場合、その投資手法は間違っていると言えます。今後その投資手法で収益を上げていくことは困難であると考えます。
我々が生活している社会で、物事の現象はすべて原因結果の法則で成り立っています。原因なくして結果なしということです。これらの法則を株式投資に当てはめてみますと、「儲かった」「損した」ということは結果であり、それにはそれなりの原因があるはずです。業績が良い銘柄を安値で仕掛けたので儲かった。値上がりするという情報が入ったので、買い付けしたが結果的に高値掴みとなり損をした。

株式投資の結果である収益を上げるためには、原因となる正しい分析、正しい判断が不可欠となってきます。しかし、どれが正しい分析や正しい判断であるかは非常に難しく、これらは投資家にとって永遠のテーマでもあります。現実的にこれらの判断は困難ではありますが、逆に明らかに間違った考え方やその判断を消去法的に少なくしていけば収益の上がる方向へ少しでも近づくのではないかと考えます。儲かる投資法を見つけ出すことは難しいのですが、しかし

間違った投資法では何年株式投資に励んでも納得のいく結果は得られないと思います。

２)間違った常識

我々を取り巻く株式投資の世界では「間違った常識」がまかり通っています。「株式投資は情報の先取りである」とか「過去の経験則によると」などと言った、一見当たり前の常識と思われることが専門家の間でも違和感なく使われています。確かに情報の先取りができれば良いのですが、それらの情報が我々に入ってくるのは最終段階の情報であり、買い付けしようとしてもすでに株価は上昇していることが一般的です。

インターネットの発達により情報の伝達は瞬時であり地域格差もなくなりました。株式投資に関する情報も洪水のように溢れています。これらの中から有効な正しい情報を探し出すことはなかなか難しいと思います。あまり情報が多いと迷いが生じるものです。情報は噂や怪しげな情報もあり、これらを判断するにはインサイダーがらみでもなければ無理なことです。

これらの問題も正しい知識と客観的な立場で冷静に考えれば避けられるものと思います。間違った考えやその手法を取り除くことによって、初めて株式投資のスタートラインに付くことができます。

３)分析指標の問題点

株式分析指標は数多くあり、どの指標がよく当てはまるかその判断は難しいところがあります。たとえば一株純資産（ＰＢＲ）は大底での買い付けには非常に効果的な指標です。一般的に一倍を割ったら買いと言われています。バブル上昇期には一倍割れの銘柄は皆無に近い状態であり、現在のような低迷期には多くの銘柄が一倍割れの状態です。しかし、一倍割れの多くの銘柄の業績はさらに低下の一途をたどっているのも事実です。

テクニカル分析指標にカイリ率があります。一般的に移動平均線に対してどれだけカイリしているかといった使われ方をしていますが、通常の相場であれば利用可能とは思いますが、もし暴落などがあった場合すべての銘柄が通常の基準値から大きくカイリしてしまい、これらのカイリ率は使い物にならなくなってしまいます。

当研究所では、一般に出回っているテクニカル分析指標、「移動平均」から「かぎ足」をはじめ「ＲＳＩ」「ＲＣＩ」やオシレター系、モメンタム系などあらゆる指標で長期間の売買シミュレーションを行いました。その結果は短期間で大幅に利益の上がる指標もありましたが長期間運用するとすべてマイナスという結果になりました。これらは単独の指標による実験でしたが、これらの指標を否定するものではなく、いくつかの指標の組み合わせで行えば良い結果が出るかもしれません。しかし、数学的に言えばマイナスをいくら足してもプラスにはならない。

４)コンピュータ分析ソフトの問題点

最近のコンピュータは非常に低価格であり、またその処理能力も従来に比べると数段の能力の差があります。株式分析には最適なツールとなっています。最近の株式分析ソフトも分析指標が数多く搭載され瞬時に分析処理ができます。しかし、これらの指標も一般に出回っている従来の指標を取り揃えたものが多くあまり斬新さを感じません。またこれらの指標の検証をふまえた確率的なデータの開示は一切ありません。

「分析指標はたくさんありますので、これらを自由に組合せて自分で勝手に判断してください」といった内容で、これらを利用する投資家にとっては迷うばかりです。自分なりにあれこれ指標を組合せて売買したもののうまくいかず、今は持ち株のチャートを眺めているだけになってはいないでしょうか。

特に売買シグナルの表示されるシステムでは注意しなければならない点があります。これらのシステムの過去のデータで下降期の買いシグナルの数と、上昇期の買いシグナルの数を比較してください。下降期の買いシグナルの数の方が上昇期より多くなっているシステムを見かけます。下降期にナンピンしながら買い下がるようですが、これでは何回買い下がるのか不透明で資金配分もできません。当然ながら利益も上がらないはずです。これらはできるだけ安い位置で仕掛けようとする逆張りシステムに多く見られます。相場の上昇、下降にかかわらず売りシグナルと買いシグナルは同数でなくてはならないのです。これらのシステムは検証に裏付けられた正しい利用方法の解説をしていただきたいものです。

最近は過去のシミュレーションを行える分析ソフトも登場してきました。これらのシミュレーションを利用し最適化して、現在の相場に非常に良くフィットしてすばらしいと喜んで、いざ実践してみると全く機能せずがっかりする場合があります。これらは、いくら現在の相場で最適化しても今後の相場には当てはまらないということです。各分析指標を現在の相場に合わせているだけで、現在の相場と異なる今後の相場展開には全く合わないと言うことになります。あまり意味のない作業となり徒労に終わるものです。十分注意してください。

５)確率の問題点

巷には多くの投資手法があります。
米相場の「酒田五法」や「カギ足」などから最近の「ボリンジャーバンド」「ストキャスティング」など多くの手法があります。これらの指標を利用したシステムで「勝率８割」などと確率の高さをうたっているシステムは問題ありと考えて良いと思います。
確かに短期間では高い確率のシステムもあると思いますが、これらの指標も長期間運用すると限りなく確率５０パーセントに近づいて行きます。「一時は成績も良かったが現在は負けつづけている」といった状況になります。

バブル期の頂点を前後して株価の推移を見ると、上昇トレンドに乗れば利益を上げることができますが、一旦下降トレンドに入ると今までの利益を吐き出してしまうことになります。相場は長期的には上げ下げの確率は限りなく５０パーセントに近づくことになります。相場は「ゼロサムゲーム」といわれる所以です。「確率５０パーセント」の世界で利益を上げることは不可能ではないかという疑問が出てきます。

しかし、この確率のなかで利益を上げる方法はただひとつだけあります。「損少利大」、つまり損は小さく利益は大きくということになります。当たり前のことですが、しかし実際売買に入ると不思議に投資家のほとんどがこの反対の行動を取ります。利益は早めに確保し、損は戻りを待って処分しようといつまでも持続して結果的に塩漬けなってしまいます。投資知識もなく、ただ主観的、感覚的な売買では「誰がやっても損をする」という結果になります。
「儲けたい、損したくない」という気持ちが強く誰がやっても同じ行動パターンになります。
過去の売買伝表を見てください。「損大利小」となっていませんか。

損失の方程式

実際に市場に参入すると誰でも利益を上げたい、損をしたくないという心理が働きます。
買った銘柄が上げればどこで利食いしようか、または持続しようかと悩みます。下げれば下げたでどこでナンビンしようか、それとも損切りしようかと悩みます。結果、利益がでれば利食いし、下げれば持続または塩漬け。誰がやってもこのような結果になります。
｛（利益＝限定）＋（損失＝無限大）｝×確率（５０％）＝損失　(※概念)
株式投資は確固たる売買手法がなければ「損失の方程式」の売買を繰り返すだけです。

リスクについて

日常生活において事故や火災、盗難など危険なことはたくさんあります。これらの危険（リスク）なことに対しては各自それなりの対策を講じていると思います。これらに対して万一の場合は保険というシステムがあります。株式投資においても非常にリスクの高いビジネスであることは誰でも知っていることですが、これらに対して投資家の皆さんはどのような対策を考えているでしょうか。株式投資には値下がりというリスクがあります。値上がりを期待して仕掛けたのにもかかわらず意に反して値下がりした場合の対処方法はどの様にしていますか。

一般的には仕掛け後、どこまで上がるかに集中し「もし下げたらどうするか」という問題にはあまり対策を講じないで売買しているのが現状ではないでしょうか。数銘柄に投資し、上げた銘柄を利食いし、下げた銘柄をそのまま放置して売買を繰り返すと最後には持ち株はすべてマイナスという結果になります。相場の世界は上げ下げの確率は５０パーセントですから、適当な銘柄を売買していてもあまり損はしないと思われますが、現実は大きく異なります。なぜか、それは利益に対して損が大きいということです。これでは多少確率が高くても利益は出ません。

「いかに利益を出すかではなく、いかに損を小さくするか」に重点をおいて売買すべきです。株式投資で損をしないということはありえませんので「損は早めに切る」ということが危機管理でありリスクマネージメントであるわけです。また、リスク管理に重点をおいた売買手法に「つなぎ売買」や「サヤ取り」「裁定取引」といった手法があります。今後はこのようなリスクコントロールのできる売買手法を学ぶべきであると考えます。

投資とストレス

株式投資は非常にストレスのあるビジネスです。常に決断に迫られ思い悩むことも多いと思います。株式市場に参入する前は市場に夢を抱き「大いに儲けてやるぞ」と意気込んで売買を始められたことと思います。しかし、現実は厳しく「楽して儲けるはずだったのだが、苦労して損する」という結果にはなっていませんか。現在、ストレスは大きな社会問題にもなっています。社会活動においてもストレスが多く、それにまして株式投資でさらなるストレスが…。
長期のストレスは、あらゆる方面に影響を及ぼします。体調を崩したり、家庭や仕事にも悪影響をあたえることになります。株式投資においてストレスの原因となるのは何でしょうか。その原因を突き詰めていくと「利益が上がらない」「損が大きい」「塩漬け銘柄をたくさん持っている」などが主な原因ではないでしょうか。株式投資では、投資家は仕掛ける前にある程度今後の展開のシナリオを描き行動します。しかし、そのシナリオが崩れたときに、その判断に苦慮することになります。ナンピンするべきか、損切りするべきかと。

相場のプロと称される投資家は、同様に仕掛けの前にはある程度のシナリオを描き、そのシナリオが崩れたときには、即「処分する」か「つなぎ」を入れるなどの何らかの行動を取ります。アマチュアは、このような判断を迫られた時には悩んだあげく「少し様子を見るか」といって何の根拠も無くいたずらに持続をします。そして決断を先延ばしして結果的に塩漬けとなってしまいます。プロとアマチュアの差はこの程度です。しかし、この差がその後大きな差となって現れてきます。つまり決断のにぶさが収益悪化につながり、そしてストレスに…。

株式投資では常に決断を迫られます。投資に対する正しい知識とその手法は、それらに対して適切な判断を可能とします。正しい知識とその手法が投資収益を上げ、結果的にはストレスの少ない株式投資が可能となるのではないでしょうか。

利益を求めて

具体的にどのような売買手法で利益を上げて行けば良いのでしょうか。長期的に安定した利益を上げていく。これが投資家の願望であり、また実行しなければならないことです。株式投資で長期にわたり利益を上げて行くことへの障害となること、また継続ができなくなる原因は何でしょうか。

その第一の原因は「大きな損失を出す」ことではないでしょうか。投資ですからある程度の損失はやむをえないとしても、継続不可能となる大きな損失は絶対避けなければなりません。これらのリスク回避策として、「分散投資する」「ヘッジをする」などいろいろと考えられます。

しかし「分散投資では大きな利益が取れない」「ヘッジするのは面倒だ」などの意見があることも事実です。しかし大事な資金を失っては元も子もありません。株式投資で長期にわたり利益を上げ続けていくには「リスク」という問題は避けて通れません。株式投資はいかに損失を少なくするかに重点をおき実践して行く必要があります。リスクを減らす。つまり、大損をしないことが結果的に長期間にわたり株式運用が可能であり、またその結果利益を積み上げて行くことができると考えます。

今後は金融自由化に伴い投資家の自己責任はよりいっそう強く求められます。そのため正しい投資手法、危機管理、リスクマネージメントに対する考え方を学び理解していかなければならないと思います。

■　本システムの売買法 (実践編)　■

本システムの売買法 (実践編)

株式投資の基本

本システムを利用し株式投資を行う場合、投資家の性格や資金量に応じてその投資手法をある程度選択しなければなりません。投資手法は数多くあり、どの手法がより効果的で自分に合っているかその判断には迷うものです。しかし、株式投資の基本は「相場流れに沿った売買」「損小利大の売買法」であり、これらは揺るがしがたい投資の基本であると考えます。本システムは、これらに基づいた株式分析システムを提供しています。

また、本システムの分析法はテクニカル分析を中心に「相場観測」「銘柄選択」「売買テクニック」の分析手法を基本としています。これらの手法を基に長期間にわたり安定した収益を確保できるようシステム化されています。

これらの正しい投資の基本をしっかりマスターしたのちに、その応用技法である「つなぎ売買」や「空売り」「サヤ取り」「裁定取引」と投資のバリェーションを広げていけばよろしいのではないかと思います。まずは正しい投資の基本をしっかり学ぶことです。

１,「相場観測」
株式投資の基本は、まず相場の方向性を見極めることから始まります。相場全体が下降トレンドにもかかわらず買いに向かっては成績も上がりません。「流れに竿させば流される」と言うことわざかあるように、相場の流れに逆らってはどのような売買テクニックを駆使しても収益を上げることは困難となります。しかし、株式投資で今後の相場の方向を見極めることは至難の技です。専門家でもその判断は難しいと思います。今後の相場の展開予想は非常に難しいものではありますが、現在の相場の位置や下降中であるか上昇中であるかの判定ができるだけでも株式投資には大いに役立つものと思います。本システムではこれらの判定を「相場観測指数」を中心に「相場水準指数」「相場ゾーン指数」「過熱度指数」などによって行っています。

株式投資において、これらの相場の方向の判断を間違いますと株式投資の基本を取り違えることになりますので、新規に仕掛けを行う場合は必ず「相場観測指数」やその他の相場指数で相場の方向を必ず確認してから行動してください。

２.「銘柄選択」
仕掛け銘柄を選択する場合、業績と株価水準が重要なファクターとなります。株式投資では株価の水準は最終的には「ファンダメンタルに収斂する」と言います。つまり株価はその銘柄の正しい業績の水準に見合った位置に回帰するということです。これは株式投資の基本です。そのため業績の分析は非常に重要な点検項目となります。

また、短期売買において銘柄を選ぶ場合は、まず流動性のある銘柄を選ぶことが基本です。短期売買のため商いの少ない銘柄では思うような売買はできません。売りたくても値が付かなければ売買できません。また成り行き注文を出して、それによって値が飛んでしまうような銘柄では短期売買には不向きです。ある程度出来高もあり、成り行き注文でも値が飛ばないような銘柄を選択しなければなりません。

短期売買は値幅取りの売買のため、株価変動幅のあまり小さな銘柄では利幅も思うように取れません。また反対に非常に大幅な値動きのある銘柄は、利幅は取れますがリスクが増大しますのでリスクコントロールを的確に行わなければなりません。このように銘柄選択では、株価変動幅(ボラティリティ)は重要なファクターです。実践おいては必ず株価変動幅(ボラティリティ)を検証するように心がけるべきです。

（業績水準）

本システムでは、業績の判定に「業績水準」指数を採用しています。「業績水準」はすでに解説してありますように、その銘柄が東証全銘柄のなかでどの程度の水準に位置しているかを判定した数値です。０～１０の範囲で提供されます。これらの「業績水準」により「買い付け」を行う場合は「業績水準が５以上で、できるだけ大きい数値の銘柄を」、「空売り」を行う場合は「業績水準が５以下で、できるだけ小さい数値の銘柄を」と売買ルールに定めてあります。本システムの業績判定の基本です。

「業績水準」指数は来期予想を含めた３期分の分析によって集計されています。これは「単独短期」指数です。その他、本システムには来期予想を含めた６期分の分析によって集計された「単独長期」指数や３期および６期分の分析によって集計された「連結短期」「連結長期」指数、および財務体質の健全度をみる「格付」指数があります。銘柄選択の際にはこれらの指数も検討されることをお奨めします。

（株価水準）

株価の位置は「株価水準」指数を採用しています。「株価水準」は市場平均値（ＴＯＰＩＸ）を「１」として各々の銘柄の株価の水準を判定しています。これらの「株価水準」により「買い付け」を行う場合は「株価水準が１以下で、できるだけ小さい数値の銘柄を」、「空売り」を行う場合は「株価水準が１以上で、できるだけ大きい数値の銘柄を」と売買ルールに定めてあります。本システムの株価水準判定の基本です。

（適用ランク）

短期売買おける手法は値幅取りであるため、選択する銘柄も変動率の高い値幅のある銘柄でなくてはなりません。本システムではこれらの銘柄を「適用ランク」で短期売買に適した銘柄をランキングして表示してあります。これらの銘柄はボラティリティ（変動率）の大きく、株価変動ができるだけスムーズな変動(歪度の少ない)の順に表示してあります。上位にランクされた銘柄はハイリスク・ハイリターンの銘柄となりますのでロスカット等は躊躇せず実行しなければなりません。上位銘柄は利益になった場合の利益幅が大きくなります。
本システムでは、明確な損切りポジションを示していますので、これらを前提に売買するという条件の下では「適用ランク」の上位にランクされた銘柄を選択されることをお奨めします。

3.「売買タイミング」

「相場観測指数」により相場の方向性が確認でき、業績水準や株価水準などを検証し銘柄選択もできれば最後は売買タイミングとなります。本システムには多くの売買タイミング指数があります。「売買シグナル」「(買)(売)マーク」「上昇/下降ゾーン」「適用ランク」など活用し

仕掛けのタイミングをはかります。また、株価の位置も重要な項目となります。株価の位置は「抵抗線」や「目標値」などを参考にします。買い仕掛けの場合は、「抵抗線③」近辺で。空売りは「目標値④」近辺でということになります。決済においても同様に「売買シグナル」「(買)(売)マーク」「上昇/下降ゾーン」「適用ランク」など活用し決済のタイミングをはかります。

株式投資においては、リスクはつきものであり損失も受け入れなければなりません。仕掛け後に「売買シグナル」「(売)(買)マーク」「上昇/下降ゾーン」「適用ランク」などにより決済タイミングとなった場合、たとえ損失であっても決済しなければならない場合も発生します。相場の確率は５０％前後であることを十分認識し「損切りの徹底」を実行しなければなりません。

以上の「相場観測」「銘柄選択」「売買テクニック」の分析手法は、本システムの売買の基本となりますので十分理解された上で運用していただきたいと思います。

売買の実践

１．相場の方向性の確認 ----------

本システムは短期的な売買手法で売買されますが、短期売買であっても相場トレンドの反対方向での売買では収益は上がりません。まずは相場全体の方向性を「長期相場観測指数」で確認します。「長期相場観測指数」は、日足チャートのバックグランドで暗い緑色で表示されます。また週足チャートを表示することにより、その全体像が確認できます。「長期相場観測指数」が上昇傾向を示している時は「買い」で対応します。反対に下降傾向を示している時は「空売り」で対応します。

また、同時に「短期相場観測指数」も確認しなければなりません。全体像を「長期相場観測指数」で確認しながら、短期的な相場の変動を「短期相場観測指数」で捉えます。例えば、「長期相場観測指数」が下降傾向を示しながらも「短期相場観測指数」が上昇という現象も起きます。このよう場合は、相場下降中の「戻り」であると判断できます。また、「長期相場観測指数」が上昇傾向を示しながらも「短期相場観測指数」が下降という現象も起きます。このよう場合は、相場上昇中の「押し」であると判断できます。このように相場全体を捉えつつ、目先的な相場の変化を観察していきます。これらの動向に沿って、「買い」か「空売り」かの判断をして仕掛けに入ります。

相場観測指数が下げ渋ってきたから、または上げ渋ってきたからなどの先読み的なシナリオはできるだけしないようにして下さい。必ず現在の数値による判定を行なってください。「相場水準指数」「相場ゾーン指数」「過熱度指数」などの指標も参考にしてください。
相場観測指数は非常に重要な指数ですので日々観察し、その動向をしっかり確認しておきます。

〔注意〕「短期相場観測指数」は、相場が短期間に上下するような相場展開となった場合には、
「短期相場観測指数」の判定が実態の相場変動より若干遅れる場合があります。
このような場合は、「相場水準指数」を参考に総合的に判断してください。

２．ポジション比率の確認 ----------

「買い」「空売り」の資金量を表示されている「ポジション比率」に合わせます。しかし、一度に全投資金を配分するのではなく、多少時間的間隔をおきながら銘柄を増やしながら徐々に投資金を積み上げて「ポジション比率」に合わせます。

「ポジション比率」は、相場変動と共に変化してきますので、それらに対応するように「買い」「空売り」の持ち株の資金配分をできるだけ合わせていきます。もし、売買は「買い」のみで「空売り」はやらないという投資家の方は、全投資金額のうち「ポジション比率」の買いの比率に合った金額のみを投資します。

これらにより、相場全体の変動にマッチした資金配分となり、またリスクヘッジの役割を果たし非常に効率的な株式運用が可能となります。

３．投資資金の分散・分割 ----------

投資対象とする銘柄数は、リスクを避けるためにある程度分散して投資します。投資資金量にもよりますが１０銘柄程度またはそれ以上。できるだけ多くの銘柄に分散することをお奨めします。

これらの分散された銘柄を金額で、できるだけ等金額になるように分割配分します。株価は銘柄によって異なりますので株数により調整します。高株価の銘柄もありますので投資資金量などを考慮して無理な仕掛けは避けます。

投資資金の分散・分割により、リスクの軽減とリスクの均等化が計れることになります。くれぐれも一銘柄に集中投資をするなどといったことのないように。株式投資はギャンブルではなくビジネスなのですから。

４．銘柄選択の基準 ----------

本システムにおける銘柄選択は、本日「買い」または「空売り」の売買サインの出ている銘柄を「買い銘柄」「売り銘柄」から選択します。または「上昇ゾーン」「下降ゾーン」から本日転換した銘柄を選択します。「買い銘柄」「売り銘柄」や「上昇ゾーン」「下降ゾーン」で選択された銘柄を更に絞り込みます。また、「適用ランク」の転換銘柄の上位から選択する。

<絞込みの方法>

◇「本日の短期売り・買い/上昇・下降銘柄の絞込み(専用)」で条件を設定して絞り込む。

◇ 的確な売買マークを選択するため「レベル２」「レベル３」のボタンをクリックして、最適売買マークを選択する。

◇ 相場変動に沿った銘柄を選択するため、「相場対応」ボタンをクリックして適正な銘柄を絞り込む。

◇ できるだけ「適用ランク」の上位にある銘柄を選択する。ただし、上位にある銘柄はハイリスクな銘柄であるため、各指標を検証し細心の注意を払ってください。下位にある銘柄はローリスクではありますが利幅が小さくなります。

「変動率」

本システムでは銘柄ごとに「変動率」の表示がありますので、これらを参考にします。「変動率」の平均値は「０．２６」です。これらの平均値より小さい銘柄はリスクが小さいと判断できます。また平均値以上の銘柄はリスクが高いと判断できます。実際の売買においての「変動率」による銘柄選択の基準は、平均値である「０．２６」以上の銘柄をお奨めします。変動率の高い銘柄はそれだけリスクも高くなりますが、本システムには明確な「最終手仕舞い」や「損切り」基準がありますのでこれらに従い実行することによりリスクは軽減されます。これらによって利益幅が拡大されます。もし多くのリスクを好まない投資家の方は「変動率」が小さい銘柄でも良いと思います。「変動率」が小さい銘柄は利幅は小さくなるものの確率が低くなると言うわけではありません。

注意: 「変動率」と「適用ランク」は基本的には考え方は同じです。どちらで採用されても良いと思います。

「平均出来高」

短期売買において銘柄を選ぶ場合は、まず流動性のある銘柄を選ぶことが基本です。短期売買のため商いの少ない銘柄では思うような売買はできません。売りたくても値が付かなければ売買できません。また成り行き注文を出して、それによって値が飛んでしまうような銘柄では短期売買には不向きです。ある程度出来高もあり、成り行き注文でも値が飛ばないような銘柄を選択しなければなりません。出来高は売買単位が１株、１００株など銘柄により異なります。そのため絞込みを行なう場合、本システム内で自動的に調整して表示します。たとえば１０万株以上で絞り込んでも、それ以下の銘柄が選択される場合があります。これらは売買単位が異なるため調整されて選択された銘柄ですので間違いではありません。

「相関」

相関の指数は「検索銘柄リスト」には表示されません。銘柄を選択すると「日足チャート」の画面に表示されます。相関とは、「短期相場観測指数」と選択された個別銘柄の比較において、どれだけ変動が似ているかを比較した指数です。０から１００までの数値で、大きい数値の銘柄が「短期相場観測指」の変動と似ていると言うことです。利用方法としては、相関指数の高い銘柄は「短期相場観測指数」と同様の動きとなっているためある程度今後の方向が読めるのではないかと思います。また、たとえば相場が下降トレンド中に「買い」を行なう場合、できるだけ相関指数の小さい銘柄を選択するようにします。つまり相場全体の変動と反対の動きをしている銘柄を選択するということになります。そのため相場が下降トレンド中であっても上げる可能性があるということになります。しかし、あまりお奨めしません。

「業績水準」

業績に対する判断は、「買い」の場合は「業績水準」が「５」以上。「空売り」の場合は、「業績水準」が「５」以下で選択します。しかし、本システムは、短期売買のためあまり神経質になる必要はないと思います。

「株価位置」

株価の現在位置を目標値④と抵抗線③を基準に判断します。「買い」の場合は、できるだけ低い水準ある銘柄が良いと思われますので、「抵抗線③」以下の銘柄や「目標値④と抵抗線③の中間以下」の銘柄が良いと思います。「売り」の場合は、できるだけ高い水準ある銘柄が良いと思われますので、「目標値④」以上の銘柄や「目標値④と抵抗線③の中間以上」の銘柄が良いと思います。

以上の条件により銘柄選択を行ないます。また、他にも多くの分析指標がありますので、それらを参考に銘柄選択を行っても良いと思います。

５．仕掛け ----------

◆「上昇ゾーン・下降ゾーン」を利用した売買法
目先的な売買をされない場合は、「上昇ゾーン・下降ゾーン」を利用した売買法をお奨めいたします。

「上昇ゾーン・下降ゾーン」を利用した売買法は、必ず「相場水準指数」を参考に、これらに沿った売買を行ないます。「相場水準指数」に沿った上昇ゾーン・下降ゾーンの転換は、日足チャート上に「買転換」「売転換」マークとして表示されます。
この売買の場合は各指標に十分注意を払い、仕掛け時に株価が大幅に変動した場合などには、「押し目」や「戻り」を待って仕掛けるなどの工夫が必要です。「プロフィットチャート」「ベクトルチャート」「トレンドライン」等や他の指標を参考にして売買します。

○「買い」の場合。
「下降ゾーン」から「上昇ゾーン（紫または暗い紫の縦のライン）」に入った最初のところで買い仕掛けに入ります。または「押し」を狙って仕掛けます。上昇ゾーンが終了したら決済します。

○「空売り」の場合。(信用銘柄のみ)
「上昇ゾーン」から「下降ゾーン（青または暗い青の縦のライン）」に入った最初のところで空売り仕掛けに入ります。または「戻り」を狙って仕掛けます。下降ゾーンが終了したら決済します。

変動率の高い銘柄、「適用ランク」の上位にある銘柄などは、これらの転換ごとに「どてん売買(システム売買)」をしても十分に収益は確保できます。

「上昇ゾーン・下降ゾーン」の転換のみを利用した売買のシミュレーション結果
****
下記に示すパフォーマンスは、スピードマスター・プロの「上昇ゾーン」「下降ゾーン」の指示に従って売買はすべて、新規買い⇒買決済⇒新規空売り⇒空売り決済⇒新規買い⇒の機械的な連続売買(ドテン売買)によるシミュレーションの結果です。これらのパフォーマンスは、過去４年間(２０００年５月～２００４年５月)に遡り東証全銘柄を検証した結果です。この４年間はちょうど相場が下降から上昇へとＶ字型でありシミュレーションを行う期間としては最適であったと思います。
これらはシステム売買に適した銘柄([適用ランク])を上位よりランキングして、その上位より銘柄数を限定し検証しました。また売買は実際の売買と同じように転換日の翌日の寄り付きで売買したと仮定しました。売買手数料や諸経費は考慮されておりません。

上位	１回当たり平均利益率	１回当たり平均日数	年利回り平均	勝率	利益の場合利益率平均	損失の場合損失率平均
５０銘柄	6.8%	61 日	55.7%	31.2%	39.6%	-9.1%

本システムは順張り売買のため一般的な売買に比べ勝率が低くなっていますが、利益決済時の利益率が損失決済時の損失率を大幅に上回っていますので総計では十分に利益は得られます。「損小利大」の基本に添った売買となっています。また、これらは「相場観測指数」に対応した売買は行っておりませんので、実際の売買ではこれらに対応し、また各指標の検証により上記数値以上の勝率および利回りのアップをはかることは可能であると思います。

システム構築上、勝率を５０％以上にすることは可能ですが、そうすることにより、１回当たりの損失率が２０％前後となり、これでは実践する上でやや問題ではないかと思います。損切りは１０％前後またはそれ以下が現実的ではないかと考えます。勝率について、アメリカのシステム売買の文献を調べてみると、やはり勝率は３０～５０％が一般的のようです。

これらの成績が良いと見るか悪いと見るか投資家の判断に委ねることになりますが、本システムの基本ベースとして、最終的に利益になることは間違いないところです。投資家自身がこれらを自分に合ったシステムに構築し、更なるパフォーマンスの向上に努めていただきたいと思います。
****

前記の機械的な連続売買(ドテン売買)ではない場合は、仕掛けシグナルが発生した日の株価が大きく上昇（買いの場合）または大きく下落（空売りの場合）などは、押し目や戻りを待って仕掛けに入る必要があります。買いの場合、前日の終値より本日の終値(転換日)が３％以上上げた場合、仕掛けは見送ったほうが賢明であると思います。売りの場合、前日の終値より本日の終値(転換日)が３％以上下げた場合、仕掛けは見送ったほうが賢明であると思います。これらの場合は「押し」や「戻り」を待って仕掛けます。

仕掛けは「翌日の寄付き成行き」での仕掛けが基本となります。しかし、多くの株数を仕掛ける場合はこの限りではありません。

一定の条件を満たした銘柄の仕掛けに入るわけですが、本システムは短期売買であるため条件を満たせば即仕掛けに入っても良いと思います。更に厳密に検討したいと言うのであれば、株価の水準が上げられます。例えば「買い」であった場合、株価が目標値④近辺またはそれ以上の位置にあったとすれば、その後上昇する確率は通常より低くなると考えられます。また「空売り」であった場合、株価が抵抗線③近辺またはそれ以下の位置にあった場合、その後に下げる確率は当然ながら低くなると考えられます。あまり厳密に考える必要もないかも知れませんが、「買い」の場合は、目標値④と抵抗線③の中間点以下。「空売り」の場合は目標値④と抵抗線③の中間点以上などの配慮も必要となってきます。また、更に「業績水準」なども考慮されると安定した収益がはかれるものと思います。

【注意】「上昇・下降ゾーン」を利用した売買法は、株価の「変動率」の小さい銘柄にはあまり適しておりません。そのため、これらを利用した売買では、できるだけ「変動率」の大きい銘柄を採用します。「適用ランク」の上位にある銘柄を選択されると効果的です。

◆ 「 (売) (買)マーク」を利用した売買法

目先的な売買をされる場合は、「（売）（買）マーク」を利用した売買法をお奨めします。

下記に示す（買）マークとは、（買）マークおよび赤色のライン上の赤色の丸のマークを指します。また（売）マークとは、（売）マークおよび水色のライン上の水色の丸のマークを指します。

○「買い」仕掛けの場合。

１．（買）マークまたは赤色の丸のマークにより新規の「買い」仕掛けを行ないます。仕掛けは翌日の寄付き成行きでの仕掛けが基本です。（買）マーク表示後は、最終決済まで赤色のラインが引かれます。

２．（買）マークのライン上にある黄色の○は、持ち株の決済ポジションを意味します。黄色の○で持ち株の全部あるいは持ち株の一部を決済します。利益が出ていない場合は見送ってもよいと思います。銘柄によっては、これらの決済マークが出ない場合や複数回出る場合があります。

３．（買）マークのライン上にある赤色の○は、追加の仕掛けを意味します。分割仕掛けや、すでに決済マークで持ち株を処分してしまった場合などに追加の仕掛けを行ないます。銘柄によっては、これらの追加の仕掛けマークが出ない場合や複数回出る場合があります。

４．（買）マークのライン上にある白色の○は、持ち株すべての処分を意味します。該当する持ち株のすべてを処分します。白色の○の「手仕舞いマーク」を待たずしての決済も可能です。

５．（買）マークおよび「○」の買い仕掛けマークが茶色で表示されている部分があります。これらは「相場水準指数」が 0 ポイント以下にある場合表示されます。茶色で表示されている（買）マークは、相場の方向性に逆らう売買となりますので、できるだけ避けたいところです。

○「空売り」仕掛けの場合。(信用銘柄のみ)

１．（売）マークまたは水色の丸のマークにより新規の「空売り」仕掛けを行ないます。仕掛けは翌日の寄付き成行きでの仕掛けが基本です。（売）マーク表示後は、最終決済まで水色のラインが引かれます。

２．（売）マークのライン上にある黄色の○は、持ち株の決済ポジションを意味します。黄色の○で持ち株の全部あるいは持ち株の一部を決済します。利益が出ていない場合は見送ってもよいと思います。銘柄によっては、これらの決済マークが出ない場合や複数回出る場合があります。

３．（売）マークのライン上にある水色の○は、追加の仕掛けを意味します。分割仕掛けや、すでに決済マークで持ち株を処分してしまった場合などに追加の仕掛けを行ないます。銘柄によっては、これらの追加の仕掛けマークが出ない場合や複数回出る場合があります。

４．（売）マークのライン上にある白色の○は、持ち株すべての処分を意味します。
該当する持ち株のすべてを処分します。白色の○の「手仕舞いマーク」を待たずしての決済も可能です。

５．（売）マークおよび「○」の売り仕掛けマークが暗い水色で表示されている部分があります。これらは「相場水準指数」が 0 ポイント以上である場合表示されます。暗い水色で表示されている（売）マークは、相場の方向性に逆らう売買となりますので、できるだけ避

けたいところです。

(売) (買)マークを利用した売買法は、銘柄によっては何度も追加仕掛けの指示の発生する銘柄があります。これらの銘柄では、すでに決済が済んでいる場合は新たに仕掛けが可能です。また、複数の株数で売買されていて、すでにいくらかの株数の決済が済んでする場合は、新たに追加の仕掛けは可能です。ただし当初決められていた一銘柄当たりの均等割りの投資資金量をオーバーしないようにしてください。
複数の決済や追加仕掛けの発生する銘柄は、順次売買を繰り返すことが可能となります。これらは短期間で行なわれますので効率的な売買ができます。「レベル２」「レベル３」のボタンをクリックして最適な追加仕掛けポジションを選択することができます。
ただ、これらの追加仕掛けを深追い過ぎると、そのパフォーマンスが下がる場合がありますので注意してください。

「長期相場観測指数」や「短期相場観測指数」によって相場のトレンドを確認し、それらに沿った売買を行ないます。また、投資資金は「ポジション比率」の資金配分に合わせて売買します。また、抵抗線や目標値などの水準等を考慮に入れて売買を行います。

(売)(買)マークや赤色の丸のマーク、水色の丸のマークが発生時に株価が大きく変動した場合は、その押し目や戻りを待って仕掛けるなどの工夫も必要です。また、決済の指示が出る前に株価が大幅高や大幅下落が発生することもあります。このような場合は投資家の判断で決済しても良いと思います。

また、仕掛けマークが発生した日の株価が大きく上昇（買いの場合）、または大きく下落（空売りの場合）などは、押し目や戻りを待って仕掛けに入る必要があります。買いの場合、前日の終値より本日の終値(マーク日)が３％以上上げた場合、仕掛けは見送ったほうが賢明であると思います。売りの場合、前日の終値より本日の終値(マーク日)が３％以上下げた場合、仕掛けは見送ったほうが賢明であると思います。

仕掛けは「翌日の寄付き成行き」での仕掛けが基本となります。しかし、多くの株数を仕掛ける場合はこの限りではありません。

最適な売買マークを選択するため、これらを選択する「レベル１」「レベル２」「レベル３」および「相場対応」ボタンで最適な仕掛けポジションを選択します。

一定の条件を満たした銘柄の仕掛けに入るわけですが、本システムは短期売買であるため条件を満たせば即仕掛けに入っても良いと思います。更に厳密に検討したいと言うのであれば、株価の水準が上げられます。たとえば「買い」であった場合、目標値④と抵抗線③の中間点以下。「空売り」の場合は目標値④と抵抗線③の中間点以上などの配慮も必要となってきます。さらに「業績水準」なども考慮されると安定した収益がはかれるものと思います。

◆建玉の操作
銘柄によっては、仕掛け後の決済や追加仕掛けが複数出る銘柄があります。これらに対しては、ある程度投資資金の分割などで対応されると良いと思います。

建玉の操作については、投資家各自の資金量や投資スタンスにより、独自のシステム構築に工夫されると良いと思います。

６．決済　「(売)(買)マーク」を利用した売買法----------

決済する場合は、「翌日の寄付き成行き」で決済します。株数が多い場合は、分割による決済も可能です。利益が出ないで決済が指示される場合もあります。

銘柄によっては何度も決済の指示が発生する銘柄もあります。これらは複数の株数で売買されている方は、これらの指示により分割での決済も可。「レベル２」「レベル３」のボタンをクリックして最適な決済ポジションを選択することができます。

買い仕掛け後に「短期相場観測指数」や「相場水準指数」が下降となった場合、各指標を検討の上、決済の指示を待たず決済することも考えなければなりません。売り仕掛け後に「短期相場観測指数」や「相場水準指数」が上昇となった場合など各指標を検討の上、決済の指示を待たず決済することも考えなければなりません。

７．最終手仕舞い　----------

最終手仕舞いの表示は、「買い」の場合、「空売り」の場合、それぞれ白色の○のマークに×で表示されます。白色の○に×のマークが出た場合は、「(売)(買)マーク」を利用した売買法および「上昇ゾーン、下降ゾーン」を利用した売買法のいずれの方法でも、すべての持ち株を処分しなければなりません。

最終手仕舞いのマークが表示された場合は、その該当銘柄の持ち株をすべて処分してください。もし、持ち株が評価損となっている場合は損切りとなるわけですが、ここで躊躇してはいけません。感情移入せずすみやかに処分するべきです。これらの「最終手仕舞い」が実行されなければ、本システムを利用する意味がなくなります。そして従来の売買手法に戻ってしまうことになりますので「最終手仕舞い」では必ず持ち株を処分してください。

チャンスはいつでもあります。勇気を持って決断すべきです。

一般的な売買法

本システムには、大きく分けて５通りの売買法があります。
１．本日の「買い銘柄」「売り銘柄」
２．本日の「上昇ゾーン」「下降ゾーン」
３．「適用ランク」による「売買」
４．「05)銘柄検索」の「本日の買い転換銘柄」「本日の売り転換銘柄」
５．「05)銘柄検索」の「本日の買い注目銘柄」「本日の売り注目銘柄」

これらの売買法をどのように効率よく利用するかということですが「４．」と「５．」は参考程度でよいと思います。

まず、銘柄選択は「適用ランク」の上位５０位以内の銘柄を選択します。それでは５０位以下の銘柄はまったく採用できないのかというと、そういう意味ではなく、シミュレーションの結果では、そのパフォーマンスが若干下がりますが採用できないというわけではありません。これらを承知の上であれば、適時５０位以下の銘柄も採用してかまわないと思います。ただ、あまり下位の銘柄は変動率や値動きに問題のある銘柄も散見されますので、銘柄選択はできるだけ上位にある銘柄を採用したいところです。

続いて、「買い仕掛け」であった場合は、「適用ランク」の「売買」の「本日買い転換」、または、すでに「買い転換」している銘柄を選択します。これで銘柄選択ができました。続いて仕掛けポジションですが、こればできるだけ現在が「上昇ゾーン」にある銘柄(赤い縦のライン)がよいと思います。そして仕掛けのタイミングは、「１．本日の「買い銘柄」」を利用し仕掛けのタイミングを計ります。この場合投資家の投資スタイルにより、「レベル１」「レベル２」「レベル３」を使い分けて自分に合ったポジションで仕掛けます。

ここで注意しなければならないことは。まず、本日の株価ができるだけ「抵抗線③」近辺にある銘柄を選択します。「目標値④」近辺では利幅も取れませんし、思いがけず下降となってしまうことがありますのでできるだけ避けてください。また、本日の株価が前日終値より 3%以上、上昇しているようであれば一旦見送って「押し」を待って仕掛けるべきです。

決済は、投資家の投資スタイルに合わせて、目先的な売買であれば「本日の「売り銘柄」」の転換で、もう少し長ければ「売りゾーン」の転換で。もう少しのんびり売買するのであれば「適用ランク」が「下降転換」になったら決済すればよいと思います。

また、すべての仕掛け銘柄が利食いできるとは限りませんので、投資家の投資スタンスにあわせて、かならず「本日の「売り銘柄」」転換で、「売りゾーン」転換で、「適用ランク」の下降転換等で処分してください。「損切り」は必ず実行してください。
『損切りなくして、利益なし』です。

■　システム売買について　■

システム売買について

システム売買については、まだ日本ではあまり知られていない売買手法です。システム売買というより「機械的売買法」と言ったほうが分かりやすいと思います。
コンピュータの株式分析ソフトで自動的に売り、買いの指示が出て、投資家はそれに従い売買を行なう。しかも利益が出る。「このようなシステムがあったら楽で良いのになー」と投資家であれば一度は考えたことと思います。

システム売買は、ただ単にコンピュータから指示される売りや買いの指示に従って売買するだけです。非常に簡単な方法です。しかし、簡単で夢のようなシステムであれば誰でも利用したいと考えるのも当然です。しかし、これらの手法がいまだ一般に認知されていないということは、その裏にはいろいろな問題点があるのも確かです。

これらの問題点についてはいくつかあります。まず、第一に「システム運用に耐えられるだけの分析システムがあるか」という問題です。これは大きな問題です。この問題をクリアできなければシステム売買を利用する意義が根底から崩れてしまいます。では「システム運用に耐えられる分析システム」とは何かということになります。簡単に言えば「投資理論に裏づけされている」「過去の膨大なシミュレーションで収益が上がることが証明されている」「それらのシステムが実際の運用に耐えられる」などが上げられます。

システム売買の開発でよく聞く話ですが、「過去の膨大なシミュレーションで、トータルで収益が上がるシステムを開発した」という話しを聞いて見てみると、最大のドローダウンか５０パーセントもあり実戦では使い物にはならないシステムであったりします。実際の売買で一時的であっても投資金が５０パーセントも減ってしまっては運用には向きません。このようにシステム売買を構築することは非常に困難ではありますが、一部の投資家は現在でもこれらのシステム開発に挑戦し続けています。

たしかに、株式投資で銘柄選びや売買タイミングを慎重に調査検証しても、その確率は５０パーセント前後でしかないという現実から見ても、システム売買のような機械的な売買でも大差はないような気もするのですが・・・。もし、何らかの簡単なテクニカル分析で機械的な売買を行ったとして、もう一方で投資家自身が判断して売買を行った場合と比較してみるとどうなるでしょうか。これらは投資家の技術的なレベルや経験にもよると思いますが、もし現在でも塩漬け銘柄を多く持っている投資家であれば、簡単なテクニカル分析による機械的売買のほうが良かったと考えるのではないでしょうか。統計を取ってみると、たとえ結果的にマイナスの成績に終わったとしてもシステム売買の指示通り売買した結果と、自己判断による売買の結果を比較すると、自動売買システムの売買のほうが良い成績であったという検証も得られています。自己判断による売買は、どのような簡単な自動売買システムにもなかなか勝てないということです。これは投資家の感情（欲）が災いするためです。株式投資で一番難しいことは、投資知識や投資技術ではなく、本当は投資家の感情のコントロールなのです。

次の問題点として、仮に「システム運用に耐えられるだけの分析システムがあった」とした場合。実際にこれらのシステムで運用を開始したとします。相場の上げ下げの確率は５０パーセント前後であるため、何度も連続して損切りとなる場面があります。アメリカの投資家ラリー・

ウィリアムズも言っていましたように投資家は「そのシステムで３回も連続して負けると、もうそのシステムは使わない」と。投資は「負けの続くゲームである」とも言われています。投資家は常に不安の中で売買を繰り返しています。自動売買システムの後押しがあっても実際に継続的な売買は困難となります。

そのシステムに対する信頼性という問題もあります。自分で開発したシステムであればいざ知らず、他人の開発したシステムにどれだけの信頼を寄せられるかということです。システム売買の成績結果を見せられても、にわかに信用できないということが現実ではないでしょうか。

投資家はそれぞれ自分なりの投資スタイルを持っています。そのためシステムの指示してくる売り、買いが、ことごとく投資家の考えと反対の指示をしてくる場合があり、投資家はこれらの指示に従うことが困難となってきます。たしかに連続して損切りの指示があったり、自分の投資判断と異なった指示をされたのでは、そのシステムに絶対の信頼を寄せていない限り、その指示に従うことができなくなることも当然です。

以上のように、相場の上げ下げの確率は５０パーセント前後であるため、投資家の立場に立つと、損切りが連続して続くと精神的に参ってしまい売買続行不可能となってしまいます。このように機械的売買システムは、実際にその売買を行なってみると苦痛であり非常にハードな売買となって継続が困難となります。このようにシステム売買には、いくつかの問題があり一般化していないようです。

<<システム売買の概念>>

システム売買とは、ある一定の条件のもとに選択された銘柄を買い付けから売り決済へ、そして売り決済と同時に新規に空売りを仕掛け、空売り決済後さらに新規に買い付けを連続して売買(どてん売買)を行う投資手法です。投資家の技術的な判断や主観などは一切はさまず、相場の変動を気にすることなく売買サインに基づいて機械的に売買を繰り返します。非常にシンプルな投資法です。

一般の売買では、その売買のつど各指標などを分析・検討し、また過去の投資経験などにより売買の判定を下すことが一般的であると思います。しかし、システム売買の場合は、これら判断はすべてシステムの売買サインの指示に従い実践するわけですから、株価等の検証などは一切必要なくなることになります。しかし、システム売買自体は一見簡単な売買手法のように思われますが、実際運用し見るとなかなか思い通りにはならないようです。

ある程度株式投資の経験のある投資家は、自分なりの一定の投資スタイルを持っているものです。目先的な売買を得意とする投資家もいれば、中長期的な売買を得意とする投資家もいます。いろいろな考えを持ち、いろいろな投資スタイルを持った投資家がひとつの決められた売買手法で売買するということは、「株式投資で収益を上げる」という目的は共通するものの、その売買技法は合い入れないという場合もあると思います。そのためシステム売買においては、投資家により向き不向きがあるのも事実です。ただ、株式投資で「利益」のみを追求するのであれば、このシステム売買が最適であると思います。

システム売買は、その売買サインに従い何も考えず、そのまま証券会社に注文するだけであり、時間もかからず非常に簡単な方法です。しかし、実践する側から考えますと非常に不安に感じるものであり、またそのパフォーマンスも期待する結果になるのだろうかと疑問が起こるのも当然であると思います。

これらの問題については、最終的には投資家自身がこれらのシステムを信頼して運用するか否かに係ってきます。これらの解決策のひとつとしては、投資家自身が納得するまで模擬売買を繰り返し、そのシステムの信頼性を投資家自身が確認する方法がベストではないかと思います。

システム売買には、その本質を見極め十分に理解されてからではないと継続的な運用は難しいものとなります。

<<本ステムによるシステム売買の特徴「適用ランク」の採用**>>**

本システムにおいてもシステム売買を実践することは可能です。

・買い、売りの判定が明確である。
・本システムの売買に適した銘柄「適用ランク」の上位にリストアップされている。
・常に買い、売りの連続売買を行うため資金効率が良い。
・トレンドフォロー型の売買手法であるため、利益を大きく伸ばすことができる。
・分析や調査の時間をほとんど必要としない。

<<本システムによるシステム売買法>>
スピードマスター・プロには何種類かの売買法がありますが、その中で一番簡単な、そしてパフォーマンス(成績)の上がる売買法をご紹介いたします。これは当研究所のオリジナル指標である「適用ランク」を利用した売買法です。

「上昇転換」「下降転換」によるシステム売買はトレンドフォロー型の売買法となります。
　トレンドフォローとは、株価の方向を見定め、その方向性(トレンド)に沿った売買を行う手法です。いわゆる「順張り手法」です。株価が安値を付け、若干上昇傾向を示し上昇がある程度確認できてから買い付けを行います。また、反対に株価が高値を付け、若干下降傾向を示し下降がある程度確認できてから空売りを行います。

トレンドフォロー型の売買では、ある程度上昇、下降の確認ができてから売買となるため、株価の変動幅が小さい銘柄は転換幅が小さく、「だまし」の発生が多くなります。そのため株価変動幅の小さい株価はトレンドフォロー型の売買には適していません。トレンドフォロー型の売買は、変動幅が大きく、うねりのある銘柄が適しています。

トレンドフォロー型の売買は、投資の必勝法である「利益は大きく、損失は少なく」の投資基本に合った売買手法です。相場上昇時には、手持ちの銘柄のほとんどは買い転換となります。

また相場下降時には手持ちの銘柄のほとんどは売り転換となります。これがトレンドフォロー型の売買です。

まず、「適用」ボタンをクリックします。表示された銘柄と同時に「更新日」が表示されますので必ず確認してください。この「更新日」は、株価チャート等の更新時間一致しませんので、ご利用される場合は必ず確認してください。「適用」ボタンをクリックした時の銘柄は、変動率や歪度などによりランキングされた銘柄ですので、これらの銘柄の上位に位置する銘柄は「適用ランク」による銘柄選択以外の方法による銘柄選びにも最適ですので、銘柄選びはできるだけ「適用ランク」の上位(できれば５０位以内)の銘柄を選択してください。

信用銘柄には銘柄名の前に「*」がついていますので、これらの銘柄は「空売り」が可能です。株価の後の「#」は、株価チャートに表示された株価の単位の異なる銘柄です。これらの実際の株価はチャート上段にある「銘柄名」の右に「株価×１０００」などと表示してありますので、それらの単位を掛けた数値が実際の株価となります。

同じ銘柄において「上昇転換」「下降転換」の転換時に「買い」または「空売り」を連続して売買を行う機械的売買手法を採用します。つまり、買い建玉を持続中に「下降転換」となった場合、買い建玉を決済し、同時に「空売り」の売り建玉を建てるといった、いわゆる「どてん売買手法」です。転換ラインの指示により、「買い」「空売り」を連続して売買を行う手法のため、休みなく売買ができ資金効率も高まります。業務的に投資を行う投資家にとっては、最適な株式投資運用システムです。

新規にシステム売買に参入する場合は、まず「適用」ボタンをクリックし、その右の「売買」ボタンがクリックできる状態になりますので「売買」ボタンをクリックします。そこに表示された銘柄は本日転換した仕掛け銘柄のリストですので翌日の寄り付きで仕掛けが可能です。ただし、ここで注意していただきたいのは「ランク」に表示された数値です。これらの数値が「５０」以内の銘柄のみを選択して仕掛けます。これらの「５０」以内の銘柄は毎日表示されるわけではありませんので、表示されたときのみに仕掛けます。仕掛け銘柄数は１０銘柄以上をお奨めします。また、できるだけ「ポジション比率」に合わせるように「空売り」等も行いながら売買します。各銘柄の投資金額もできるだけ等金額になるように配分します。

では、「ランク」が「５０」以下の銘柄は利用できないのかということですが、まったく利用できないわけではなく、パフォーマンスは下がるものの利用は可能です。しかし、これらも「１００」以内までであり、それ以下の銘柄はできるだけ採用しないようにしたいものです。「適用ランク」の転換は「株価チャート」と「周期チャート」の間にあるグレーの帯のところに表示されます。買い転換は赤色の丸、売り転換は青の丸で表示され、チャート上に 2 本の太いラインが表示されます。また、「ランク」が「５０」以内の銘柄にはそれぞれの丸の中に緑の丸が入ります。チャート画面の右上に「適用ランク」と「転換およびその日付」が表示されます。

仕掛け後は、次の反対の転換が出るまで待ちます。次の転換は相場しだいということになりますが、利益になった場合は結構長い期間持続するようになると思います。損切りは結構早くきますので、その際は躊躇せず損切りし、「どてん」して反対売買をします。

「適用ランク」による売買で持ち株として持続できるのは、ランキング１００位以内の銘柄にあることが望ましい。ランキング１００位以下となった場合は、次の転換で処分するか、またはランキング５０位以内の転換銘柄に乗り換えてください。

ここで、利益となった場合は持続期間が１２１日、損となった場合の持続期間が３１日というシミュレーション結果が出ていますように(下記データ参照)、利益となった場合はかなりの持続期間となります。「そんなに待てないよ」という声も聞こえてきそうですが、株式投資の必勝法は「損小利大」であり、そのパフォーマンスは投資資金の年間の利回りですので、あまり細かく売買して苦労するより、のんびり売買して利益の上がる方法が本来の株式投資の「楽をして儲ける？」の本筋ではないでしょうか。

損となった場合の持続期間が平均で３１日となりますので、損切りが早くきます。そのため当初は「損きりから始まる」ということになり、この時点で皆参ってしまって、この売買法をあきらめてしまうことになります。ここでほとんどの投資家が挫折します。ほとんどというより全員と言ったほうが正しいかもしれません。この時点で本システムへの信頼が揺らぐことになります。そしてまた他のシステムへと。株式投資は長期間にわたり継続して行うものです。株式投資は少数派につかなければ儲けることはできません。このあたりを十分考える必要があるのかも知れません。

これらの売買法を継続して行います。本システムでは、この投資法が一番楽で一番収益の上がる方法であることを断言します。

<<本システムによるシステム売買の手順のまとめ>>

◆銘柄選択

１.本システムの「適用ランク」を採用し、上位より選択する。
　上位５０位ぐらいまでの銘柄を選択する。できるだけ上位の銘柄を選択する。
２.信用銘柄であること。
３.業績については、特に問題のある銘柄でなければよい。
４.できるだけうねりのある銘柄を選択する。
５.出来高ができるだけコンスタントにできている銘柄を選択する。
６.銘柄は１０銘柄以上に分散し、資金配分はそれぞれ等金額とする。
7.相場観測指数等は無視します。

◆売買タイミング

１.「上昇転換」「下降転換」の転換時に「買い」または「空売り」を同じ銘柄で連続して売買を行う。買い建玉を持続中に「下降転換」となった場合、買い建玉を決済し、同時に新規に「空売り」の売り建玉を建てます。これを連続で繰り返していきます。

2. 持続中に該当銘柄が「適用ランク」の１００位以下となった場合は、上位５０位ぐらいまでの銘柄に乗り換える。

３.売買の注文はすべて寄り付きの成り行きで行う。

<<「適用ランク」によるシステム売買のシミュレーション結果>>

売買は実際の売買と同じように転換日の翌日の寄り付きで売買したと仮定しました。
売買手数料や諸経費は考慮されておりません。

平均損益	平均日数	年率換算	勝率	利益平均	利益平均日数	損失平均	損失平均日数
17.1%	86	58.6%	59%	36.5%	121	-9.6%	31

【注意】「適用」リストの更新は、株価データ更新時間と一致しませんので、必ず表記の日付を確認してください。

本システムの売買において、その売買ルールに基づいた売買を実践された場合、投資運用可能資金に対する当初の一時的な損金は１０％を越えないというシミュレーション結果が出ています。

<<注意点>>
本システムは、その投資手法を「順張り」で行なうため、株価が上昇してから買い付け、株価が下降してから決済するという売買になります。システム売買では時として、買い仕掛け後、株価が５０％にも上昇したものの転換サインが出たときには１０％でしかないということもたびたびあります。一般的な売買ではもう少し早めの決済ができたのではと考えがちですが、一般の売買では５０％まで持続することはなかなか難しいのではないでしょうか。また、一時は利益となったものの、転換サインで決済したらマイナスになってしまったということもたびたびあります。システム売買とはこのような売買なのです。これらを十分理解していただかないと、実践してから「こんなはずではなかった」と考え込むことになります。

また、本システムはトレンドフォロー・スタイルの投資法であるため、特に逆張りを得意とする投資家によっては自分の売買の判断と全く逆になってしまうことになると思います。投資経験の長い投資家には、すでに自分の投資スタイルが確立されている方多く、システム売買の運用は更に難しいものとなる場合があります。

実践してみると、まず、最初は損切りが多いと感じると思います。なぜなら、それは利益となる銘柄の持続期間と損となって損切りする銘柄の持続期間の差によるものです。本システムでは投資の原則である「損小利大」を基本とした売買を行っているため、損となって損切りする場合は小幅で持続期間も短くなります。

一方、利益となっている銘柄は利益をできるだけ大幅に取るため、その期間も長くなります。その持続期間の差により損切りが先にきて最初は損切りだけという結果になります。この点を十分理解されて運用されませんと最初の段階で躓いてしまうことになります。しかし、ある程度運用期間が過ぎますと持ち株の評価は常にプラスで推移しますので、損切りに対してもあまり抵抗なく実行できると思います

システム売買は、その売買そのものは簡単ではあるのですが、以上のように問題で当初は非常にハードな精神力を要求されることになります。現実には不安が先行し不可能かもしれません。しかし、株式投資で「利益を上げる」という点だけからみれば、このシステム売買がベストであると考えます。

以上のように、システム売買においてはいくつかのハードルがありますが、システム売買の本質を十分理解して実践していただければ、必ずご期待にそえるシステムであると考えます。
当研究所では、株式投資の究極は「システム売買」にあると考えています。

■　本システムの売買法 (応用編)　■

本システムの売買法（応用編）

株式投資には多くの売買手法があります。ここでは本システムを利用した多彩な売買手法を解説いたします。これらの手法は株式投資の基本をマスターされた上でチャレンジしていただきたいと思います。

本システムによる売買法は、従来の売買法と異なるところがありますので、本システムの趣旨や売買方法を十分理解された上で運用しなければなりません。実践される前には、必ず模擬売買（シミュレーション）を行ない、本システムの趣旨や売買ルールを全てマスターされてから実践に入るようにしてください。

本システムは短期売買用に設計されており、分析された数値により売買の判断を行う手法を採用しています。情報や材料等を売買の判断基準とはしておりません。新規に仕掛ける場合は「長期相場観測指数」や「短期相場観測指数」「相場水準指数」等を確認し、現在相場が上昇期であるか下降期であるかを確認し、それらに沿った売買を行ないます。上昇ゾーン内または上昇転換での「買い」、下降ゾーン内または下降転換での「空売り」を基本とします。投資資金は「ポジション比率」の比率に配分し運用します。売買は「損小利大」を基本とします。

<売買シグナル>

売買シグナルは他の指標との組み合わせでご利用ください。単独でのご利用は避けてください。仕掛け銘柄選定後、どの水準で仕掛けるかという問題が発生します。「買い仕掛け」の場合、できるだけ安い位置でということになりますが、その判断基準があいまいでは困ります。本システムではこれらの基準を明確に判断できるようにわかりやすくルール化してあります。「買い付け」を行う場合は抵抗線③以下またはその近辺で買いシグナルが発生した翌日の寄り付きで、「空売り」を行う場合は目標値④以上またはその近辺で売りシグナルが発生した翌日の寄り付きで仕掛けを行うと売買ルールに定めてあります。本システムの仕掛けタイミングの基本です。

仕掛け基準の業績判定に合格した銘柄の買いシグナルおよび売りシグナルには●(白色)の中にそれぞれのシグナルが表示されますので、実際の仕掛けはこれらのマークのついた銘柄のみが仕掛け銘柄となります。「◎」のマークは仕掛け株価水準（「買い」は抵抗線③以下、「空売り」は目標値④以上）から若干離れすぎた位置でのシグナルとなりますので押しや戻りを待ってから仕掛けるようにします。
「○」のマークは仕掛け基準の「業績判定(業績水準)」に合格していない銘柄のシグナルです。「○◎●」のマークの付いていない売買シグナルは新規の仕掛けには採用できませんので注意します。「○◎●」のマークの付いていない売買シグナルは決済やつなぎ売買に利用します。

条件に合ったシグナルが発生し、仕掛けようとしたものの株価が前日より大幅に値上がり（値下がり）した場合、仕掛けはやめて戻りを待ちます。「仕掛け日の大幅高」の基準は、前日の終値より約３％以上に上げて終わった場合に大幅高の目安としています。また戻りを待つ場合は、シグナル発生時前日の終値より３％以内に戻った場合に戻りがあったと判断します。戻りがない場合は、仕掛けは止めます。

<空売り>　参考

「空売りは青天井」と恐れをなして、空売りは絶対にしないという投資家も多いようです。これは間違った考えで、空売りの基本をしっかり身につければ怖いことではありません。空売りをマスターしないで株式投資の上達は望めません。

株価チャートで天井圏を見ますと値幅は大きく激しく上下します。一方底値圏を見ますと値動きは小さくなるのが一般的です。空売りは値動きの激しい天井圏で行うため怖いような気がしますが、しかしその分勝負は早く付きます。短期売買には適していると思います。空売りは、業績低下が予想される銘柄を選択する訳ですが、新聞などで業績悪化を伝えられた銘柄はすでに株価に織り込んで下げている銘柄がありますので注意しなければなりません。また発表された業績数値は会社サイドの発表のため実体より強気の数値での発表が多く見受けられます。そのため上昇修正より下降修正の方が多くなっているのが実状です。本システムでは空売り銘柄の業績は、「業績水準が５以下で、できるだけ小さい数値の銘柄を」の銘柄を選択することが基本です。

テクニカル面からの空売りは「二番天井」を売ることが空売りの基本です。「二番天井」とは、天井圏で株価が最高値を付けその後１０～３０％前後下落します。その後一気に最高値近くまで戻したところが二番天井です。通常大幅高となった場合それらに伴い出来高も急増しますが、二番天井の場合は出来高が伴わないのが特徴です。その出来高は最高値形成時の最高出来高の３分の１程度、またはそれ以下にとどまります。すべての銘柄がこの通りに展開するわけではありませんが基本として覚えておいてください。

なぜこのような現象が起こるのか。天井件では大出来高となりある程度の浮動株が吸収されます。その後下げることによって天井圏で買い付けした建玉がマイナス評価となり、一時的に商いが止まります。浮動株が少なくなっているためその後の若干の押し目買いでも株価が急騰するという現象が起こります。しかしその急騰も前の最高値近辺での大量の買いしこり玉の売りが一斉に発生しますので、急騰もここまでと言うことになります。これが二番天井のメカニズムです。

このように株式投資では、しっかりとした理論的根拠を十分理解された上で売買されれば空売りも必要以上に怖がる必要はないと思います。株式投資に対する不安は、投資知識の欠如からくるものです。

参考：天井圏および底値圏の特徴

＜天井圏＞
中、大型株の場合、まず出来高を伴い天井を打ったとします。その後天井波瀾状態となり二番天井を形成します。この時の出来高は二番天井が一番天井より少ないのが特徴です。株価は二番天井が一番天井より低い場合も、高い場合もありますが、出来高はあきらかに二番天井が少なくなります。一番天井のおおむね３分の１以下になることが一般的です。
二番天井の株価の特徴は、２～５日間急騰し、さらに一段高になると思わせるような上昇を見せます。これは一番天井形成時に大量の出来高ができ、そこで浮動株が吸収されるため二番天井では値動きが軽くなり、少ない出来高でも急騰するといった現象が起こるわけです。空売りは、この二番天井からの売りがセオリーです。天井圏では、株価が最高値となる前に最高出来高が形成されることが一般的です。本システムの出来高欄の赤色の「*」のマークが過去一年間の最高出来高の位置です。出来高欄の紫色のラインは過去一年間の最高出来高の７０％の水準です。

＜底値圏＞
中、大型株の場合、底値圏では底値形成時に鋭角的な底値形成やなべ底的な底値形成があります。投げを誘うような鋭角的な底入れの場合、大幅な株価の下落とともに出来高も急増します。（平均出来高の３倍以上）このような場合、その時点で底入れとなる場合と、一旦戻りがあってその後、その安値をもう一度下に切って底打ちとなる場合の２つのケースがあります。これは株価急落時における出来高（対浮動株）によります。それ以外のケースとして、たとえば底三尊型の場合は、右肩の安値時に最低出来高が形成され、ダブルボトムの場合は、右側の安値時に最低出来高が形成されることが特徴です。底値圏では、株価が最安値となった後に最低出来高が形成されることが一般的です。このように天井圏では、最高値の前に最高出来高が形成され、底値圏では最安値の後に最低出来高が形成されます。本システムの出来高の欄に青色の「*」のマークが過去一年間の最低出来高の位置です。

注意：以前に大幅に値上がりした銘柄は、その反動で大きく下げる場合があります。テーマ株や材料株、仕手株などと騒がれた銘柄です。これらの銘柄もできるだけ避けたいところです。ここで言う「以前に大幅に値上がりした銘柄」に該当する銘柄は、過去２～６ヶ月の間に高値が仕手目標値⑤以上で推移した銘柄を目安として下さい。

<決済手段>　参考
決済に付いてはいくつかの方法があります。自分にあった手法を選択されると良いと思います。本システムは短期売買用のシステムですので、これらに沿った決済方法を行います。

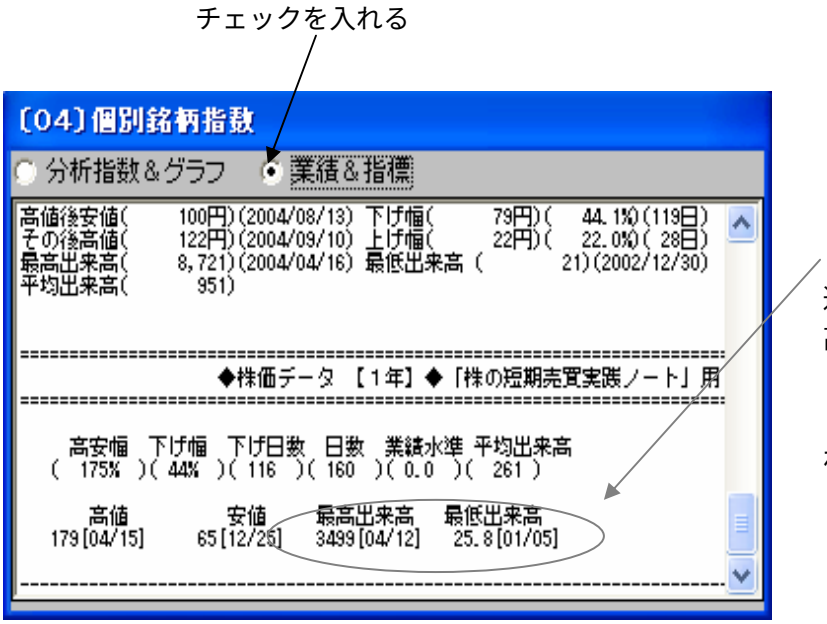
◆仕掛け時の反対の次の「売買シグナル」「(売)(買)マーク」「上昇ゾーン・下降ゾーン」「適用ランク」の転換等で決済する。決済の売買サイン発生時で利幅が小さかったり、マイナスであった場合は次の「仕掛け後の処理」で解説してあります。
◆「つなぎ」を入れて仕掛け玉を維持する。つなぎ売買に付いては後述。
◆ベクトルチャートの転換を見て売却する。
◆転換チャートの転換を見て売却する。（推奨）
◆プロフィットチャートの判定により売却する。
◆上げ止まり、下げ止まりを確認して決済する。

基本（上げ止まり: 買い付け後の決済の場合）
本システム「04)個別銘柄指数」画面の「業績&指標」にある過去一年間の最高出来高をメモします。そしてその最高出来高の７０％の数値もメモします。たとえば最高出来高が２００万株であった場合、その７０％の１４０万株を記録します。日々出来高推移を観察し、出来高が最高出来高の７０％以上になった日があればその日から出来高の増減を見ていきます。出来高が前日より増加している間はそのまま持続します。出来高が前日より減少となったら翌日の寄り付きで決済します。

これらをもう少し厳密に判定することも可能です。それは出来高が最高出来高の７０％以上となった日から、前場、後場の半日足を作成し、後場にローソク足が陰線で出来高が前場の半分以下なった場合、翌日の寄り付きで決済します。もしリアルタイム株価をご覧できる環境にあれば、その日の大引けでの決済も可能です。
通常の出来高は後場の方が少ないため、半日足を作成して判断します。

基本（下げ止まり: 空売り後の決済の場合）
本システム「04)個別銘柄指数」画面の「業績&指標」にある過去一年間の最低出来高をメモします。そしてその最低出来高の３倍の数値もメモします。たとえば最低出来高が３０００株であった場合、その３倍の９０００株を記録します。日々出来高推移を観察し、出来高が最低出来高の３倍以下になった日があればその日から出来高の増減を見ていきます。出来高が前日より減少している間はそのまま持続します。出来高が前日より増加となったら翌日の寄り付きで決済します。

これらをもう少し厳密に判定することも可能です。それは出来高が最低出来高の３倍以下になった日から、前場、後場の半日足を作成し、後場にローソク足が陽線になった場合、または後場の出来高が前場の出来高を上回った場合、翌日の寄り付きで決済します。もしリアルタイム株価をご覧できる環境にあれば、その日の大引けでの決済も可能です。



過去一年間の最高出来高、最低出来高は「04）個別銘柄指数」の「業績&指標」に掲載されています

注意：これらは取引の少ない銘柄には適応できませんので注意してください。

決済においては「上げ止まり、下げ止まりを確認して決済する」が短期売買の決済の基本です。売買サインや他の決済方法と併用しても良いと思います。

<仕掛け後の処理>　参考

仕掛け後の決済処理は前述の「上げ止まり、下げ止まりを確認して決済する」が決済の基本です。しかしこれらに至らず引かされてしまう場合があります。
これらに対処法としては。

「損切り」をする

短期売買のため損の幅が小さいうちに「損切り」をする。これらの場合は投資資金量や投資スタンスにもよりますが、損切りは「転換チャート」を利用すると良いと思います。損切りはつらいものですが、株式投資では避けて通れないことです。「利は損切りにあり」「損切りは最大のリスクマネージメント」であるといわれています。確率５０パーセントの投資の世界ではいかに損の幅を小さくするかがその後の成果に大きな差となって現れてきます。くれぐれも「損の幅が大きすぎて、いまさら切るに切れない」といったことにならないように。絶対に「少し様子をみてから」という行動は取らないようにして下さい。株式投資で「儲からない」ということは、すべてこの「損切りができない」ということに起因しています。

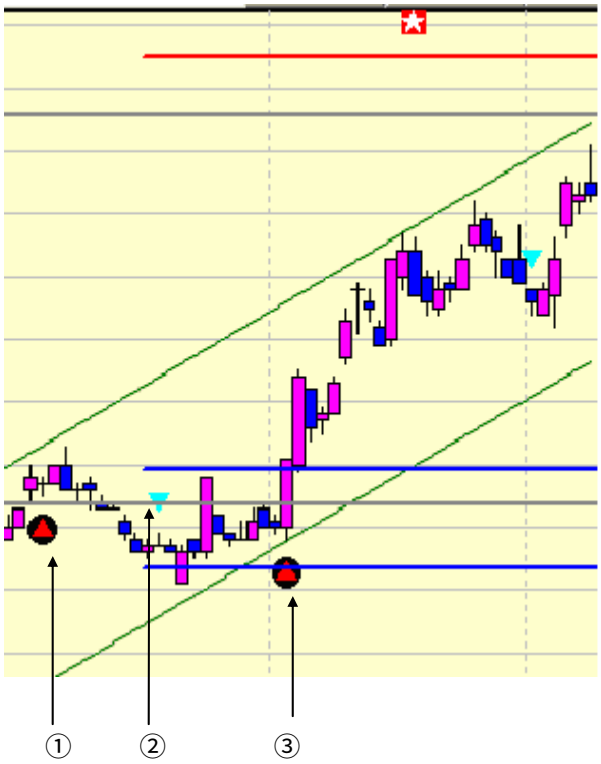
「つなぎ」を入れる。

（下記に示す「売買サイン」とは、(売)(買)マーク、売買シグナル、上昇・下降ゾーン等の売買サイン等を示します）

つなぎ売買は非常に多彩な売買手法であるため一言で説明すること難しいのですが、ここではその基本を解説します。
まず仕掛け後反対の方向に展開した場合、次の「売買サイン」で最初の仕掛けと反対の建玉を行います。つまり「買サイン」で買い付け後株価が下がってしまった場合、次の「売サイン」で空売りを行います。これで「買い　1」、「売り　1」となり、その後相場がどのような展開になっても損益は変わりません。同銘柄の両建てとなったわけです。

その後の判断が重要となってきます。売りサインの後は買いサインが出ますので(売買シグナル、上昇・下降ゾーンのみ)、その買いサインが出た時点で「相場観測指数」等を参考に上昇トレンドであれば「売り」をはずして（決済）して「買い建玉」を維持します。これで「買い　1」となります。もしこの時点で「相場観測指数」等が下降トレンドとなっていれば「買い」をはずして（決済）して「売り建玉」を維持します。これで「売り　1」となります。いずれもはずした玉は損切りとなりますが、これらを繰り返し売買することによって大きな損失は発生せず、売買技術の上達になります。

「買い仕掛け後に下げた場合」



①の買いサインで新規の買いを行う。しかしその後下降となり、②で売りサイン発生。ここで「つなぎ」の売りを行う。売り、買い両建となる。

その後③買いサイン発生で②の売りをはずし(決済)、現在①の買い建玉を持続している。

これらは(売)(買)マーク、上昇・下降ゾーン等でも利用できます。

つなぎ売買は、仕掛け後に引かされた場合のみに利用するだけではなく、利益を更に伸ばすためにも利用できます。たとえば買い仕掛け後、株価が順調に上昇し、ある程度利益が上がった時点で、「売りサイン」が出たとします。この時点で「空売り」を行います。これは利益確保のつなぎと言います。

その後、株価が大きく下がってしまった場合は、「買い」と「空売り」を同時に決済します。もし、今後相場が下降と判断したならば、買い建玉を処分して売り建玉を維持して下げを取ることもできます。

株価が下がってしまっても「空売り」した時点の利益は確保できます。またその後、株価が上昇し「買いサイン」が出た場合は「空売り」のみを決済し、最初の買い建玉は持続します。これらを繰り返して利益を伸ばして行きます。

「買い仕掛け後に上げた場合」

①の買いサインで新規の買いを行う。順調に上昇したが②で売りサイン発生。ここで「利益確保のつなぎ売り」を行う。

その後③買いサインが発生したため②の「利益確保のつなぎ売り」をはずす（決済)。

現在①の買い建玉を持続している。

これらは(売)(買)マーク、上昇・下降ゾーン等でも利用できます。

また、これらの「つなぎ売買」に分割売買を組み入れることによって、さらに高度な売買技法が可能となります。相場のプロと称される投資家はこれらの手法を巧みに操作して、どのような相場展開でも利益を上げています。

ところで、つなぎ売買を経験したことのない投資家からは決まって「そんな面倒くさいことをしないで、処分してしまえばいいじゃないの」と質問を受けます。「処分してしまえばいいじゃないの」と言われても、それができれば今頃相場で苦労しないで済むのでは・・・。実際に経験すると分かりますが、つなぎ売買は一見無駄なようにも見えますが、単発的な売買では味わえない相場の面白さやストレスのない売買が経験できると思います。つなぎ売買はほとんどのプロの相場師が利用しています。

プロといっても今後の相場展開が的確に読めるわけではありません。プロとアマチュアの違いは「損切り」と「つなぎ売買」ぐらいなものです。つなぎ売買を巧みに利用し高度な売買技術

で売買しているのがプロの相場師と言われている人たちです。
つなぎ売買は非常に魅力的な売買手法です。つなぎ売買はマスターする価値は大いにあると思います。

つなぎ売買は非常に多様で非常に便利な売買手法です。株式投資ではその判断には常に迷うものです。このような迷った場合に「つなぎ」を利用して売買することをお奨めいたします。つなぎ売買を利用することによって、また新しい相場の世界が開けるものと思います。

上記の解説はすべて「買い」に対しての「売りつなぎ」ですが、空売りを行なった場合は、「買いつなぎ」を行ないます。考え方は同様です。

ここでの「つなぎ売買」は売買シグナルを利用した「つなぎ」を解説いたしましたが、他の指標、たとえば(売)(買)マーク、上昇・下降ゾーン、ベクトルライン、トレンドライン、転換チャート等で判定を行なうことも可能です。

<周期性を利用した売買法>　参考

株価の周期性を利用しそのボトムで買い付け、トップで売却する、またはトップで空売りし、ボトムで買い戻すといった手法です。「周期性を利用した売買法」で重要なポイントは、規則的な周期性のある銘柄を選ぶということにあります。

規則的な周期性のある銘柄を選ぶには。
◆「複合検索」で検索する。
①「検索」画面の「複合検索」で周期性のある銘柄を選びます。
　〔02)周期相関〕を下限５０ポイント以上と設定します。銘柄が多く検索される場合は、
　６０・７０とポイントを上げて検索します。
②〔03)業績水準〕は一般的には「買い」の場合は「５」以上。「空売り」の場合は「５」以下とします。
③〔02)株価水準〕は「買い」の場合は「１」以下。「空売り」の場合は「１」以上とします。
④〔06)適正度〕等も任意で設定します。

上記の複数の条件で検索します。検索条件を調整しながら何度か検索してください。

◆「ランキング検索」でも検索できます。
〔10) 周期相関の高い銘柄〕をクリックして検索します。簡単ですので初めて実践される場合の方法としては最適です。この場合「周期相関」のみのランキングになりますので、検索されたリストの上位より他の条件も検証しながら見て行きます。

◆「クイック検索」の「【周期相関】の高い銘柄」でも検索できます。

以上の条件で検索された銘柄を、さらに転換チャートやベクトルチャート、プロフィットチャート等を考慮に入れ売買します。また相場動向や業績などに左右されますのでこれらも十分に検討してください。

周期チャートのボトムを確認することにより、次の高値の時期を予測することができます。

周期チャートのトップ　　周期チャートのボトム

「〔04〕個別銘柄指数」の「07)周期日数」で日数を確認する。
これは高値から高値での日数、安値から安値までの日数です。ということは高値から安値までの日数または安値から高値までの日数は「07)周期日数」で表示された日数の半分と言うことになります。これらにより安値から次の高値または高値から次の安値はいつ頃であるか予測がつきます。つまり周期チャートのトップやボトムの位置で今後の株価の高値、安値の時期がおおよそ見当をつけることができます。これらの予測に基づいて次の高値、安値を狙って売買します。

これらの売買法は一般的に、「スウィングトレード」あるいは「うねり取り」といわれています。これらの手法は大幅な利幅は求めず、細かな売買を積み上げていくという手法です。

<予測チャートを利用した売買法>　参考

株価の今後の展開を予測するのは非常に困難なことは周知の通りです。予測チャートについては、過去のシミュレーションで「効果あり」と認められた指数ですが、その運用方法にはいくつかの注意点があります。

予測チャートの現在より過去に表示されたチャートは、過去において予測した実績のチャートです。これらのチャートが過去の株価の値動きにほぼ一致している銘柄は、短期的にも今後の展開は予測チャートの展開に近い値動きとなる傾向が強く出ています。

そのため予測チャートを利用する場合は、できるだけ過去において予測チャートと株価の値動きのできるだけ似ている銘柄を選ぶことになります。

「予測チャート」
今後下降すると予測できる

周期チャートと合わせて判断するとより効果的です。

予測相関指数が高く、周期相関指数も高い銘柄がより効果的です。

◆「複合検索」の〔08)予測相関〕できるだけ数値の高い銘柄を検索します。
検索数値は最低で５０ポイント以上。大きければ大きいほど良い。検索されたリストの上位より他の条件も検証しながら見て行きます。「買い」であれば業績水準「５」以上、株価水準「１」以下。「空売り」であれば業績水準「５」以下、株価水準「１以上」等。

◆「ランキング検索」でも検索できます。〔11)予測相関の高い銘柄〕で検索します。簡単ですので初めて実践される場合の方法としては最適です。この場合「予測相関」のみのランキン

グになりますので、検索されたリストの上位より他の条件も検証しながら見て行きます。

◆「クイック検索」の「【予測相関】の高い銘柄」でも検索できます。

これら検索された銘柄から、できるだけ直近の値動きが予測チャートの値動きと近い銘柄を選びます。ここで注意していただきたいことは、今後の予測チャートが急騰を示しているので株価もその通り急騰するのではないかと考えがちですが、予測チャートは今後の株価の方向を予測するものであって、値幅を予測するものではありませんので十分注意してください。

予測チャートは、その銘柄の今後の予測値として表示されますが、銘柄によっては前後に若干の補正を必要とする場合があります。補正は日足チャート画面の「←補正→」ボタンにより株価の値動きと予測チャートができるだけ一致するように補正します。
株価の高値と安値、予測チャートの高値と安値が一致するように補正して今後の株価の予測を行うようにします。補正は自分の主観的な考えでは行わず、必ず高値と安値を見て行ってください。〔07)周期相関〕の高い銘柄は「予測チャート」の信頼性が高まりますので設定することをお奨めします。

その他の設定については、他の売買法と同様な設定をして検索条件を調整しながら何度か検索してください。

以上の条件で検索された銘柄を、さらに上昇・下降ゾーンやベクトルチャート、プロフィットチャート、抵抗線等を考慮に入れ売買します。また「予測チャート」も相場動向や業績などに左右されますので、これらも十分に検討してください。

<異常値、超異常値を利用した売買法>　参考

異常値、超異常値を利用した売買法は、急騰、急落場面での売買を行う逆張り手法です。逆張り手法は「買い」であれば株価が下落中に、ある程度決め打ち的に買いを入れるといった株価の流れに逆らった売買手法です。逆張り手法はよく一般的に利用されている手法ですが、たくさんある売買手法の中で、もっとも難しい手法です。しっかりした基準をもって売買されるべきです。

本システムであればベクトルチャートが下げ渋ってきた。プロフィットチャートが上昇傾向を示している。周期チャートがボトム近辺である。抵抗線近辺である等の総合的な条件の整った上で売買されるべきです。

逆張り銘柄を選ぶには。
①上記のいくつかの条件の整った条件のもとに売買します。
②逆張り銘柄の検索は「買い」であれば「複合検索」の「下値異常値」または「下値超異常値」を検索します。
③〔03)業績水準〕は一般的には「買い」の場合は「５」以上。「売り」の場合は「５」以下。
〔02)株価水準〕は「買い」の場合は「１」以下。「売り」の場合は「１」以上等。

④〔06)適正度〕等も任意で設定します。〔07)周期相関〕の高い銘柄は相場展開が読みやすくなりますので設定することをお奨めします。
⑤「下値異常値」および「下値超異常値」の発生する銘柄は株価変動幅が大きく、悪材料で急落した銘柄や仕手株、資本金の小さな小型株、店頭株などに多く「異常値」が頻繁に発生します。これらの銘柄の「異常値」で売買しても投資効率はよくありませんので、これらの銘柄は除外します。

上記の複数の条件で検索します。検索条件を調整しながら何度か検索してください。

以上の条件で検索された銘柄を、さらに転換チャートやベクトルチャート、プロフィットチャート等を考慮します。また相場動向や業績などに左右されますのでこれらも十分に検討してください。以上の条件の基に検索された銘柄をさらに、「上げ止まり」「下げ止まり」を確認して仕掛けを行います。また、異常値・超異常値が続いている間は見送り、これらのマークが消えた時点で仕掛けに入るといった方法も面白いと思います。

売買の手順

１.データ更新の確認。
東証、大証、店頭、週足などのデータの更新日付および更新時間を確認します。当研究所の都合により更新が遅れる場合もありますので必ず確認してください。

２.「短期相場観測指数」を確認する。
現在の相場が上昇トレンドか下降トレンドか確認する。またその水準も確認する。
「長期相場観測指数」も参考に中長期的な傾向を確認する。
「相場水準指数」「相場ゾーン指数」「過熱度指数」等を参考にする。
「短期相場観測指数」は、相場が短期間に上下するような相場展開となった場合には、「短期相場観測指数」の判定が実態の相場変動より若干遅れる場合があります。
このような場合は、「相場水準指数」を参考に総合的に判断してください。

３.「持ち株」が登録されていれば、本日の成績を確認する。
決済については、「買い処分」「売り処分」等、他の指標も参考にして判断する。
売買はできるだけ「損小利大」の売買を行う。

４.仕掛け銘柄の検索を行う。
「買い銘柄」「売り銘柄」「上昇ゾーン」「下降ゾーン」「本日の転換銘柄」「本日の注目銘柄」「適用ランク」の「売買」等を参考にする。また「クイック検索」「複合検索」「ランキング検索」「本日の売り・買い/上昇・下降銘柄の絞込み」等を駆使して仕掛け銘柄を選択する。

５.調査、検証を行う。
本解説書を参考に仕掛け候補銘柄の調査、検証を行う。注目銘柄は「お気に入り」に登録する。

６.持ち株を登録する。
仕掛け銘柄が成約したら「持株管理」に登録する。

以上のように、売買がスムーズに運ぶように各項目を検証する「チェックリスト」を作成し、仕掛け時、決済時には必ずチェックする習慣をつけるようにします。これらにより主観的、感覚的な売買から「数値」による客観的な売買が可能となります。

おわりに

当研究所では、株式投資における長い投資経験により投資知識や株式分析法、投資手法については自信と実績があります。これらの積み上げられた投資技法により本システム「スピードマスター・プロ」が構築されております。当研究所は株式投資に対して常に正面から真剣に取り組み、より実戦的で直接収益につながるシステム開発に努力してまいりました。今後もこの姿勢は変わらず、投資家の皆様の投資活動に多少なりともお手伝いできるよう努力して参ります。

当研究所が長年培ってまいりました投資技法につきましても、コメント欄等において公開し、投資家の皆様の投資技術向上に貢献して参りたいと考えております。今後の投資システム構築に際しては、常に多く皆様のからのご意見ご希望をお聞きしながら、できるだけ投資家の皆様のニーズに合ったシステム作りを心がけます。

本システムは最高レベルの株式分析システムであり、また使用されている手法や指標もすべて当研究所が独自に研究開発した指標であるため、一部には難解なところもあると思われます。本システムで実践する場合、本システムの売買手法を十分理解され、その上でシミュレーション(模擬売買)を行ない、すべてマスターされた後に実践に入るようお願いいたします。

株式投資とは長い時間をかけて運用利益を積み上げていくものです。間違った考えやその投資手法では一時的に利益を上げることができても、投資の基本から外れていてはいずれ市場から撤退せざるをえない結果になります。

株式投資の基本は難しいことではなく誰でも知っているシンプルな方法なのです。間違った考え方を排除し投資の基本に忠実に実践して、そして正しいリスクマネージメントを行うことによってのみ成功するものであると考えます。

正しい投資の基本を理解し、投資家自身に合った確固たる投資手法を身につけてい頂きたく願うところです。

『将来は現在の決断の結果です。今を変えなければ将来は何も変わりません。』

ＳＰＳ研究所の株式投資支援システム

スピードマスター・プロ

（ 操作方法と指標の解説　　）
（ 投資理論と運用マニュアル ）

- Version 2.0 -

発行　**ＳＰＳ研究所**
150-0043　東京都渋谷区道玄坂　2-20-26-509

電話　03-3770-2448
ホームページ　　http://spsnet.jp
メールアドレス　spsnet@spsnet.jp

無断転載禁止